

[EspressReport ES] Version7 新機能ガイド

株式会社クライム



作成日: 2017/03/30(木)

バージョン: 1.0

目次

1 はじめに.....	4
1.1 範囲.....	4
1.2 対象バージョン	4
2 新機能リスト	5
2.1 EspressReport ES の基幹新機能	5
2.2 Dashboard Builder の新機能	5
2.3 Quick Designer Reports の新機能.....	5
2.4 QuickDesigner Charts の新機能.....	6
2.5 Online Maps の新機能.....	6
2.6 SVG Maps の新機能	6
3 Quick Designer と Map Designer のデータ.....	7
3.1 データソースの選択	7
3.2 クエリ.....	8
3.2.1 フィールドの選択	8
3.2.2 カラムの作成	9
3.2.3 暗号化されたデータのクエリ	10
3.2.4 条件の設定	13
3.2.5 SQL クエリの閲覧.....	22
4 オンラインマップ	24
4.1 Dashboard Viewer — チャートタイプの変更	26
4.2 Dashboard — チャート、レポート、マップの追加	27
4.3 レスポンシブ ダッシュボード.....	29
4.4 チャート／レポート／マップのツールバー — Refresh Template	31
4.5 レポートの書式設定 — QuickDesigner Reports	31
4.5.1 ツールバー.....	31
4.5.2 列の追加	31
4.5.3 列の削除	32
4.5.4 サイド画面の非表示	32
4.5.5 列幅の変更	33
4.5.6 列の順番	34
4.5.7 行表示の追加.....	34
4.5.8 レポートスタイル	34
4.5.9 ページネーションとスクローリング	35
4.5.10 レポートタイトル	38
変数を使用したレポートタイトル	38
4.6 パラメータ設定.....	41
4.7 集約／グループ	42
4.8 データフォーマット	45
4.9 データのフィルタ	50
5 データマッピングとオーダリング — QuickDesigner Charts.....	51

5.1 マッピングとオーダリングのオプション	51
5.2 データマッピングの変更	53
5.2.1 パラメータ設定	53
5.2.2 ツールバー	54
5.2.3 特定チャートオプション	55
5.2.4 ダイアル (Dial) チャート	55
5.2.5 パイ/ドーナツ (Pie / Doughnut) チャート	57
5.2.6 HLCO チャート (ローソク足チャート)	60
5.2.7 ガント (Gantt) チャート	60
5.2.8 ポーラ (Polar) チャート	62
6 オンラインマップの起動	63
6.1 オンラインマップの起動	63
6.2 オンラインマップの保存	63
6.3 ヒートマップ	65
6.3.1 マップオプション	67
6.3.2 Coordinates の作成	69
7 SVG イメージの変更 — SVG Maps	78
8 更新履歴	79

1 はじめに

- 本ドキュメントに記載されたイラスト、写真、文章の一部またはすべてを無断で複製、転載することを禁止します。
- 本ドキュメントは製品を購入されたお客様、評価版をご使用のお客様向けに株式会社クライムが提供しております。

1.1 範囲

本ドキュメントは、[EspressReport ES]の新機能について記載しております。

1.2 対象バージョン

本ドキュメントは、以下の製品のバージョンに対応しております。

- [EspressReport ES] Ver. 7.0

2 新機能リスト

EspressReport ES の Version 7.0 には以下の新機能が追加されました。各機能の詳細はそれぞれのリンク先を参照してください。

2.1 EspressReport ES の基幹新機能

1. Quick Designer と Map Designer のデータレジストリダイアログが統一され、クエリとその実行結果の閲覧や、各種パラメータ値によるテストが可能になりました。ユーザは必要なクエリを簡単に見つけ出すことができます。詳細は [Quick Designer と Map Designer のデータ](#) を参照してください。
2. Quick Designer と Map Designer のスタートページにツールの使い方をわかりやすく図解するダイアグラムが追加されました。エンドユーザがツールの使用法をすばやく簡単に理解できるようになります。詳しくは [オンラインマップ](#) を参照してください。

2.2 Dashboard Builder の新機能

1. ダッシュボードのプレビューでチャートタイプが変更できるようになり、ダッシュボードの内容をより管理しやすくなりました。詳しくは、[Dashboard Viewer - チャートタイプの変更](#) を参照してください。
2. Dashboard Builder から直接 Report/Chart/Map Designer を開けるようになり、レポート、チャート、マップの更新や新規作成がとて簡単になりました。詳しくは、[Dashboard - チャート、レポート、マップの追加](#) を参照してください。
3. 通常の Dashboard に加え、新しいダッシュボードタイプとして Responsive Dashboard が追加されました。Responsive Dashboard は、ユーザ既定の画面幅を超えることなく、表示を最適化し、モバイル環境に適した画面表示を提供します。詳しくは、[レスポンシブ ダッシュボード](#) を参照してください。
4. [Refresh Template アイコン](#) がツールバーに追加され、個々のレポート、チャート、マップを、ダッシュボード上で、実際のデータでテストするのが容易になりました。

2.3 Quick Designer Reports の新機能

1. UI がより簡単になり、Select Data source と Construct Report の 2 ステップのみの構成に変わりました。
2. レポートの作成と書式設定が単一の UI から作業しやすくなりました。レポートを作りながら見た目を確認でき、柔軟な編集が可能です。詳しくは [レポートの書式設定](#) を参照してください。
3. レポートの列の追加や順番変更がマウスドラッグで簡単にできるようになり、レポートのデザインがしやすくなりました。
([列の追加](#)、[列の順番](#) 参照)
4. レポートの列を右クリックするだけで、Aggregation/Format/Remove の手順が単純明快になりました。([集約/グループ](#)、[データフォーマット](#)、[列の削除](#) 参照)
5. データのフィルタ処理が MS Excel のようなわかりやすいアイコンで、列のヘッダから直接操作できるようになりました。
([データのフィルタ](#) 参照)
6. レポート画面の右に用意された Parameters ペインがレポートのテストを容易にします。([パラメータ設定](#) 参照)
7. ツールバーのアイコンが整理・淘汰され、格段にわかりやすくなったので、無駄な手間が省かれます。([ツールバー](#) 参照)
8. サイド画面が表示・非表示が自在に制御でき、レポート作成スペースをより活用できるようになりました。([サイド画面の非表示](#) 参照)

2.4 Quick Designer Charts の新機能

1. UI がより簡単になり、Select Data source と Construct Chart の 2 ステップのみの構成に変わりました。
2. 設定とチャートプレビューの両ペインが同じウィンドウに含まれ、単一画面で手軽にチャートをデザインできます。（[データマッピングとオーダリング](#)参照）
3. ツールバーが改善され、現在表示されているチャートのタイプにもとづき、チャート特定のオプションのみが表示されます。設定アイコンも含まれ、アイコン数が整理・淘汰されて、チャートデザイン作業がしやすくなりました。（[特定チャートオプション](#)、[ツールバー](#)参照）
4. Chart Preview ペイン内に用意されたパラメータ設定ボタンがチャートのテストを容易にします。（[パラメータ設定](#)参照）
5. サイド画面が表示・非表示が自在に制御でき、チャートデザインのスペースをより活用できるようになりました。

2.5 Online Maps の新機能

1. オンラインマップ（Online Map）は新しくデザインされた Google Map です。新規のマップ作成が非常に簡単になりました。詳しくは[オンラインマップの起動](#)を参照してください。
2. Online Maps では設定画面が左ペインに表示され、ポップアップのダイアログから設定するよりも手軽でユーザフレンドリーです。
3. マップ保存のダイアログは Organizer のディレクトリ構造をツリー表示するので、フォルダを見つけやすく、マップファイルを整理しやすくなりました。（[オンラインマップの保存](#)参照）
4. ヒートマップ（Heatmap）機能により、データ密度が可視化できます。詳しくは[ヒートマップ](#)を参照してください。
5. Map Designer でパラメータ設定ができ、作成中のマップを容易にテストできます。
6. サポートされるマップタイプが増え、幅広いニーズに対応します。（[マップオプション](#)参照）
7. 単純なマップポイントに代わり、様々な形状が自在に描けます。Coordinates Editor を使用して形状がデザインできます。（[Coordinates の作成](#)、[手動設定](#)参照）

2.6 SVG Maps の新機能

1. UI のデザインが見直され、マップの作成がより簡単になりました。
2. 作成済みの SVG イメージを変更できるようになりました。（[SVG イメージの変更](#)参照）

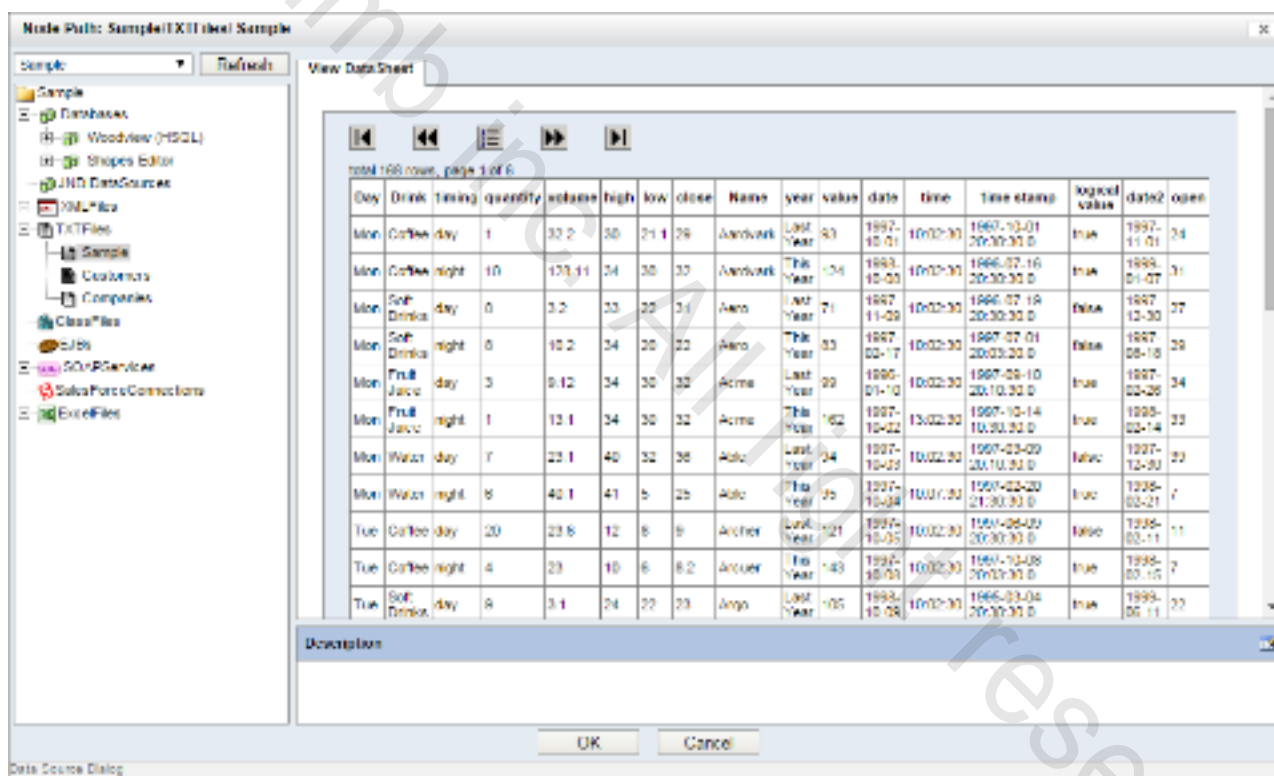
3 Quick Designer と Map Designer のデータ

3.1 データソースの選択

QuickDesigner Reports、QuickDesigner Charts、Online Maps および SVG Maps は、そのデータ管理のためにすべて同じインターフェースである Data Source Dialog（データソースダイアログ）を使用します。Data Source Dialog によって、データの選択やフィルタ、表示が、データベースの構造を完全に把握していなくてもできるようになり、しかも、クライアントシステムへのダウンロードは一切要りません。

Data Source Dialog では、まず使用するデータレジストリとデータソースを選択します。ユーザは Organizer に定義されたレジストリの 1 つに対し、読み取り権限を有していなければなりません。

左上部のドロップダウンメニューからデータレジストリを選択します。選択されたレジストリは下の画面のように表示されます。使用するデータソースを、当画面において選択します。



Data Source Dialog

データソースを選択したら、右側の View DataSheet ペインにソースのレコードが表示されます。データソースとして DataView を選択すると、右ペインの DataView Builder で DataView クエリを作成することができます。また、既存の DataView クエリを選択して、修正することもできます。

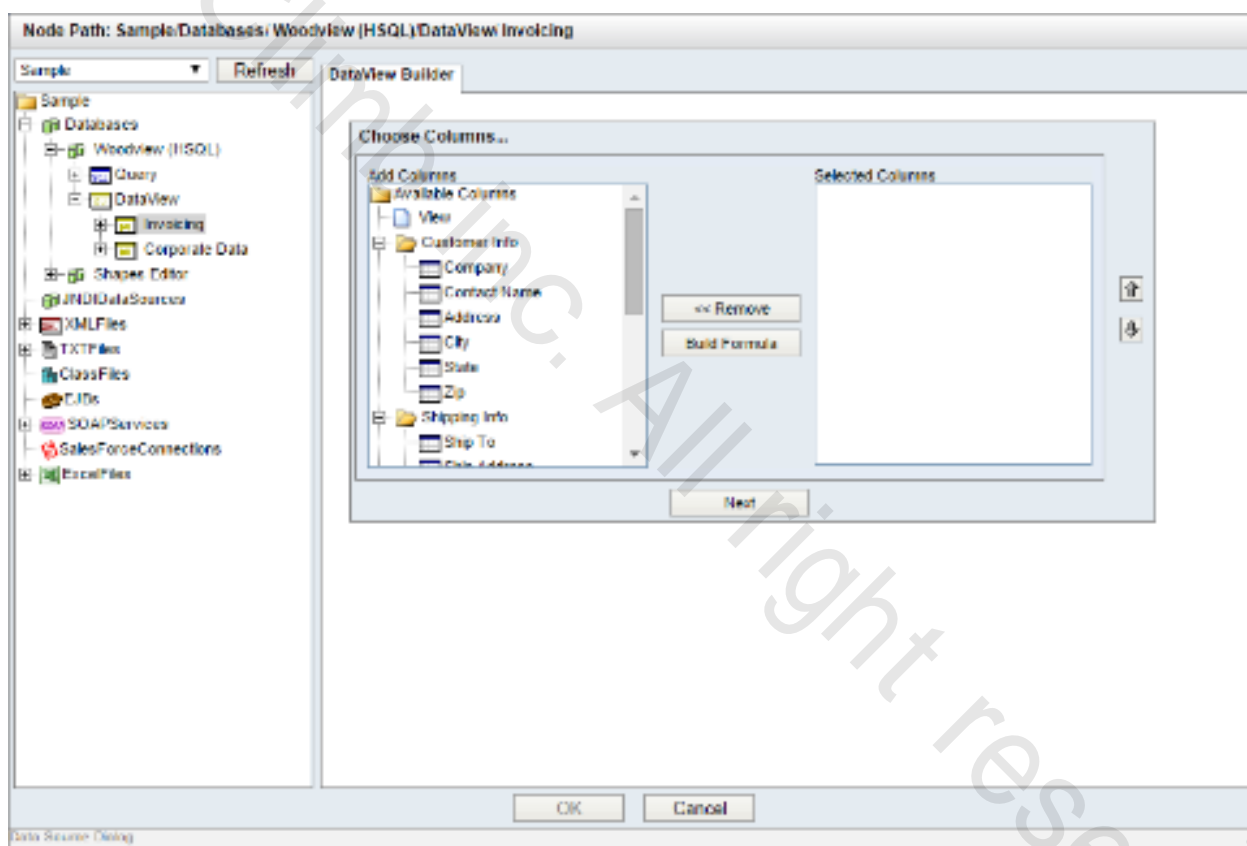
3.2 クエリ

クエリに関する作業は、Data Views を通じて行うことができます。システム管理者はデータベースからテーブルやフィールドをあらかじめ選択してローカルビューを作成することができ、それをもとにエンドユーザがクエリを実行できます。

データソースとして DataView または DataView クエリを選択すると、Data Source Dialog のクエリインタフェースが右ペインに開き、そこで DataView にもとづいてクエリを作成、修正することが可能になります。

3.2.1 フィールドの選択

データソースとして DataView を選択すると、右ペインに DataView Builder が開き、クエリに必要なフィールドを選択できるようになります。

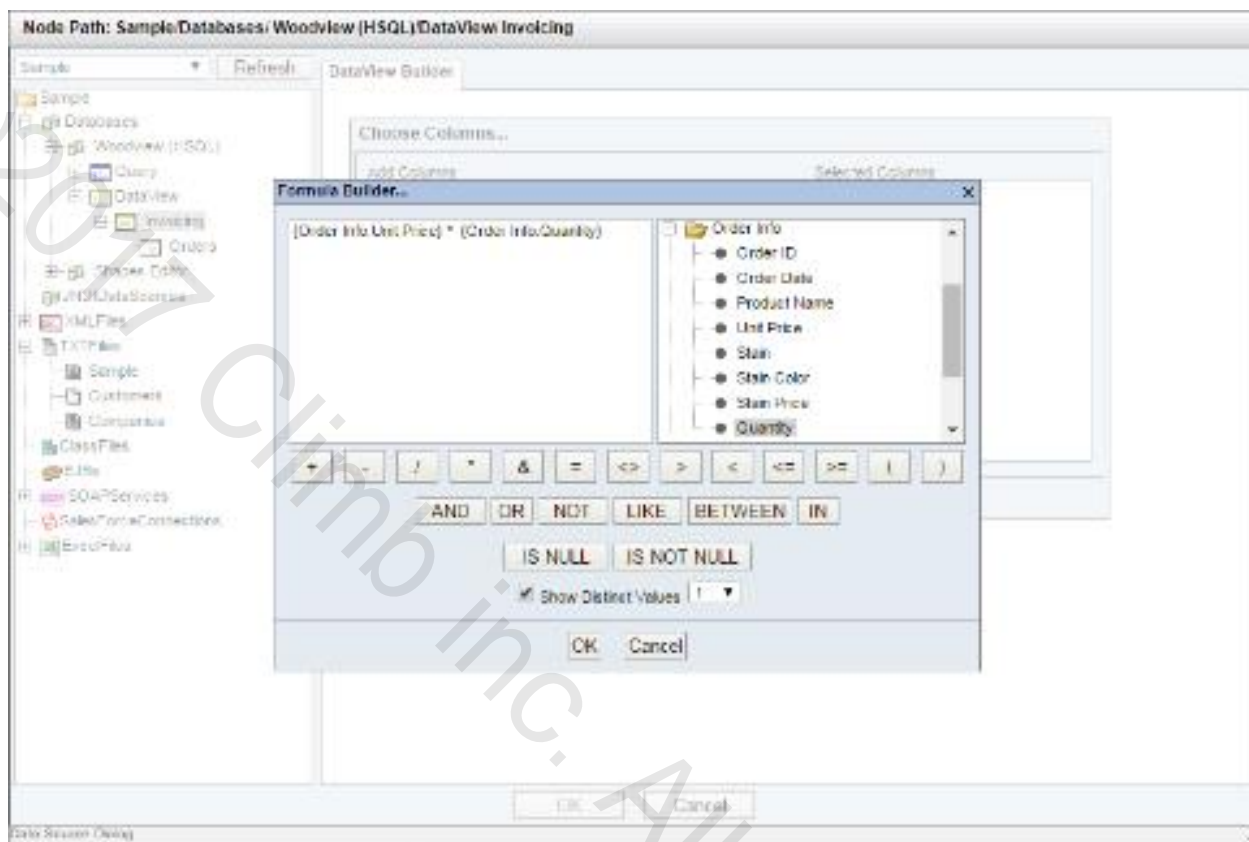


Select Columns Dialog

各カラム見出しの選択リストが DataView Builder の左側に表示されます。クエリ用にフィールドを選択するには、左側から適切なフィールドをクリックします。それにより、選択されたカラムが右側のダイアログに追加されます。フィールドを削除するには、右側からカラムを選択し、Remove ボタンをクリックします。

3.2.2 カラムの作成

Choose Columns ダイアログを通じ、計算式の入ったカラムを作成することができます。計算式カラムを作成するには、Build Formula ボタンをクリックします。それにより、Formula Builder が新規ウィンドウで開かれます。

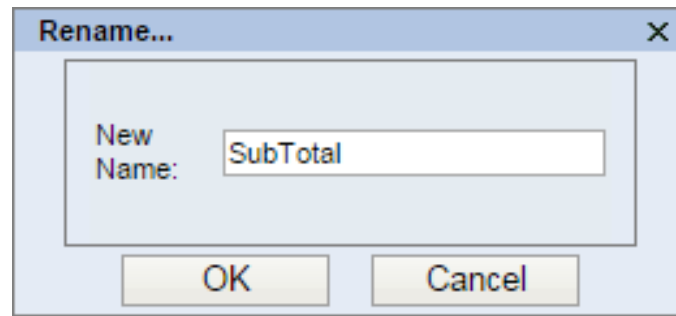


Formula Builder Window

Formula Builder の右側にはフィールドのリストが、データベース関数とともに表示されます。その最下部には使用可能な演算子や条件の選択ボタンが表示されます。もっともよく使われるブール演算子や条件演算子については、[条件の設定](#)を参照してください。

フィールドが作成されたら、OK をクリックして Formula Builder を閉じ、Choose Columns ウィンドウに戻ります。同ウィンドウにおいて、計算式を含むフィールドが Selected Columns リストに追加されます。計算式をリストから選択して、Modify Formula ボタンをクリックすれば、計算式を変更することも可能です。

計算式カラムにエイリアス（別名）を付加するには、同カラムを選択して Rename ボタンをクリックします。新ウィンドウが開かれ、そこでエイリアスを指定することができます。



Rename Dialog

使用するカラムをすべて選択したら、Next ボタンをクリックして条件を設定します。

3.2.3 暗号化されたデータのクエリ

データベースには、納税者データベースのマイナンバー（納税者 ID）や移民局データベースのパスポート番号など、一部のフィールドが暗号化されている場合があります。ERES システムにおいて、権限のあるユーザにオンラインで臨時レポートを作成・表示させ、暗号化されていない実際のデータ表示を許可するにはどうすればよいか、また暗号化／復号化キーを渡さずに復号化されたデータ閲覧をどのように許可するか、などの課題が生じます。

その場合、ERES（EspressReport ES）の高度な機能が、Quick Designer Reports や Menu Page または Report URL によるレポート実行時の自動復号化を可能にします。

そのためには、以下の 2 つの作業が必要になります。

1. データベース URL、データベースドライバ、復号化するカラム名、そしてデータ取得時に適用すべきファンクションを指定する XML ファイルを作成します。下記がその XML ファイルの一例です。

```
<?xml version="1.0"?>
<!DOCTYPE ReplaceColumnInfoList SYSTEM "QBReplaceColumnInfoList.dtd">
<ReplaceColumnInfoList>
  <ReplaceColumnInfo>
    <Driver>com.mysql.jdbc.Driver</Driver>
    <URL><![CDATA[jdbc:mysql://prodigy:3306/CAIT]]></URL>
    <TableName>user</TableName>
    <Pair>
      <ColumnName>user.SSN</ColumnName>
    <ReplaceValue><![CDATA[cast (AES_DECRYPT (user.SSN, '1111111111111111') as
    CHAR)]]></ReplaceValue>
    </Pair>
  </ReplaceColumnInfo>
</ReplaceColumnInfoList>
```

使用される DTD ファイルは以下の通りです。

```
<?xml encoding="US-ASCII"?>
<!ELEMENT ReplaceColumnInfoList (ReplaceColumnInfo*)>
<!ELEMENT ReplaceColumnInfo (Driver, URL, TableName, Pair)*>
```

```

<!ELEMENT Pair (ColumnName, ReplaceValue)>
<!ELEMENT Driver (#PCDATA)>
<!ELEMENT URL (#PCDATA)>
<!ELEMENT TableName (#PCDATA)>
<!ELEMENT ColumnName (#PCDATA)>
  <!ELEMENT ReplaceValue (#PCDATA)>

```

上記の例は、MySQL データベースを使用し、テーブル名が user、暗号化されたカラムが SSN の場合です。クエリが実行されると、ファンクション AES_DECRYPT(user.SSN, '1111111111111111')が、user.SSN を SQL ステートメントにおいて表われるすべての場所で置き換えます。復号化キーは 1111111111111111 です。

2. Admin Console (Server Options タブ、Security Options カテゴリー) において XML ファイルのパスを指定し、ERES サーバーを再起動します。

上記の設定が完了したら、Menu Page でレポートを実行するとき（生成されたレポート URL を用いるか、QuickDesigner Reports でレポートを生成するとき）暗号化されているカラムの値が復号化（デクリプト）され、実際の値が表示されます。

XML と DTD の例は <ERESInstallDir>/help/examples/DataDecryption/ディレクトリに保存されています。また、MySQL でサンプルデータを生成するためのスクリプトも参照可能です。

Menu Page、QuickDesigner Reports あるいはレポート URL を用い、下記のクエリによってレポートを実行すると、次の結果が得られます。

```
select user.firstName, user.lastName, user.SSN from user;
```

firstName	lastName	SSN
John1	Smith1	1111
John2	Smith2	2222
John3	Smith3	3333
John11	Smith11	11111

下記のクエリを実行した場合は次の結果が得られます。

```
select user.firstName, user.lastName, user.SSN from user where SSN LIKE '1%';
```

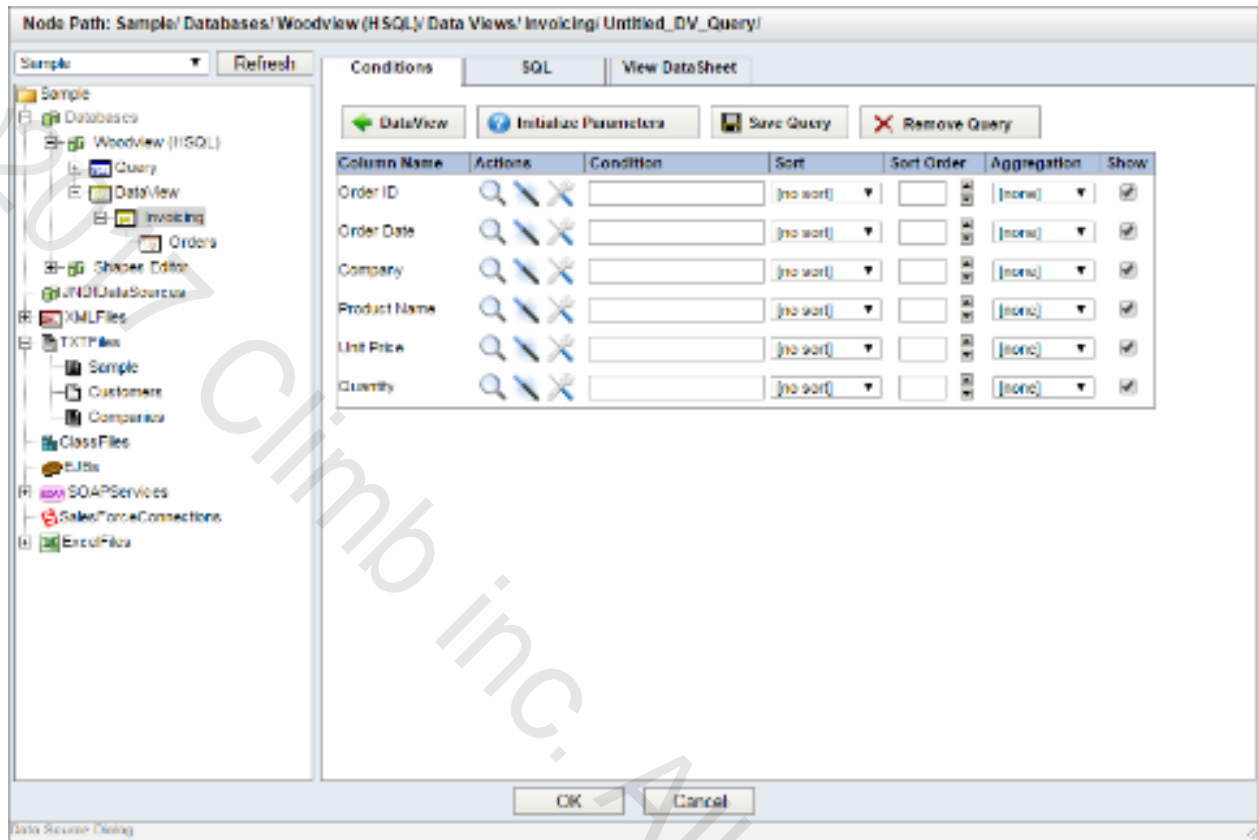
firstName	lastName	SSN
John1	Smith1	1111
John11	Smith11	11111

XML ファイルでは複数フィールドを指定することが可能です。同じテーブルからもう 1 つのフィールドを指定するには単に<pair>エレメントを追加するだけです。他のテーブルまたはデータソースからフィールドを追加する場合は、<ReplaceColumnInfo>エレメントを追加します。この機能は下位レポートやドリルダウンもサポートし、XML ファイルの情報に適合するフィールドはすべて復号化されます。

注：クエリで SQL を実行する場合、完全なフィールド名（フルネーム）を使用する必要があります。例えば、SELECT user.SSN FROM user は機能しますが、SELECT SSN FROM user は機能しません。

3.2.4 条件の設定

フィールドを選択した後、あるいはデータソースとして DataView クエリを選択した場合、条件設定のウィンドウが開き、選択されたカラムのフィルタ、グループ化、集約（aggregation）が設定可能になります。

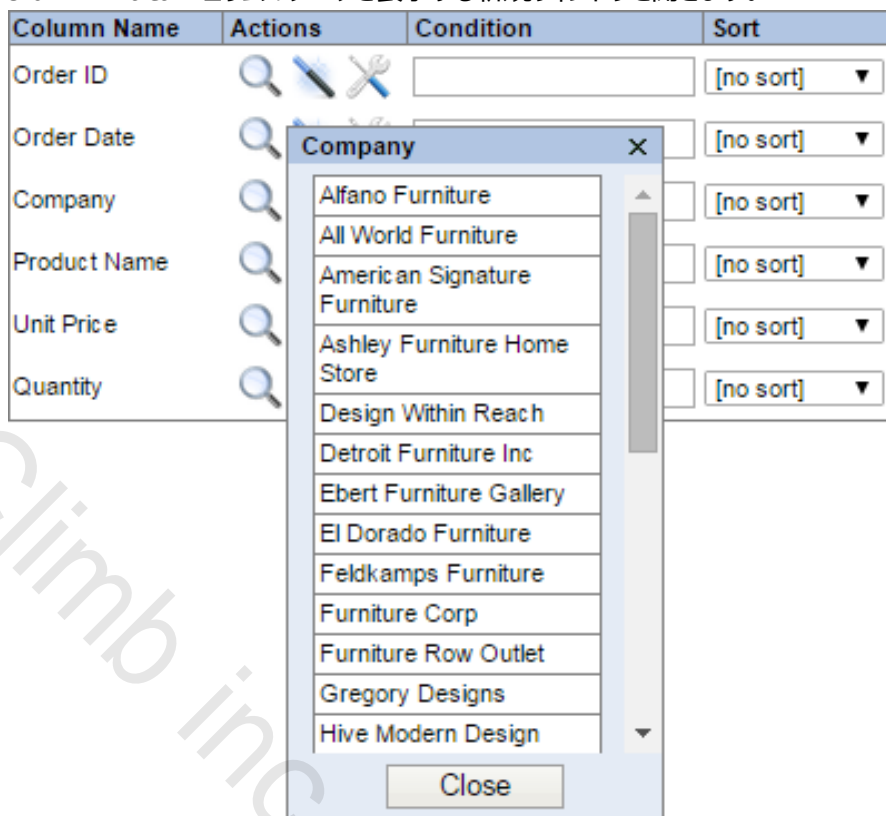


Conditions Dialog


選択されたカラムが、利用可能なオプションとともにリストされます。

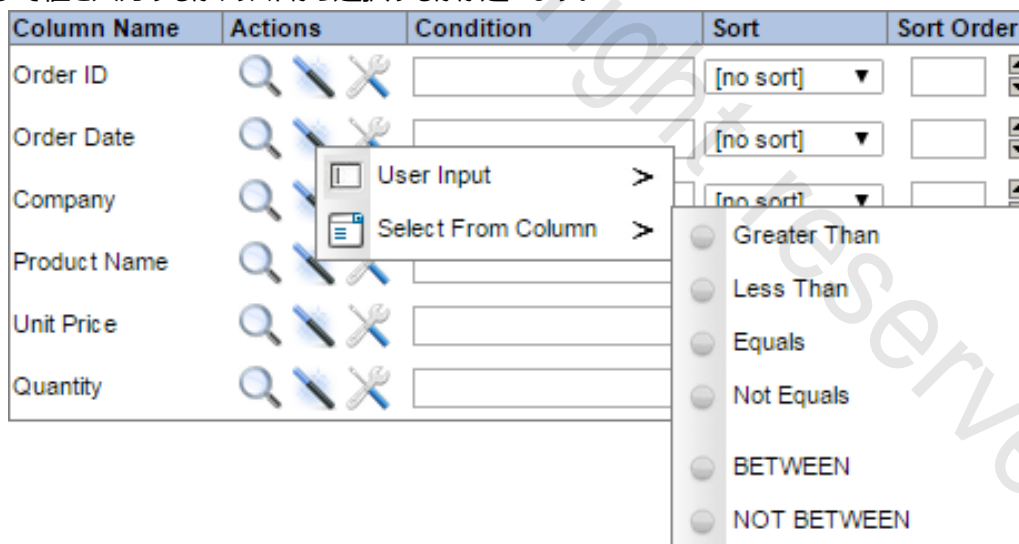
Actions:

Show Column Data: コラムのデータを表示する新規ウィンドウを開きます。



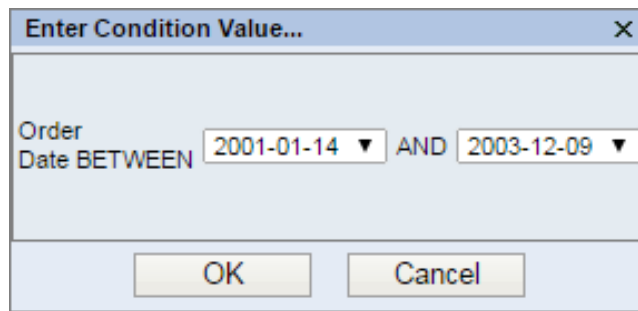
Show Column Data

 **Condition Wizard:** ダイアログが開き、フィールドからの条件設定が可能になります。最初のステップで値を入力するか、リストから選択するかが選べます。




Condition Wizard

条件を選択すると、新しいダイアログが開き、その条件に対して値の設定が可能になります。

A dialog box titled "Enter Condition Value..." with a close button (X) in the top right corner. The main area contains the text "Order Date BETWEEN" followed by two date pickers. The first date picker shows "2001-01-14" and the second shows "2003-12-09", with the word "AND" between them. At the bottom, there are "OK" and "Cancel" buttons.

Condition Value Dialog

値を選択し、OK をクリックします。条件が自動的に Condition フィールドに追加されます。

 **Build Condition:** Formula Builder を再起動し、条件に対する演算式の作成が可能になります。

Condition : カラムに対して、条件を入力することができます。

Sort : カラムがソートされるべきかどうか指定できます。昇順または降順を選択できます。


Sort Order : カラムをソートする際の優先順位を指定できます。

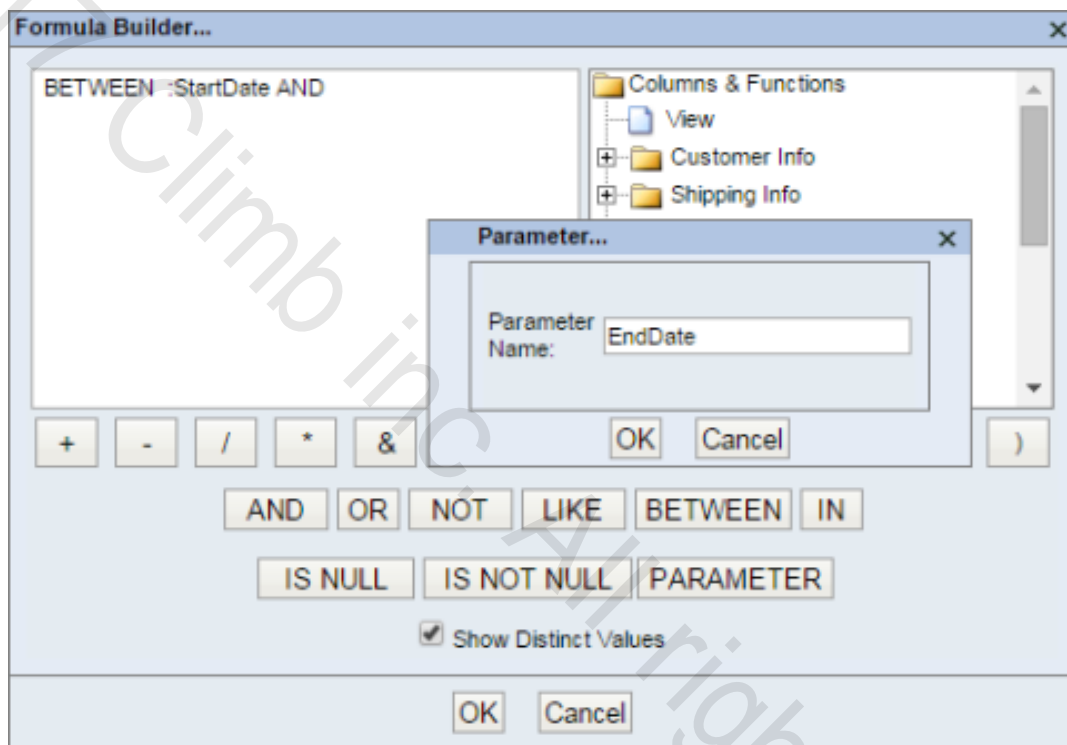
Aggregation : クエリ実行の際のグループ化あるいは集約 (aggregation) を指定できます。

Show : カラムの表示・非表示を指定できます。

パラメータ化クエリ

Data Source Dialog では、クエリのパラメータを定義することも可能です。パラメータは他のクエリインタフェースと同じ方法（": "の使用）で定義できます。条件フィールドに直接定義することも、:ParameterName の形式を用いて定義することも可能です。

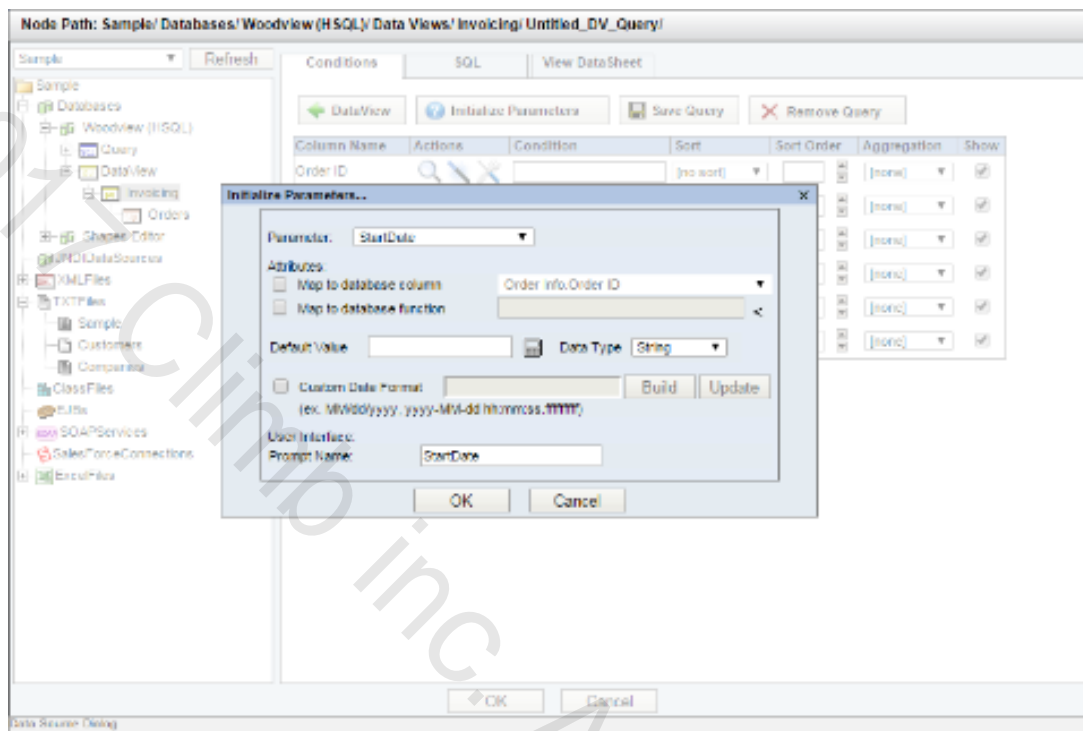
また、条件の作成時に Formula Builder でもパラメータを定義できます。その場合は、Build Condition ボタンをクリックして Formula Builder を開き、Parameter ボタンをクリックしてパラメータを挿入します。これにより、新しいダイアログが開き、パラメータ名の入力が可能になります。



Formula Builder でのパラメータ指定

クエリパラメータの初期化

クエリにパラメータを指定したら、初期化が必要になります。パラメータは Initialize Parameters ボタンをクリックすることにより初期化できます。View DataSheet タブをクリックしてクエリをプレビューした場合や、OK ボタンをクリックして Data Source Dialog を閉じた場合にも、初期化のダイアログが開きます。



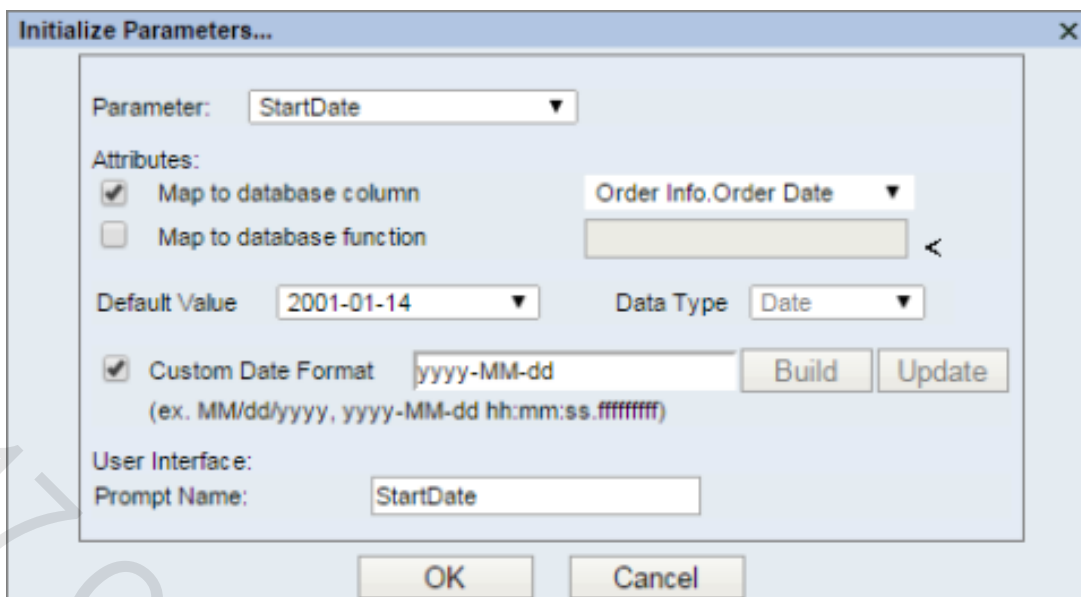
Initialize Parameter Dialog

ダイアログの先頭にあるドロップダウンリストは、どのパラメータが現在初期化対象であるかを表します。このリストから選択することにより、各パラメータにアクセスし、オプションを設定することができます。

以下のオプションが利用可能です。

- **Map to database column:**

データベースから、その値がパラメータ入力に使用されるカラムを選定できます。このオプションを選択すると、レポートやチャートの実行時に表示されるパラメータプロンプトが、その選択に合わせて調整されます。パラメータをデータベースのカラムにマップすると、パラメータ値の選択対象となる値のドロップダウンリストが表示されます。マップしない場合は、特定のパラメータ値の入力が必要になります。



Initialize Parameters...

Parameter: StartDate

Attributes:

☒ Map to database column Order Info.Order Date

☐ Map to database function

Default Value: 2001-01-14 Data Type: Date

☒ Custom Date Format: yyyy-MM-dd Build Update

(ex. MM/dd/yyyy, yyyy-MM-dd hh:mm:ss.ffffff)

User Interface:

Prompt Name: StartDate

OK Cancel

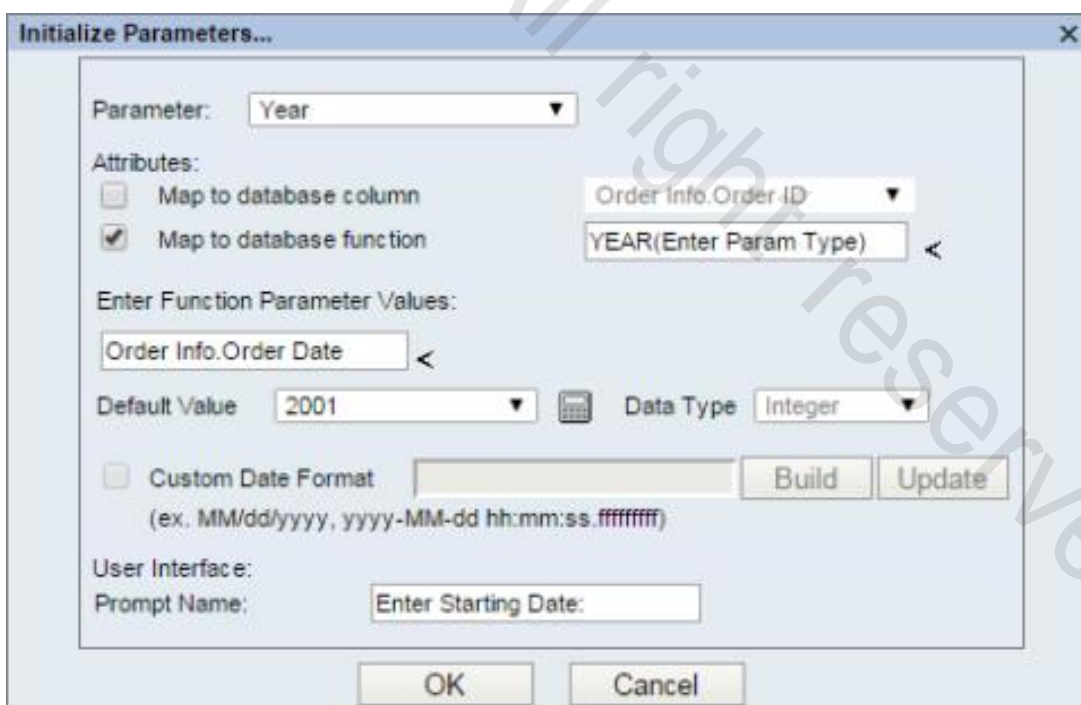
Initialize Parameter Dialog

- **Map to database function:**

パラメータをデータベースのファンクションにマップするのは、カラムにマップするのと基本的に同様のしくみです。データベースのいずれのファンクションの結果にもマップすることが可能です。例えば、クエリに下記の条件が含まれているとします。

```
Year({Orders.OrderDate}) IN (:OrderYear)
```

パラメータ初期化のダイアログで、Map to database function のチェックボックスを選択し、リストからファンクションを選んでパラメータ値を入力します。デフォルト値とデータタイプが自動的に更新されます。



Initialize Parameters...

Parameter: Year

Attributes:

☐ Map to database column Order Info.Order ID

☒ Map to database function YEAR(Enter Param Type)

Enter Function Parameter Values:

Order Info.Order Date

Default Value: 2001 Data Type: Integer

☐ Custom Date Format Build Update

(ex. MM/dd/yyyy, yyyy-MM-dd hh:mm:ss.ffffff)

User Interface:

Prompt Name: Enter Starting Date:

OK Cancel

Initialize Parameter Dialog

データベースによっては、利用可能なファンクションがパラメータタイプを特定しない場合があります。その場合、ファンクションパラメータフィールドが 1 つだけ存在し、通常より長くなります。ドロップダウンリストからカラムを選択す

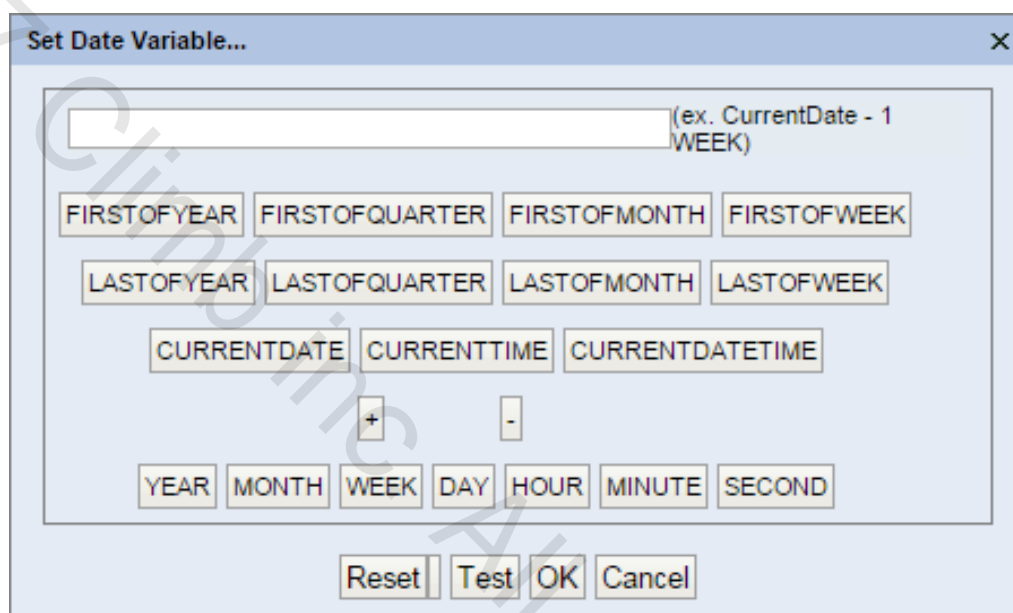
ると、フィールドに既存するテキストを置き換える代わりに、後部に追加されます。選択された関数のすべてのパラメータ値を、カンマで区切りながら入力する必要があります。フィールド以外の場所をクリックすると、デフォルト値フィールドに関数の結果が表示され、データタイプが自動的に決定されます。

- **Default Value:**

パラメータのデフォルト値が設定できます。デフォルト値の設定は必須ではありませんが、推奨されます。

- **Date Variable:**

パラメータがデータベースのカラムや関数にマップされていない場合のみ有効なオプションで、日付・時刻タイプのパラメータのみ対象です。ボタンをクリックすると、下記のパネルがポップアップし、有効キーワードがリストされます。


 The dialog box titled "Set Date Variable..." contains a text input field at the top with a placeholder "(ex. CurrentDate - 1 WEEK)". Below the input field are two rows of buttons: the first row contains "FIRSTOFYEAR", "FIRSTOFQUARTER", "FIRSTOFMONTH", and "FIRSTOFWEEK"; the second row contains "LASTOFYEAR", "LASTOFQUARTER", "LASTOFMONTH", and "LASTOFWEEK". Below these are three buttons: "CURRENTDATE", "CURRENTTIME", and "CURRENTDATETIME". Underneath these are two small buttons, "+" and "-". At the bottom of the main panel are seven buttons: "YEAR", "MONTH", "WEEK", "DAY", "HOUR", "MINUTE", and "SECOND". At the very bottom of the dialog are four buttons: "Reset", "Test", "OK", and "Cancel".

Enter Date Variable Dialog

上記のダイアログでは、CurrentDate、CurrentTime、CurrentDateTime の 3 種類のキーワードのうち 1 つを選択することができます。現在の日時から一定時間を加減して日時の範囲を柔軟に設定することができます。例えば、レポートに下記のデフォルト値が設定できます。

StartDate: CurrentDate - 1 WEEK

EndDate: CurrentDate

上記の例では、レポートが実行されるたびに、デフォルトのプロンプトは現在の日時から一週間前となります。YEAR、MONTH、DAY、HOUR、MINUTE、SECOND の単位を使用することも可能です。日時の加減が可能なのは一回のみで、複数値のパラメータはサポートされません。注：QuickDesigner Reports の日時（右側のパネル）はここで入力された変数に対応し、Report Designer のキーワードに対応するものではありません。

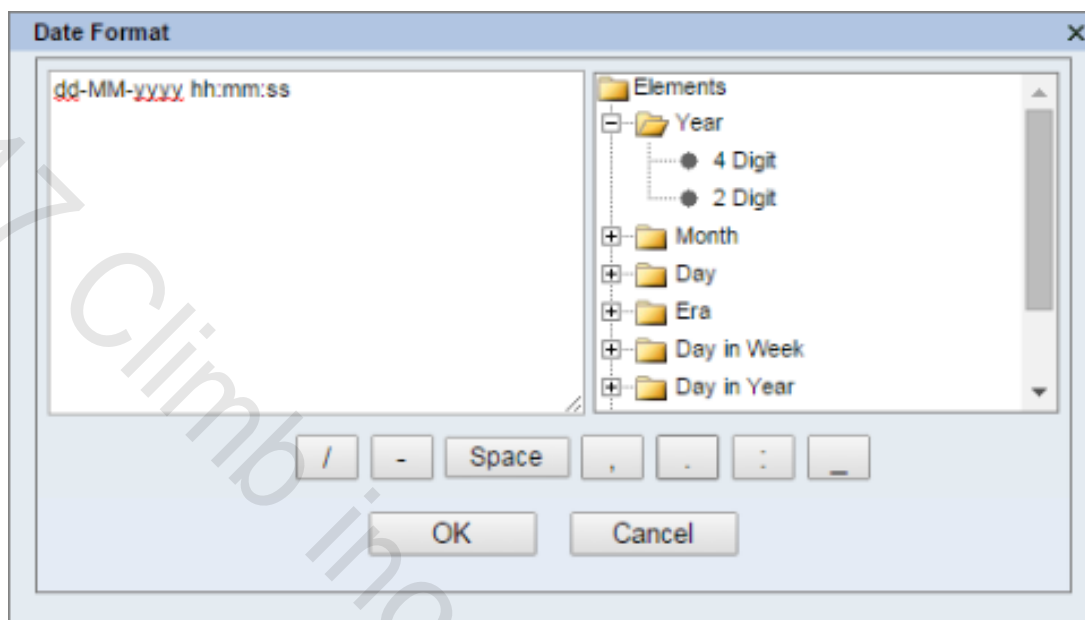
パラメータ値の定義には関数を使用することも可能です。

- **Data Type:**

パラメータ値にデータタイプを設定することができます。パラメータをカラムに設定済みの場合は、データタイプはそれに自動設定されます。

- **Custom Date Format:**

日時を入力する際の形式を設定できます。パラメータを日時カラムにマップした場合、あるいはパラメータを一切マップしていない場合で、パラメータのデータタイプが date、time、timestamp の場合のみ有効です。このオプションを選択すると、Builder のインタフェースから日時形式を設定するか、文字列を入力することによって日時形式を設定することができます。



Date Format Dialog

Build ボタンをクリックすると、上記のダイアログが表示されます。日時の表し方が右側にリストされ、使用する記号やスペースが下部にボタンとして提示されます。日時形式を作成したら、OK ボタンをクリックして保存できます。

日時の形式は、文字列とそれを分離する記号から成ります。文字が日時の異なる要素を表します。その設定方法の詳細は、printDate() report function のドキュメンテーションを参照してください。

パラメータをカラムにマップする場合、その形式の設定を終えたら update ボタンをクリックしてください。パラメータプロンプトに新しい形式が反映されます。

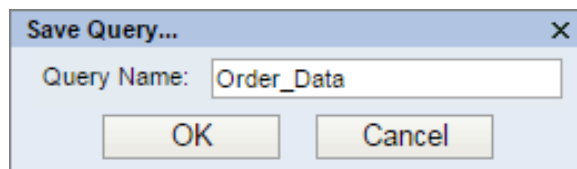
- **Prompt Name:**

パラメータダイアログで表示されるプロンプトを指定することができます。

すべてのパラメータに対する設定が完了したら、OK をクリックして変更を保存し、ダイアログを閉じます。

クエリの保存

最初に DataView クエリを選択していれば、作成したクエリやクエリの変更を保存することができます。クエリを保存するには、条件設定のウィンドウにおいて Save Query オプションをクリックします。それにより、クエリ名を指定するプロンプトが表示されます。

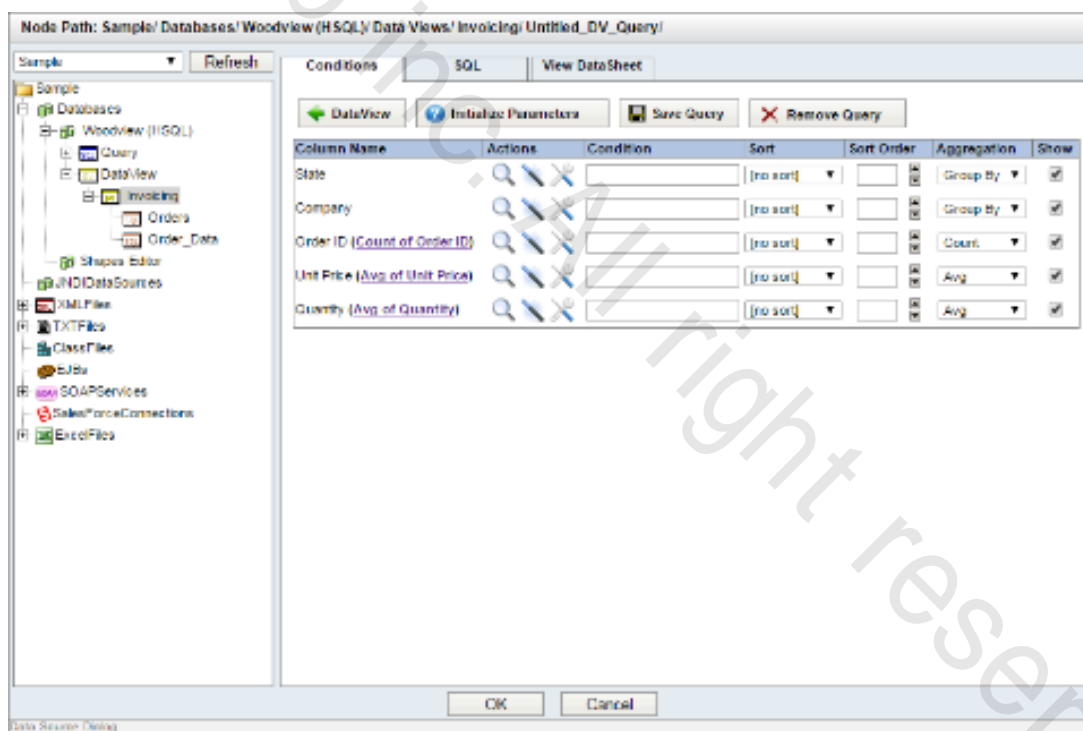


Save Query Dialog

クエリ名を指定したら、OK をクリックします。クエリはデータレジストリに、データビューの新しいノードとして保存されます。

集約 (aggregation) エイリアス

クエリに集約や Group By を追加した場合、集約されたフィールドにエイリアス（別名）を付けることができます。



Set Alias

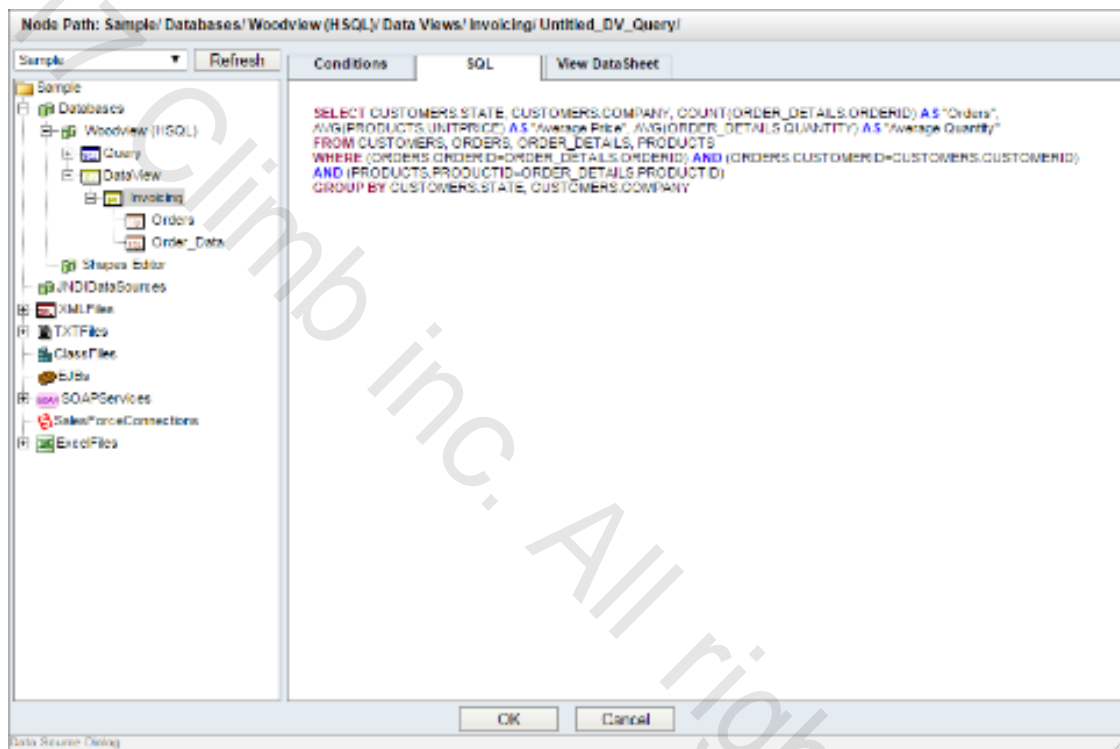
カラム名の横の下線付きオプションをクリックすると、ダイアログがポップアップされ、フィールドに名前を指定することができます。ここで指定された名前により、実際のフィールド名も置き換えられます。



Alias Dialog

3.2.5 SQL クエリの閲覧

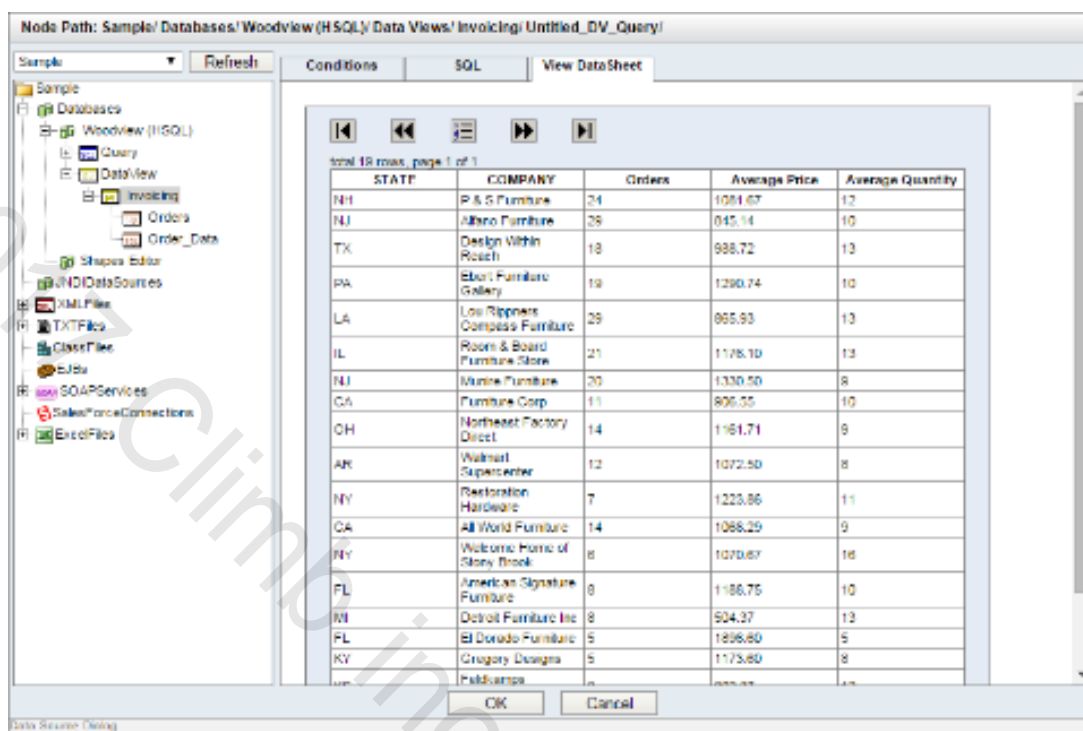
Data Source Dialog の SQL タブにおいて、作成済みのクエリが閲覧できます。



SQL View

クエリ結果のプレビュー

Data Source Dialog の View DataSheet をクリックすると、クエリがいつでもプレビューできます。



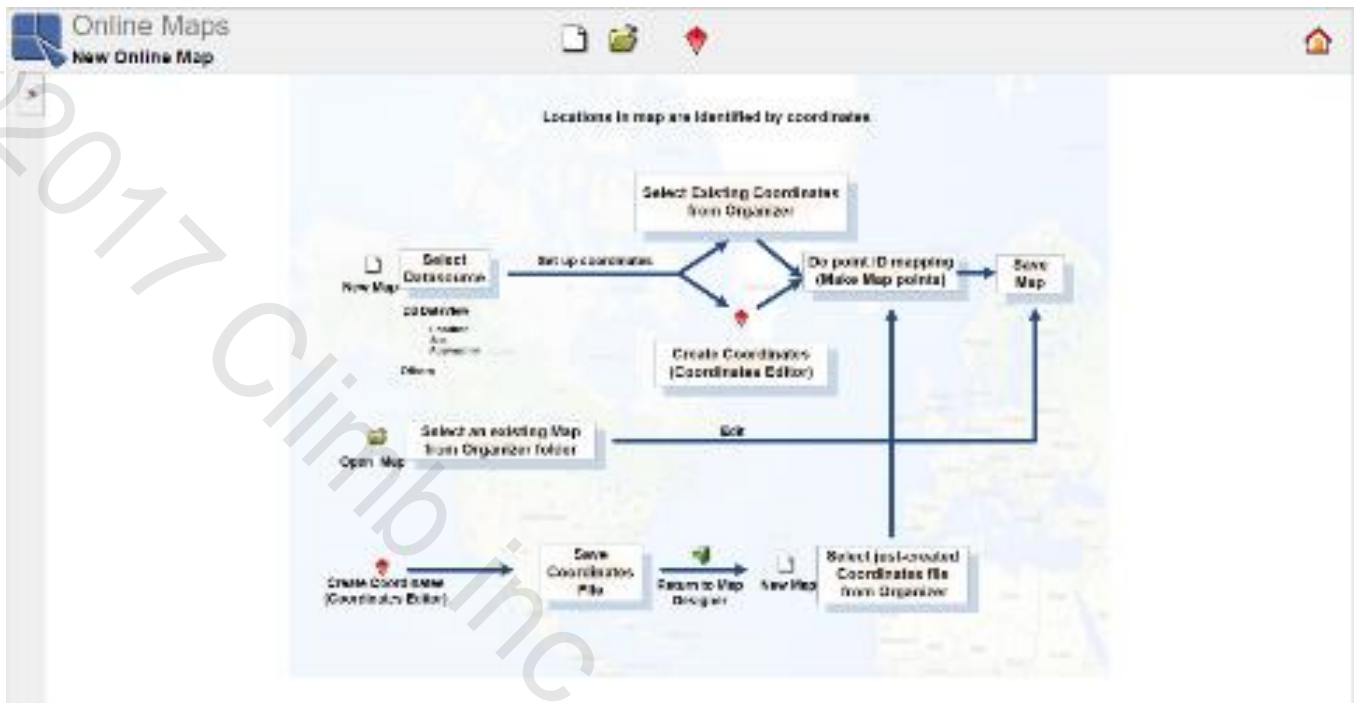
Query Results

ウィンドウ上部のアイコンを用いて、クエリの結果表示を下記の通りに制御できます。

- ◀ データテーブルの最初のページに行く
- ◀◀ データテーブルの前のページに行く
- ☰ ページ内の表示レコード数を設定する。別ウィンドウのダイアログが開き、レコード数が設定可能になります。
- ▶▶ データテーブルの次のページに行く
- ▶ データテーブルの最後のページに行く

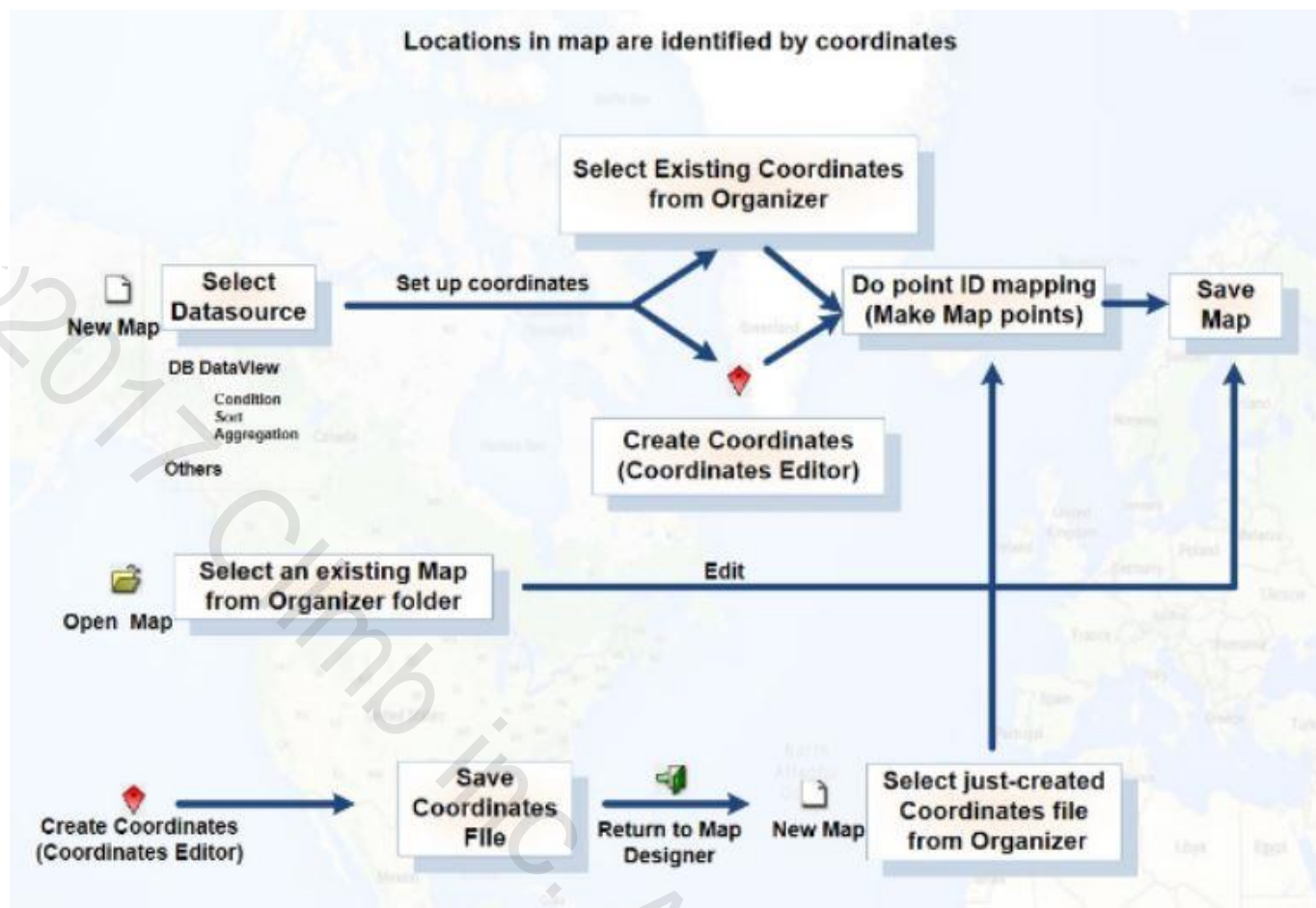
4 オンラインマップ

ERES メインページの Online Maps リンクをクリックすると、Online Maps（オンラインマップ）が開きます。最初に、オンラインマップの使用法を図解するダイアグラムを見ることができます。ユーザは新しいマップの作成や、既存マップを開く、Coordinates Editorを開いて Coordinates（座標）を作成・変更することができます。



Online Maps Start Options

拡大図

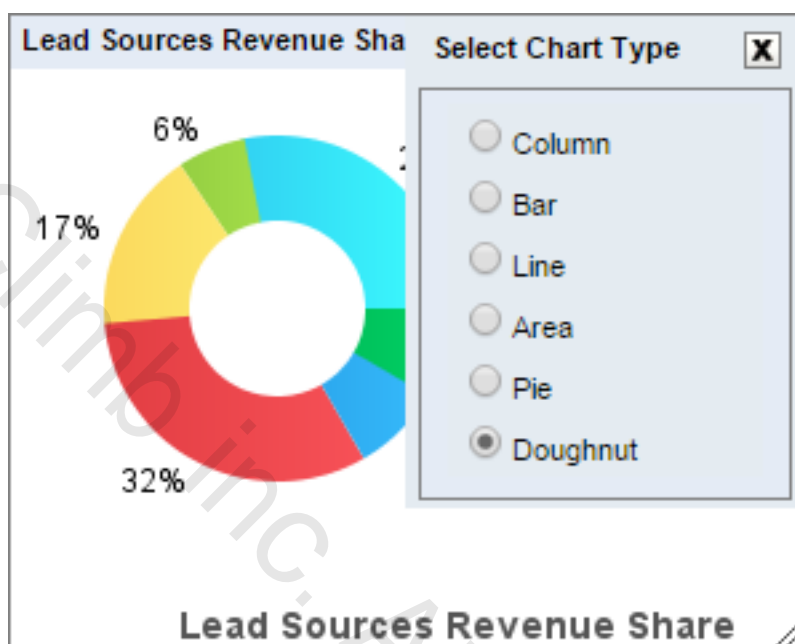


4.1 Dashboard Viewer — チャートタイプの変更


ダッシュボードのプレビューオプションにチャートタイプの変更が追加されました。

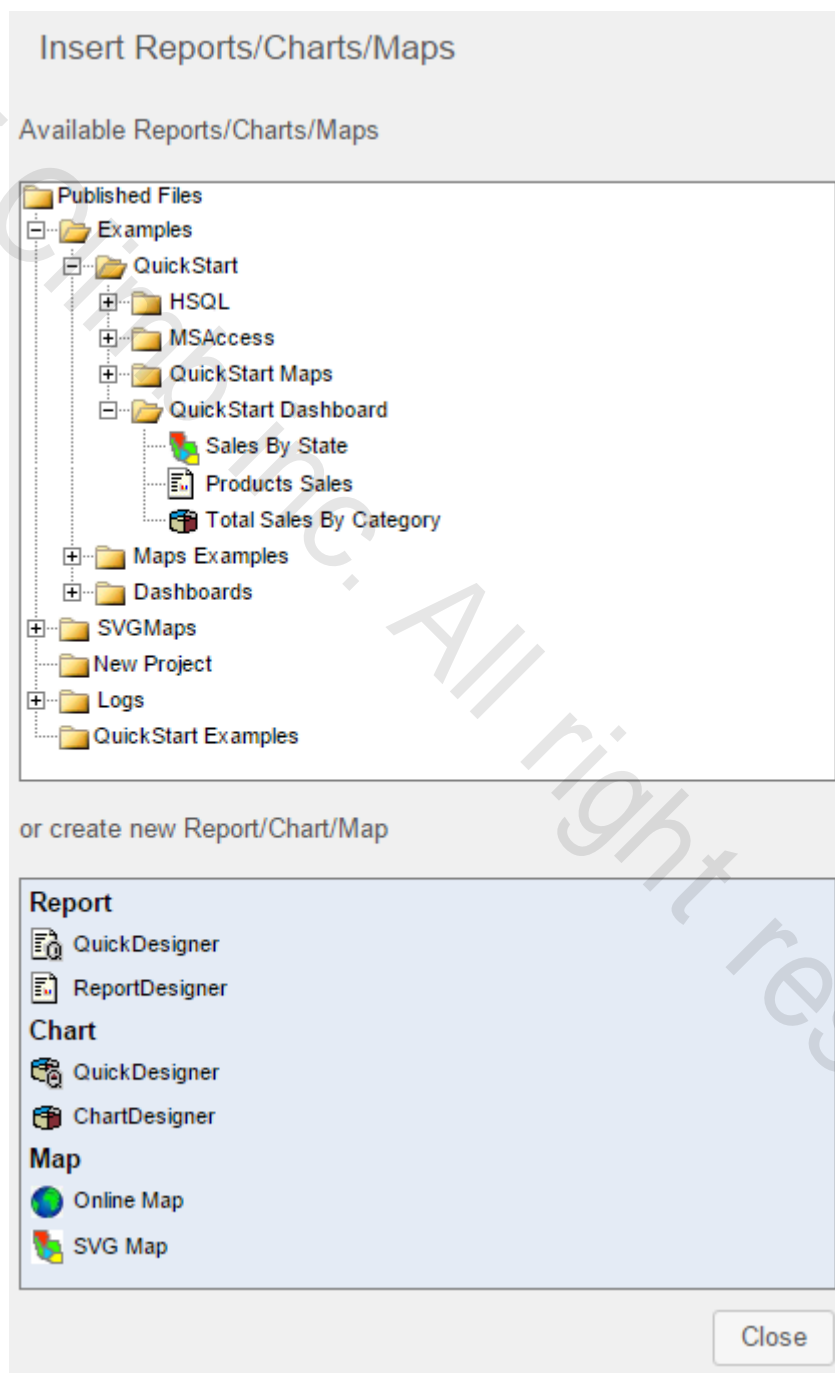
⚙️ Change Chart Type:

新しいダイアログを開き、チャートタイプを変更することができます。チャートタイプは Preview でのみ変更可能です。変更されたチャート表示を保存することはできませんが、エクスポートすることは可能です。




4.2 Dashboard — チャート、レポート、マップの追加

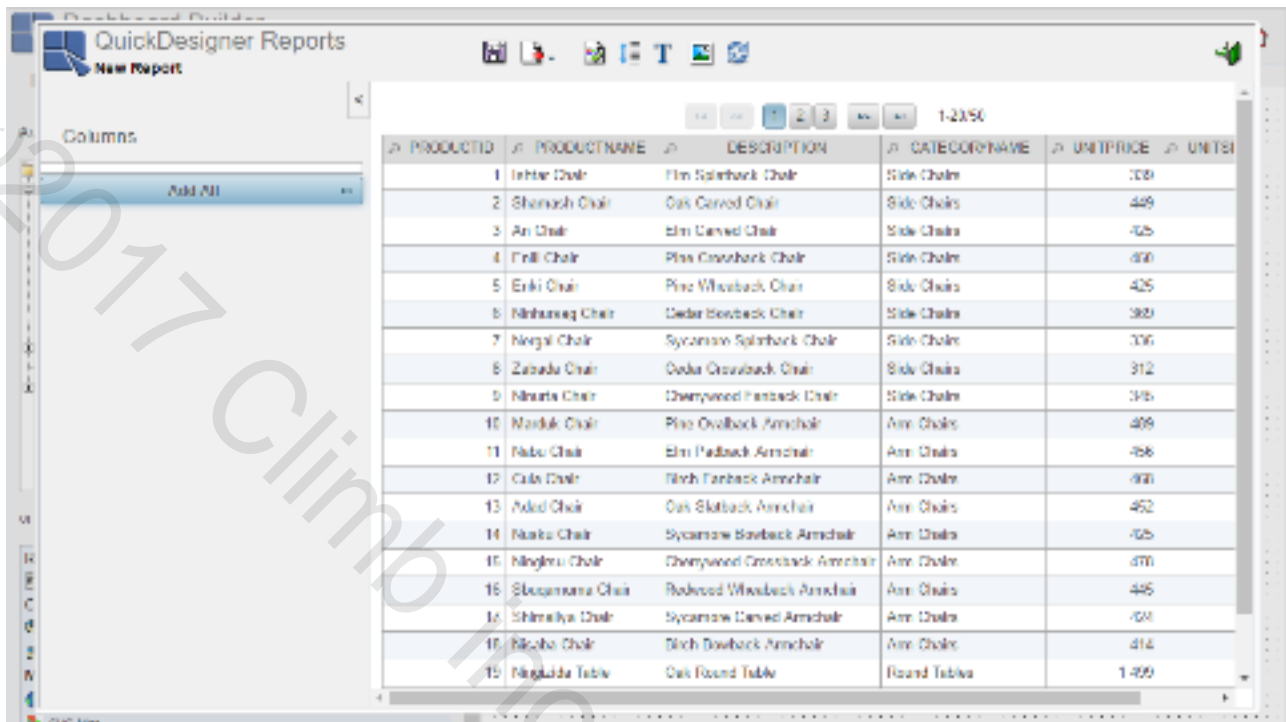
ダッシュボードにチャート、レポート、あるいはマップを追加するには、ツールバーの Add Report/Chart/Map ボタン  をクリックします。それにより、Insert Reports/Charts/Maps ダイアログが左ペインに開きます。ダイアログには、Organizer のフォルダ構造を表すツリーが表示され、アクセス可能なすべてのチャート、レポート、マップがリストされます。ツリー上のチャートやレポートをクリックすれば、ダッシュボードにチャート、レポート、あるいはマップが追加されます。



Insert Report/Chart/Map Dialog

また、Dashboard Builder から新規のレポート、チャート、マップを作成することもできます。Insert Reports/Charts/Maps ダイアログ（見出しは create new Report/Chart/Map）の下段にあるリンクをクリック

することにより、レポート、チャート、あるいはマップの相当する Designer が開きます。Designer で新規のレポート、チャート、あるいはマップを作成・保存し、Designer を閉じるか、Exit アイコン  をクリックすると、Dashboard Builder に戻ります。それにより、作成されたレポート、チャート、あるいはマップが Dashboard に追加されます。




QuickDesigner Reports

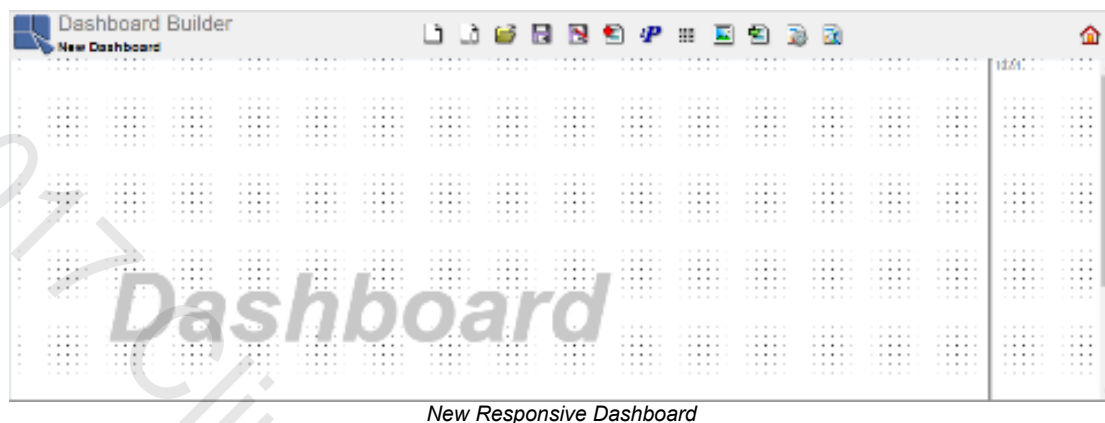
Columns: Add All

PRODUCTID	PRODUCTNAME	DESCRIPTION	CATEGORYNAME	UNITPRICE	UNITSALES
1	Lehrer Chair	Pine Splatback Chair	Side Chairs	108	
2	Shenandoah Chair	Oak Carved Chair	Side Chairs	449	
3	Am Chair	Birch Carved Chair	Side Chairs	405	
4	Enki Chair	Pine Crossback Chair	Side Chairs	400	
5	Enki Chair	Pine Windsor Chair	Side Chairs	425	
6	Nimbus Chair	Cedar Bowback Chair	Side Chairs	380	
7	Nimbus Chair	Sycamore Splatback Chair	Side Chairs	306	
8	Zanadu Chair	Oak Crossback Chair	Side Chairs	312	
9	Nimbus Chair	Cherrywood Parback Chair	Side Chairs	345	
10	Nimbus Chair	Pine Ovalback Armchair	Arm Chairs	409	
11	Nimbus Chair	Birch Padback Armchair	Arm Chairs	458	
12	Oak Chair	Birch Parback Armchair	Arm Chairs	400	
13	Adel Chair	Oak Slatback Armchair	Arm Chairs	452	
14	Nimbus Chair	Sycamore Bowback Armchair	Arm Chairs	405	
15	Nimbus Chair	Cherrywood Crossback Armchair	Arm Chairs	470	
16	Shenandoah Chair	Redwood Windsor Armchair	Arm Chairs	445	
17	Shenandoah Chair	Sycamore Carved Armchair	Arm Chairs	400	
18	Nimbus Chair	Birch Bowback Armchair	Arm Chairs	414	
19	Nimbus Chair	Oak Round Table	Round Tables	1499	

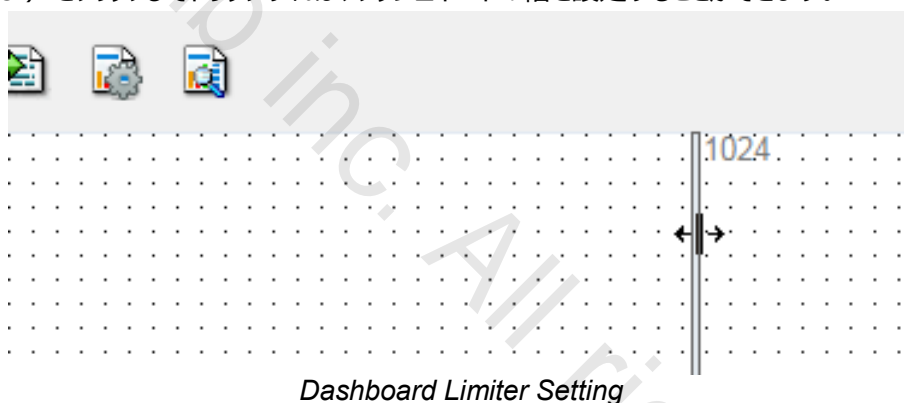
Dashboard Builder から開いた QuickDesigner Reports

4.3 レスポンシブ ダッシュボード

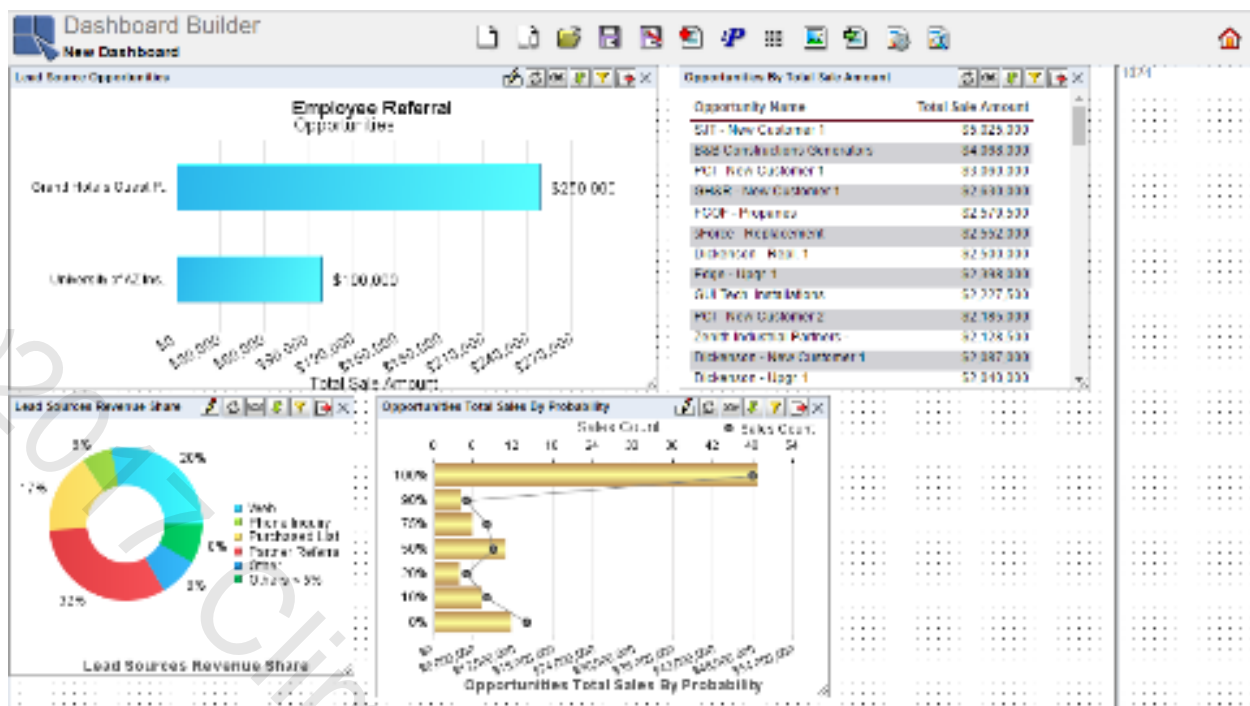
Responsive Dashboard（モバイル環境に適したレスポンシブデザインのダッシュボード）を作成するには、ツールバーの New Responsive Dashboard アイコン  をクリックします。



境界線（Limiter）をクリックしてドラッグすれば、ダッシュボードの幅を設定することができます。

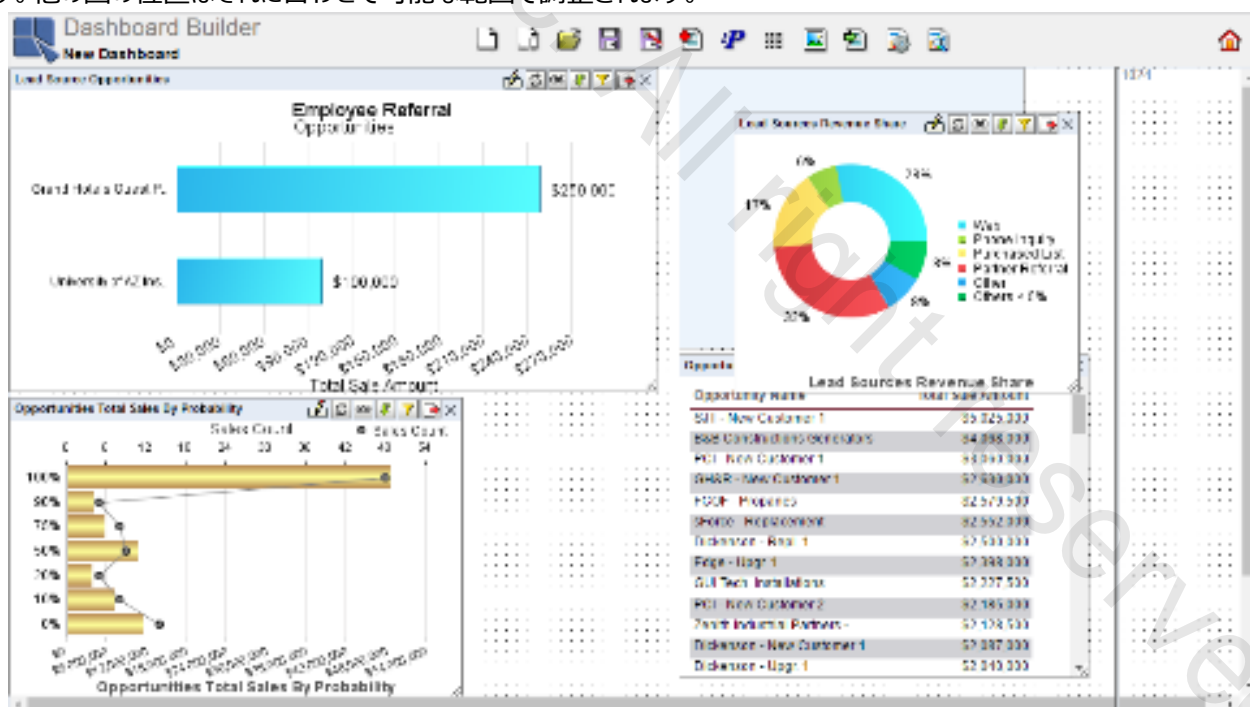


レポート、チャート、マップを追加した後でサイズ変更することもできます。画面幅はダッシュボードの幅を維持し、レポート／チャート／マップのレイアウトは自動的に調整されます。



Limiterをとまなう Dashboard

手動でレイアウトを変更するには、レポート／チャート／マップのヘッダをクリックし、マウスボタンを押したまま移動します。スペースが許す限り、四角い青枠が表示されます。マウスボタンを放すと、対象図が移動し、青枠の位置に表示されます。他の図の位置はそれに合わせて可能な範囲で調整されます。




Dashboard レイアウトの変更

注：Responsive Dashboard にラベルやフォルダを挿入することはできません。また、コンポーネントヘッダバーも表示できません。したがって、プレビューもしくはパブリッシュされたダッシュボードにおいてダイナミックチャートはサポートされません。

4.4 チャート／レポート／マップのツールバー — Refresh Template












ダッシュボード上の個々のレポート／チャート／マップに提供されるツールバーに Refresh Template が追加されました。

 **Refresh Template** — ボタンをクリックすると、テンプレートが更新されます。

4.5 レポートの書式設定 — QuickDesigner Reports

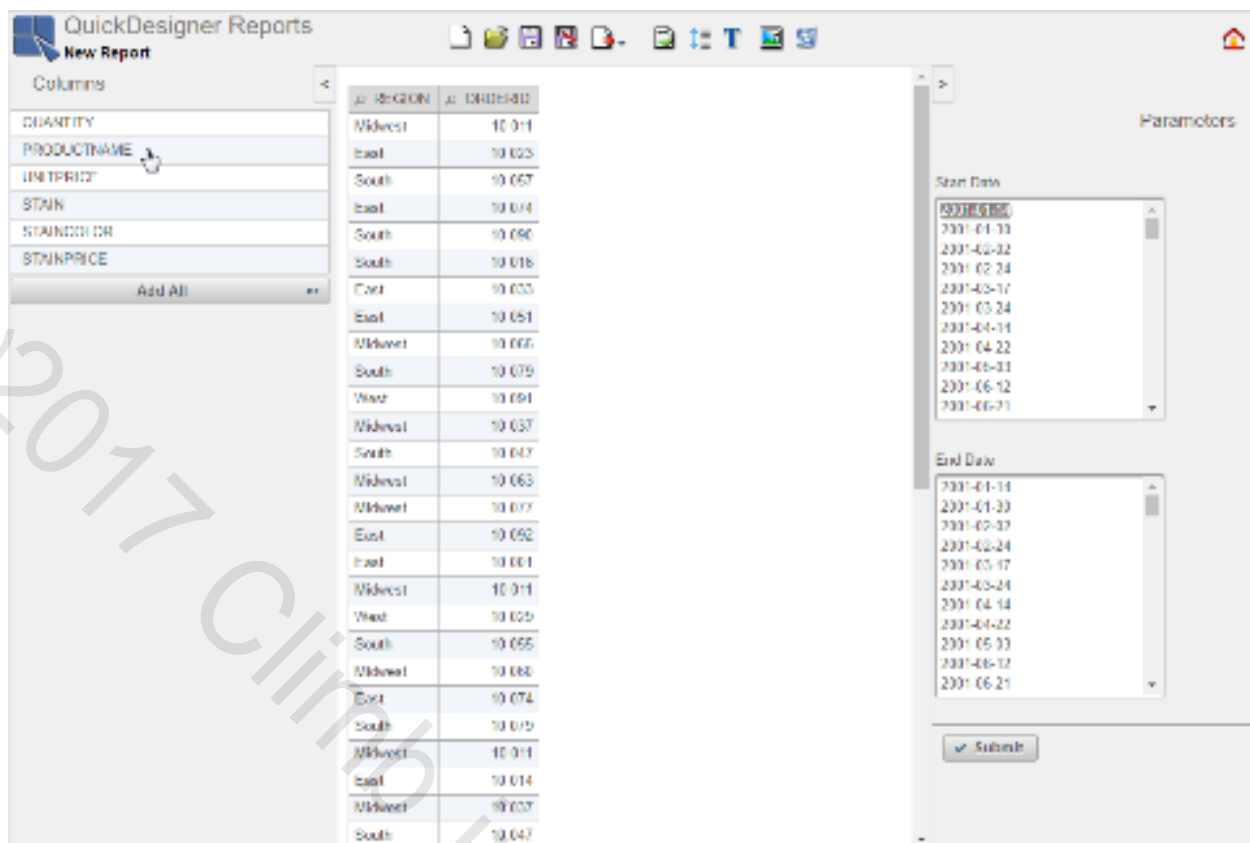
4.5.1 ツールバー

レポート書式の設定処理の多くはツールバーからアクセスできます。各アイコンが下記の処理を実行します。

-  新規レポートの作成
-  既存レポートを開く
-  レポートを保存
-  名前を付けて保存
-  レポートのエクスポート
-  レポートのスタイル設定
-  ページネーション／スクローリングのオプション
-  レポートタイトルの挿入／編集
-  レポートロゴの挿入
-  DataView クエリの変更（レポートに使用される DataView および DataView クエリを変更できるオプションです。DataView クエリがデータソースとしてレポートに使用されている場合だけ表示されます）
-  レポートの更新

4.5.2 列の追加

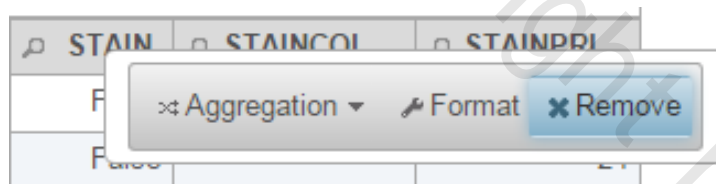
レポートに列を挿入するには、画面左の Columns ペインで列をダブルクリックするか、あるいはクリックしてレポートまでドラッグします。すべての列を一度に追加するには Add All ボタンをクリックします。



列の追加


4.5.3 列の削除

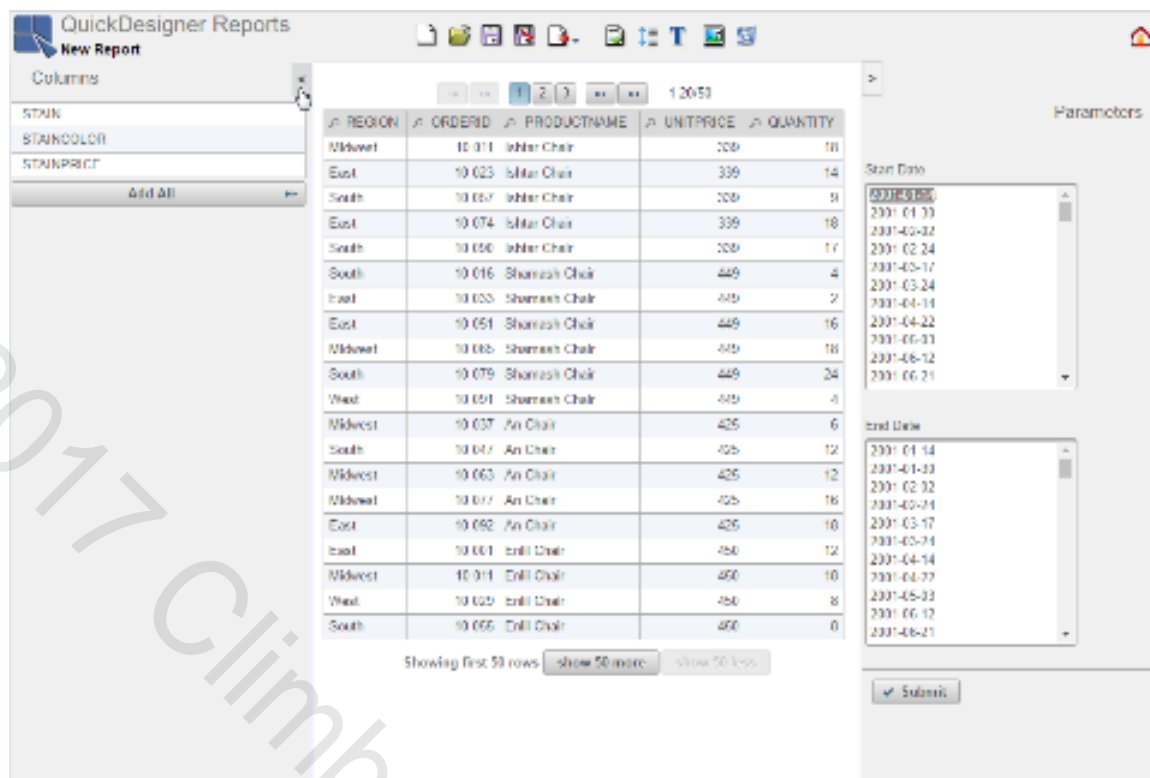
レポートから列を削除するには、その列のヘッダを右クリックし、Remove を選択します。それにより、列がレポートから削除され、Columns ペインに戻されます。



列の削除

4.5.4 サイド画面の非表示

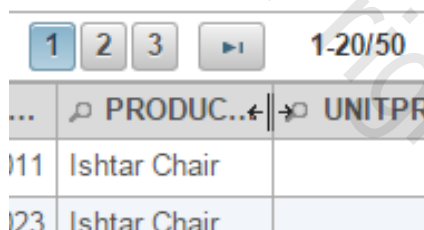
列をレポートに追加した後、レポートを編集しやすくするために画面左の Columns ペインを非表示にすることができます。Columns ペイン上部の Collapse ボタン  をクリックすれば、同ペインが畳まれて非表示になります。同様に、画面右の Parameters ペインも畳むことができます（レポートにパラメータが使用されている場合）。



サイド画面の非表示

4.5.5 列幅の変更

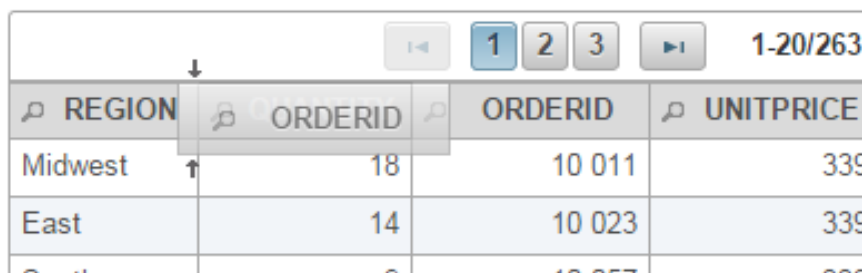
データや見出しの長さに合わせて列幅を変更することができます。マウスを列のヘッダ右端に合わせ、矢印が見えたら、左クリックしながらドラッグすれば列幅が変えられます。



列幅

4.5.6 列の順番

列の順番は自由に変えられます。列のヘッダを左クリックしてドラッグしてください。矢印が見えたら、マウスボタンを放します。それにより、列の順番が入れ替わります。



REGION	ORDERID	ORDERID	UNITPRICE
Midwest	18	10 011	339
East	14	10 023	339

列の順番

4.5.7 行表示の追加

レポートは、デフォルト設定では最初の 50 行が表示されます。show 50 more あるいは show 50 less ボタンをクリックすれば、表示される行数を増やしたり、減らしたりすることができます。

Showing first 50 rows show 50 more show 50 less


表示行を増やす

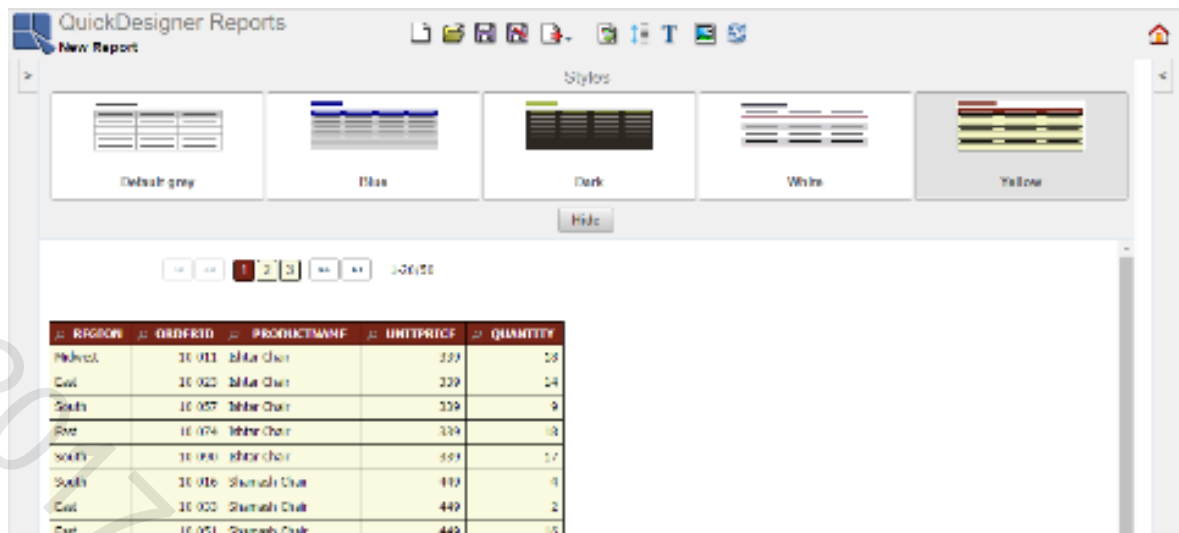
すべての行が表示されている場合は合計の行数が表示されます。

Showing all 263 rows show 50 more show 50 less

表示行を減らす


4.5.8 レポートスタイル

レポートの様式は、あらかじめ定義された 5 種類のスタイルから選べます。ツールバーの Styles アイコン  をクリックすると、Styles ダイアログが開き、使用したいスタイルを選ぶことができます。スタイル選択後、Hide ボタンをクリックすれば、Styles ダイアログが閉じます。



Styles Dialog

4.5.9 ページネーションとスクローリング

メインツールバーの Pagination/Scrolling アイコン  をクリックすると、Pagination/Scrolling ダイアログが開きます。同ダイアログにおいて、Fixed Pagination（既定のページ設定）、Dynamic Pagination（動的ページ設定 — 縦幅を自動的に保持）、スクローリング、あるいは設定機能の無効化を選択することができます。

- **Fixed Pagination**

Fixed Pagination を選ぶと、ページの行数と Paginator Position が選択できます。

Pagination/Scrolling

Enable Paginator/Scrolling

☐ Disabled
 ☒ Fixed Pagination
 ☐ Dynamic Pagination
 ☐ Scrolling

Rows Per Page

20 rows per page

5

 100





Paginator Position

☒ Top
 ☐ Bottom
 ☐ Both

OK

Cancel

Pagination Dialog

Paginator はレポートデータをページごとに分割します。ページネーションを有効に設定すると、ページ番号ボタンを用いて、レポートのいずれのページへも飛ぶことが可能になります。また、最初のページへは、First Page ボタン  をクリックして飛ぶことができ、最後のページへは Last Page ボタン  をクリックして飛ぶことができます。前のページへ行くには Previous Page ボタン 、次のページへ行くには Next Page ボタン  をそれぞれクリックします。ボタンの横には、現在表示されている行が、全行数に対して何行目から何行目までかが示されます。



REGION	ORDERID	PRODUCTNAME	UNITPRICE	QUANTITY
Midwest	10 060	Enlil Chair	450	22
East	10 074	Enlil Chair	450	18
South	10 079	Enlil Chair	450	24

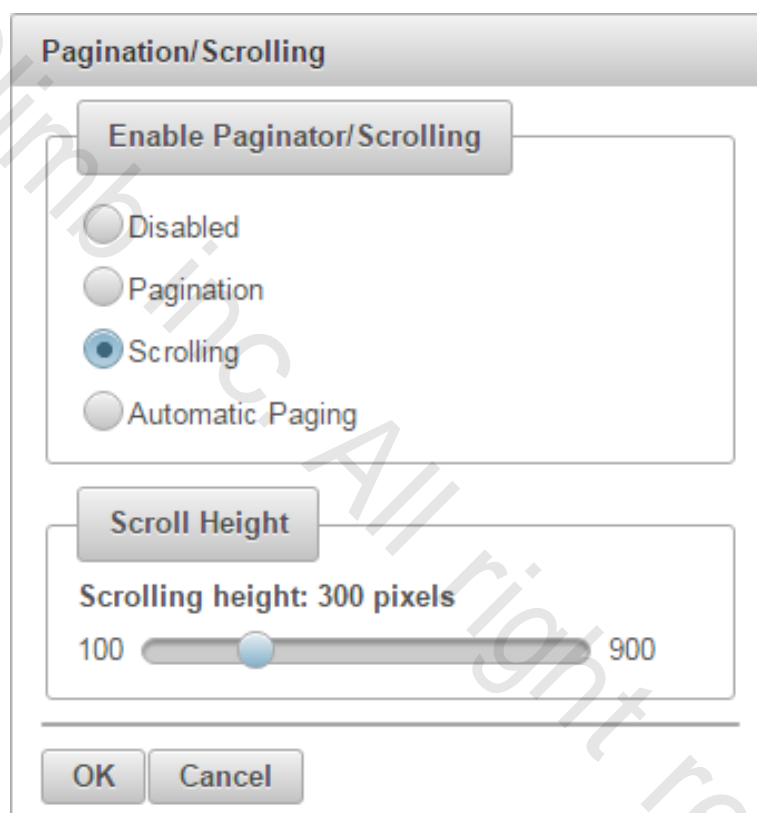
ページネーションボタンをともなうレポート

- **Dynamic Pagination**

Dynamic Pagination を選ぶ場合、それ以上の設定は特に必要ありません。画面の縦幅に適合するページごとの行数が自動的に調整されます。したがって、Quick Designer Reports、Dashboard Builder および Published Files にスクロールバーは表示されません。ページごとの行数は環境（異なるマシン）に応じて異なる可能性があります。

- **Scrolling**

すべてのレポートデータが 1 ページ内に、スペースを取り過ぎずに、きちんと収められます。データはすべてスクロール可能な表に収められ、その縦幅が自由に選べます。スクロールの縦幅は Pagination/Scrolling ダイアログの Scroll Height 欄にピクセルで指定されます。



Scrolling Dialog

REGION	ORDERID	PRODUCTNAME	UNITPRICE	QUANTITY
Midwest	10 011	Ishtar Chair	339	18
East	10 023	Ishtar Chair	339	14
South	10 057	Ishtar Chair	339	9
East	10 074	Ishtar Chair	339	18
South	10 090	Ishtar Chair	339	17
South	10 016	Shamash Chair	449	4
East	10 033	Shamash Chair	449	2
East	10 051	Shamash Chair	449	16
Midwest	10 065	Shamash Chair	449	18

スクロール可能なレポート

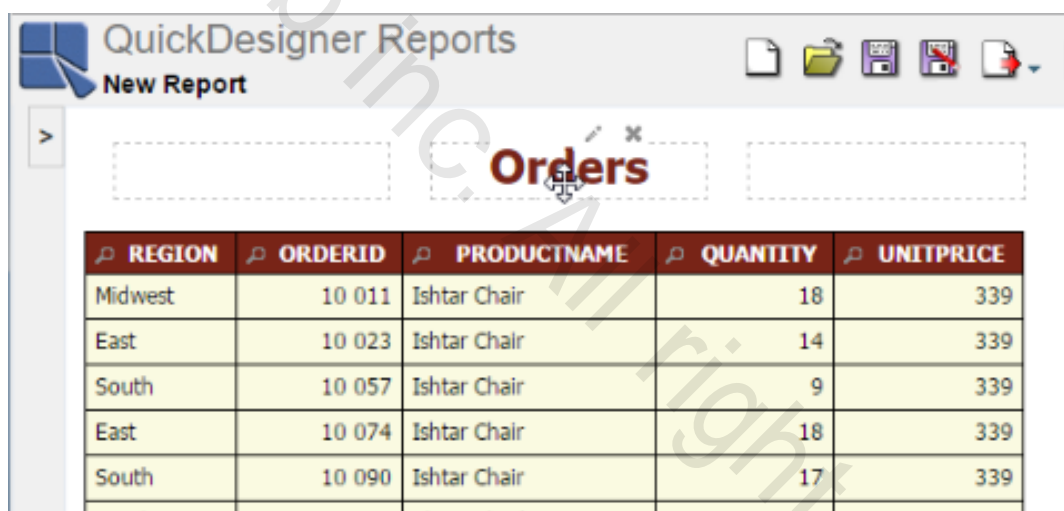
4.5.10 レポートタイトル

レポートにはタイトルを付けることができます。ツールバーの Report Title アイコン  をクリックすると、Report Title ダイアログが開きます。タイトルを入力し、Apply ボタン  をクリックするか、Enter を押せば、タイトルが挿入されます。







Report Title Dialog

レポートタイトルは、デフォルト設定では左詰めになっています。中央へ配置する、右詰めに変更することが可能です。そのためには、タイトルをクリックし、マウスボタンを押したまま少しだけマウスを動かします。左、中央、右の 3 箇所の四角形が現れるので、タイトルをいずれか必要な場所に移動し、マウスボタンを放せば、タイトルが指定の場所に置かれます。

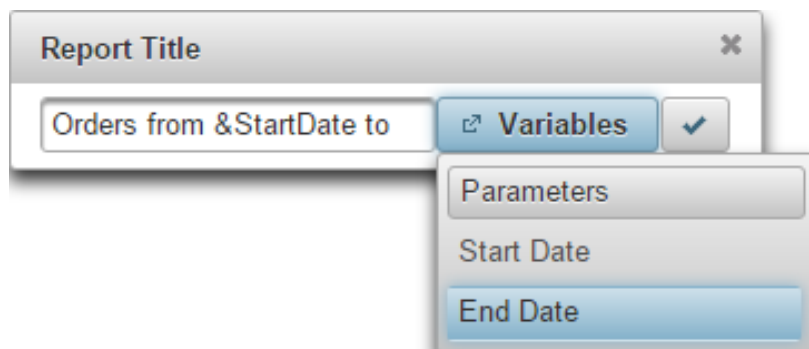


レポートタイトルの移動

レポートタイトルは、カーソルがタイトル上にあるときにポップアップする Edit ボタン  をクリックすることにより、変更や削除が可能です。ツールバーの Report Title アイコン  をクリックした場合と同様に、Report Title ダイアログが開きます。ダイアログにおいて、タイトルを編集し、Apply ボタン  で変更を適用、Remove ボタン  で削除することができます。ダイアログ右上隅の×をクリックすると、ダイアログが終了します。レポートタイトルの削除は、カーソルがタイトル上にあるときにポップアップする×ボタンを直接クリックしても実行可能です。

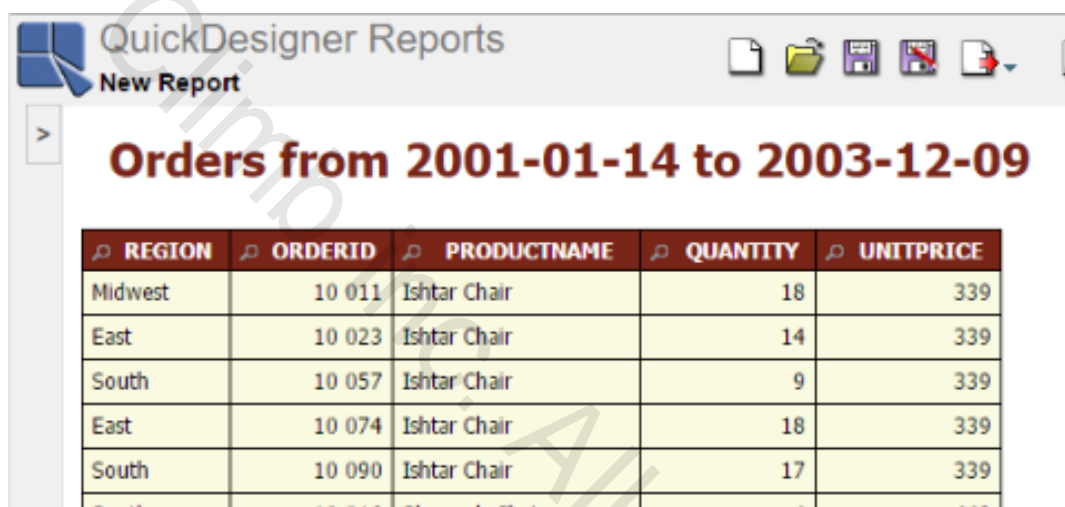
変数を使用したレポートタイトル

データソースがパラメータ化されている場合は、レポートタイトルに変数を追加することができます。それにより、レポートタイトルに現在のパラメータ値が表示され、値を選択に合わせて動的に変化させることができます。




変数を使用したレポートタイトル

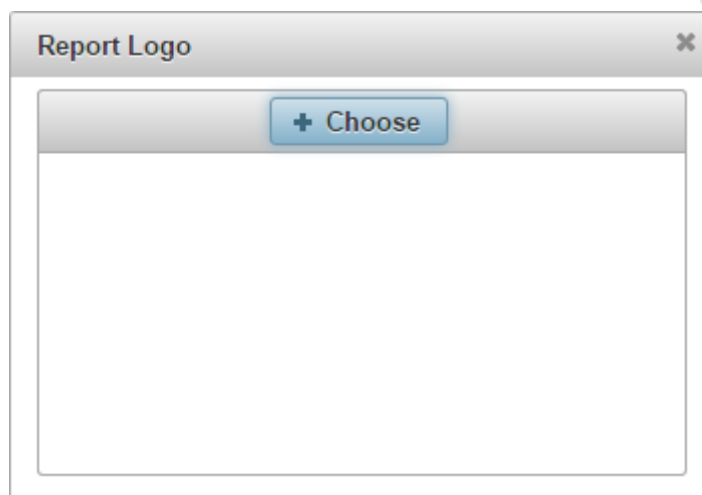
変数を追加するには、Report Title ダイアログにおいて Variables ボタンをクリックし、リストからパラメータを選択します。それにより、変数が &〈パラメータ名〉の形式で、テキストフィールドに表示されます。



変数を使用したレポートタイトル

レポートロゴ

レポートにはロゴを追加することができます。そのためには、ツールバーの Report Logo アイコン  をクリックして Report Logo ダイアログを開きます。ダイアログにおいて、ローカルディレクトリより独自のロゴを選ぶことができます。選択されたロゴはレポートの左上部に挿入されます。




レポートロゴの選択

レポートロゴは、デフォルト設定では左詰めになっていますが、中央に配置する、右詰めに変更することが可能です。そのためには、ロゴをクリックし、マウスボタンを押したまま少しだけマウスを動かします。左、中央、右の 3 箇所の四角形が現れるので、ロゴをいずれか必要な場所に移動し、マウスボタンを放せば、ロゴが指定の場所に置かれます。

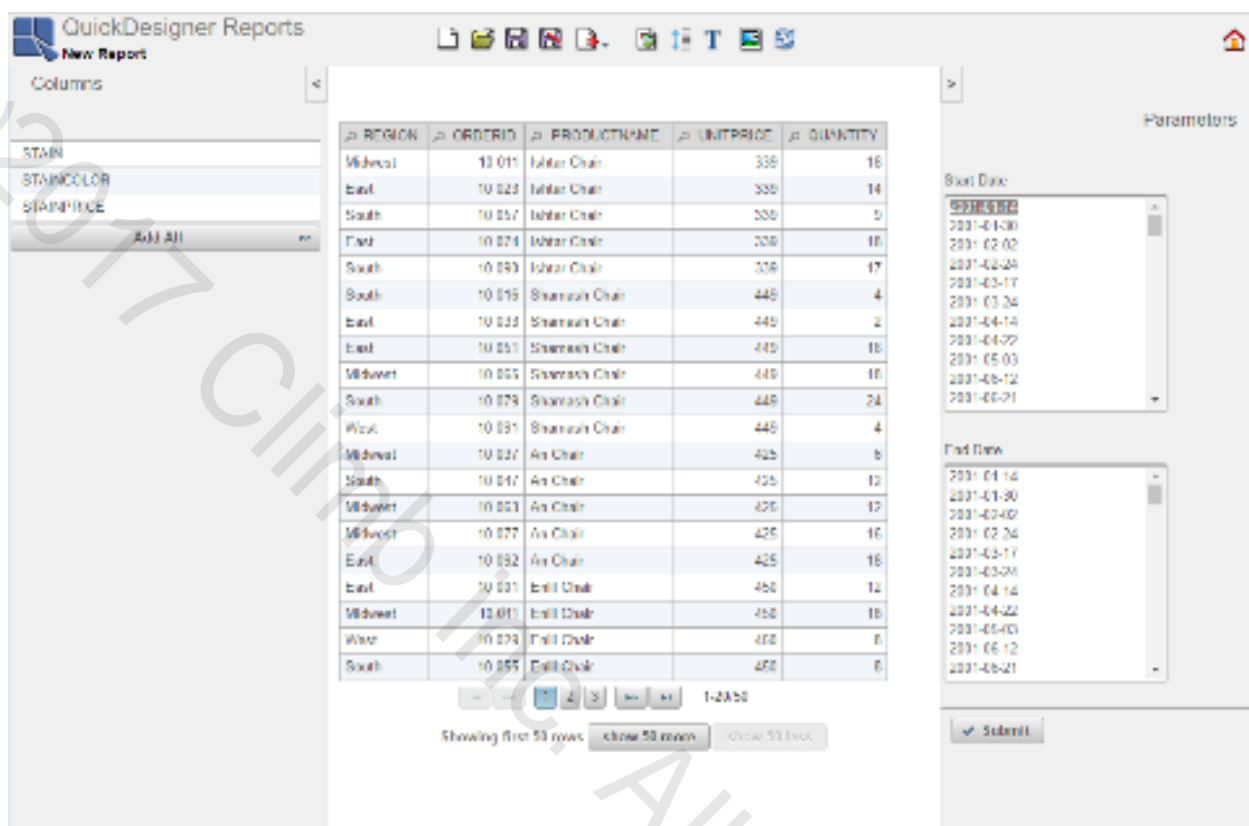


レポートロゴの配置



レポートロゴは、カーソルがロゴ上にあるときにポップアップする×ボタンをクリックすることにより、削除できます。ロゴを変更したいときは、Report Logo アイコン  をクリックして、新しいイメージを選択するだけです。古いイメージが新しいものに置き換えられます。

4.6 パラメータ設定

レポートのデータソースがパラメータ化されている場合、Designer ウィンドウの右側に Parameters ペインが表示されます。パラメータ値を選択して、Submit ボタンをクリックすれば、レポートにパラメータを適用できます。

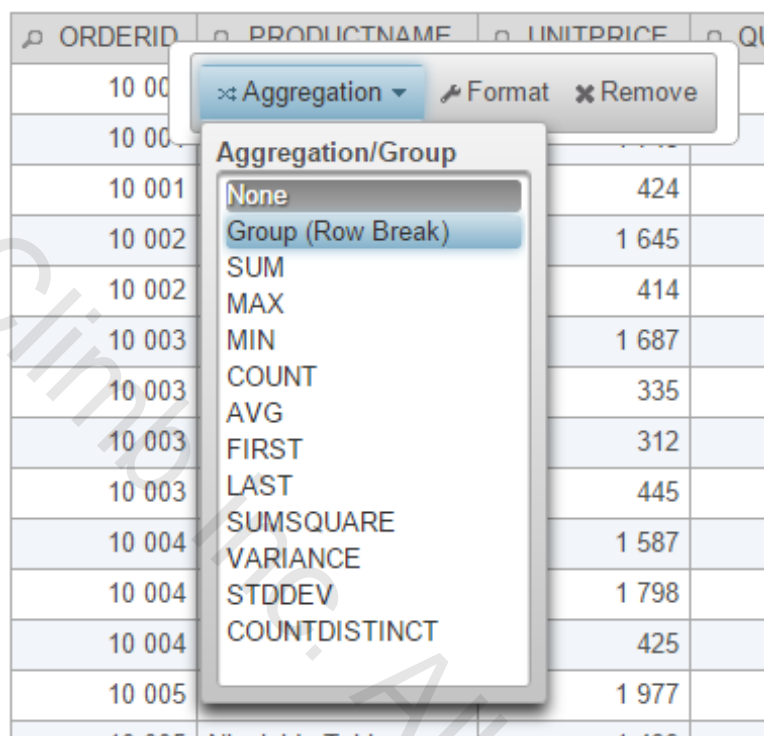


Parameters Pane

Parameter ペインは Collapse ボタン  をクリックすると、枠が畳まれ、非表示にできます。  をクリックすれば、再表示できます。

4.7 集約／グループ

レポートの各列には、集約（aggregation）もしくはグループを追加することができます。そのためには列のヘッダを右クリックし、マウスを Aggregation ボタンに移動します。Aggregation/Group リストが表示されるので、中から必要な方式を選択します。それにより、対象列に Aggregation が適用され、各グループ（Row Break）の最後の値の次の行に総計値が表示されます。



Aggregation/Group 設定

集約（aggregation）が設定されたら、グループごとの値や総計にラベルを付けることができます。総計のラベルは Report Footer Label と呼ばれます。ラベルを付けるには、対象となる値の横の空セルを右クリックし、Label ボタンがポップアップしたら、それをクリックします。

	⌵ QUANTITY	⌵ SALES
0	12	5 400
5	12	20 940
4	14	5 936
		32 276
5	16	
4	21	8 694
		35 014

Aggregation Label ボタン

Footer Labels ダイアログが表示されるので、ラベルとして記述したい文字列を入力し、セル内の配置を左詰めか右詰

めか選びます。決定したら、OK をクリックして、ラベルを適用させます。



Footer Labels Dialog

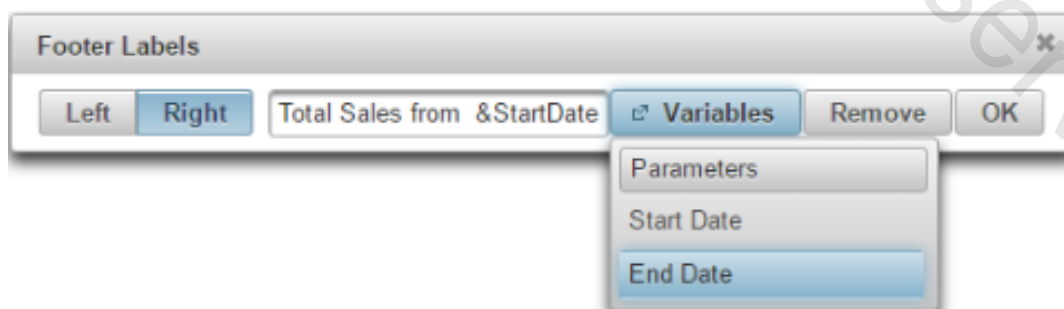
ラベルを編集／削除するには、ラベルを右クリックしてポップアップした Label ボタンをクリックし、Footer Labels ダイアログでラベルテキストを編集するか、Remove ボタンをクリックします。

下記は、Row Break、SUM Aggregation、Group Footer Label、Report Footer Label が適用されたレポートの例です。

<div> 1< << 34 35 36 >> > 351-360/360 </div>				
ORDE..	PRODUCTNAME	UNITPRICE	QUANTITY	SALES
	Apsu Dresser	1 992	8	15 936
			Order Total	30 210
10 095	Shimaliya Chair	424	16	6 784
	Bes Table	1 141	16	18 256
			Order Total	25 040
10 096	Zabada Chair	312	6	1 872
	Ninurta Chair	345	6	2 070
	Horus Table	1 354	12	16 248
			Order Total	20 190
			Total Sales	2 850 764

Aggregation と Label

データソースがパラメータ化されていれば、Footer Label に変数を追加することができます。それにより、現在のパラメータ値がラベルに表示され、パラメータ値の選択に応じてラベルの内容を動的に変化させることができます。



Footer Labels Variables

変数を追加するには、Footer Labels ダイアログで Variables ボタンをクリックし、リストからパラメータを選択します。それにより、変数が &〈パラメータ名〉 の形式で、テキストフィールドに表示されます。

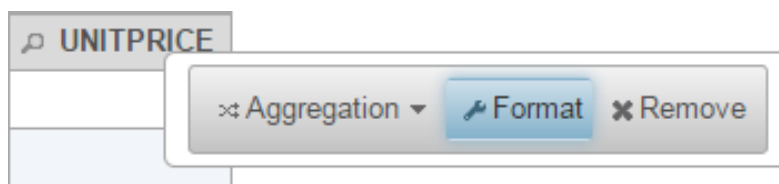
rus Table	1 354	12	16 248
		Order Total	20 190
Total Sales from 2001-01-14 to 2003-12-09			2 850 764

変数が使用された *Report Footer Label*

ラベルに変数を追加した場合、テキストが長めになり、セルをはみ出す可能性があります。はみ出しても問題ないように、ラベルの配置を右詰めにしておくことが推奨されます。

4.8 データフォーマット

レポート列のヘッダをクリックし、ポップアップメニューから Format を選択します。



Format ボタン

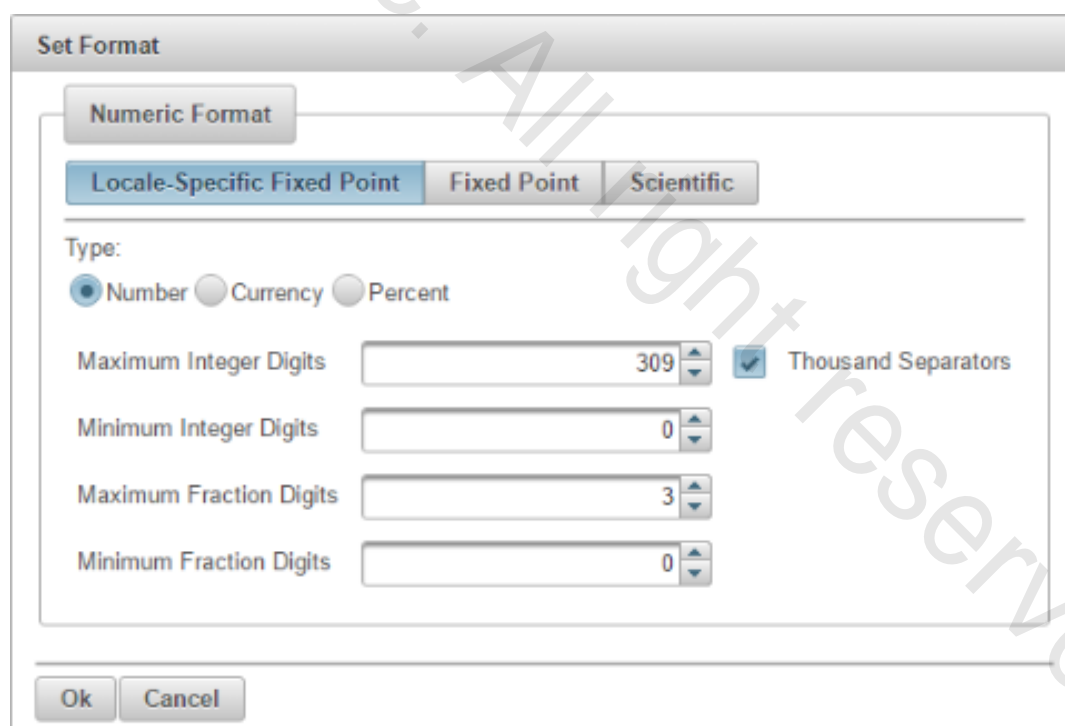
Format を選択すると、Set Format ダイアログが開きます。Set Format ダイアログは選択された列のデータタイプ（数値、文字列、日時、論理／ブーリアン型）に応じて変わります。

- **数値（Numeric）データ:**

数値データのダイアログには、Locale-Specific Fixed Point、Fixed Point、Scientific の 3 種類があります。各々のタブを開くことにより、必要なダイアログを選択できます。

- **Locale-Specific Fixed Point:**

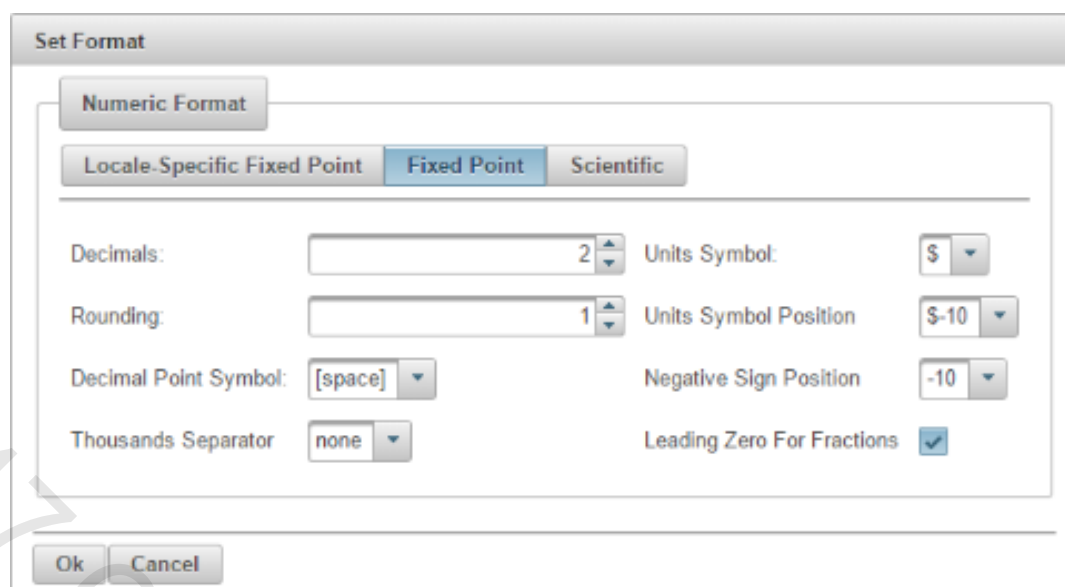
データが閲覧される地域によってフォーマットが変わります。また、数字か、金額か、割合（%）によって異なるフォーマットと、最大・最小整数桁数および小数桁数を指定できます。



Locale-Specific Formatting

- **Fixed Point:**

地域に拠らない一貫したフォーマットが使用されます。小数点以下桁数、四捨五入すべき桁数、単位、負号、小数点や千の位の区切り記号、少数の先頭に 0 を付けるかどうかなどが設定できます。

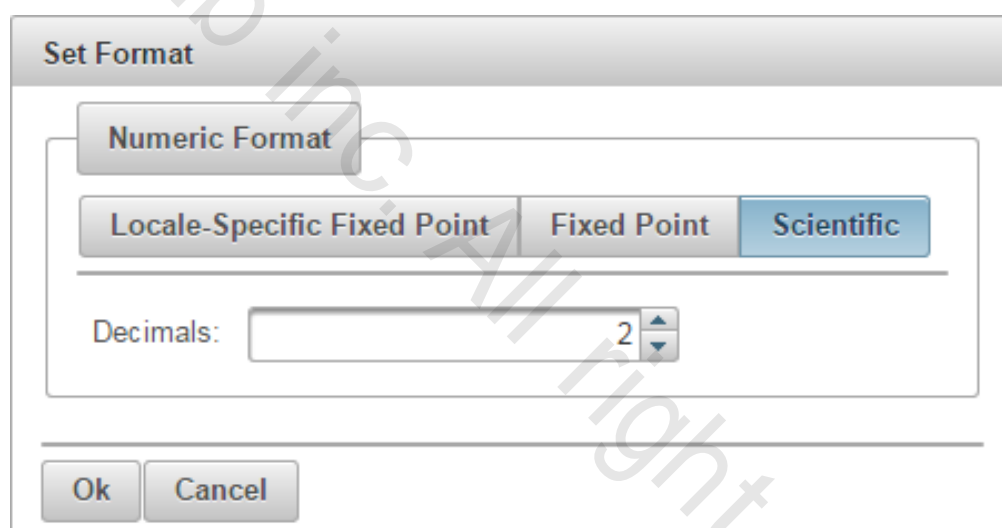


The 'Set Format' dialog box has a 'Numeric Format' section with three tabs: 'Locale-Specific Fixed Point', 'Fixed Point' (selected), and 'Scientific'. Under the 'Fixed Point' tab, there are four rows of settings: 'Decimals' with a spinner set to 2, 'Units Symbol' with a dropdown set to '\$', 'Rounding' with a spinner set to 1, and 'Units Symbol Position' with a dropdown set to '\$-10'. Below these are 'Decimal Point Symbol' with a dropdown set to '[space]', 'Thousands Separator' with a dropdown set to 'none', 'Negative Sign Position' with a dropdown set to '-10', and 'Leading Zero For Fractions' with a checked checkbox. At the bottom are 'Ok' and 'Cancel' buttons.

Fixed Point Formatting

- **Scientific:**

データを科学的記数法で表示します。小数点以下桁数を指定することができます。



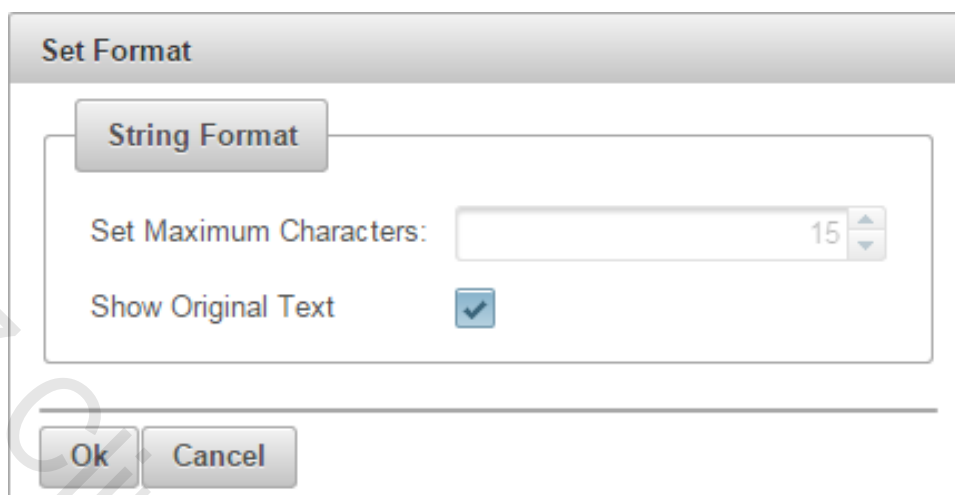
The 'Set Format' dialog box has the same 'Numeric Format' section, but the 'Scientific' tab is selected. Only the 'Decimals' spinner is visible, set to 2. The 'Ok' and 'Cancel' buttons are at the bottom.

Scientific Formatting

設定後は OK をクリックすれば、フォーマットが適用され、Set Format ダイアログが終了します。

- **文字列 (String) データ:**

ダイアログにおいて、最大文字数を指定できます。Show Original Text オプションのチェックボックスから選択を外し、Set Maximum Characters に文字数を入力してください。



The dialog box titled "Set Format" has a tab labeled "String Format". Inside the tab, there is a label "Set Maximum Characters:" followed by a text input field containing the number "15" and a spinner control. Below this is a label "Show Original Text" followed by a checked checkbox. At the bottom of the dialog are "Ok" and "Cancel" buttons.

String Data Format

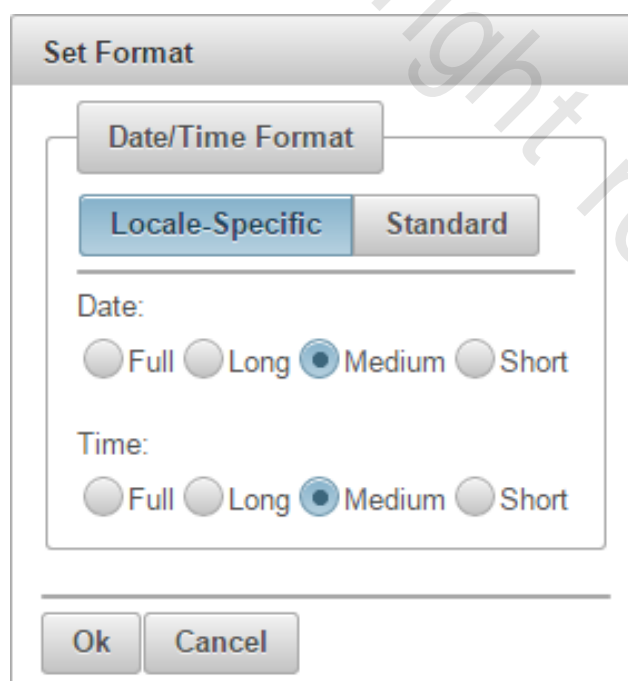
設定後は OK をクリックすれば、フォーマットが適用され、Set Format ダイアログが終了します。

- **日時 (Date/Time) データ:**

日時データのダイアログには、Locale-Specific と Standard の 2 種類のタブが用意されています。

- **Locale Specific:**

データが閲覧される地域によってフォーマットが変わります。また、日時表記の Full、Long、Medium、Short 版が選べます。その他の表記属性は地域ごとに異なります。

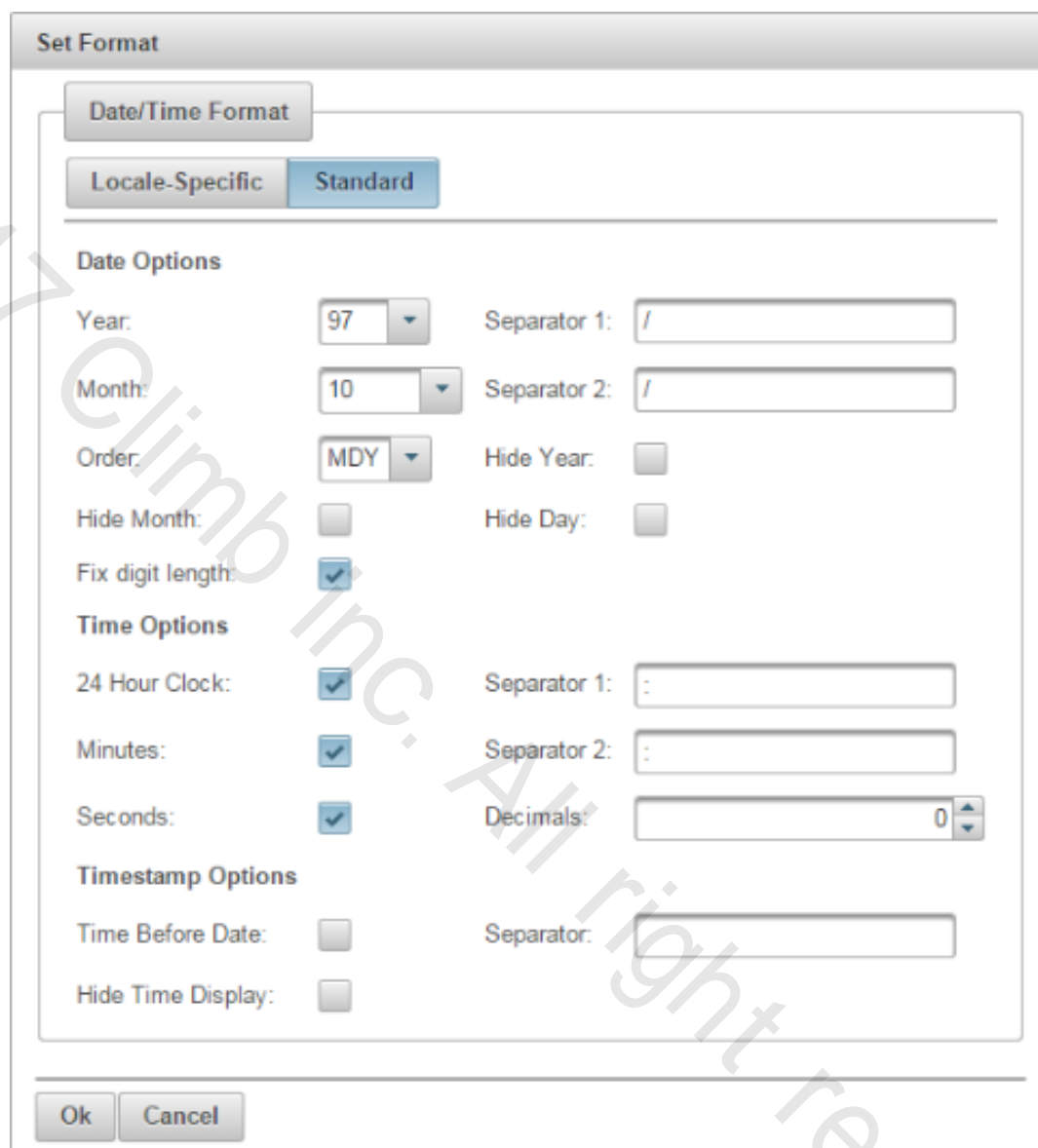


The dialog box titled "Set Format" has a tab labeled "Date/Time Format". Inside the tab, there are two sub-tabs: "Locale-Specific" (which is selected) and "Standard". Below the sub-tabs, there are two sections: "Date:" and "Time:". Each section has four radio button options: "Full", "Long", "Medium", and "Short". In both sections, the "Medium" option is selected. At the bottom of the dialog are "Ok" and "Cancel" buttons.

Locale-Specific Formatting

- **Standard:**

地域に拠らない一貫したフォーマットが使用されます。年と月の表示法やその順番、数字を区切る文字や記号が選べます。時間の設定では、時、分、秒の表記、それらを区切る文字／記号が選べます。タイムスタンプでは、時間を日付の前に置くか、後に置くか、と数字を区切る文字／記号が選べます。



Set Format

Date/Time Format

Locale-Specific **Standard**

Date Options

Year: 97 Separator 1: /

Month: 10 Separator 2: /

Order: MDY Hide Year: ☐

Hide Month: ☐ Hide Day: ☐

Fix digit length: ☒

Time Options

24 Hour Clock: ☒ Separator 1: :

Minutes: ☒ Separator 2: :

Seconds: ☒ Decimals: 0

Timestamp Options

Time Before Date: ☐ Separator:

Hide Time Display: ☐

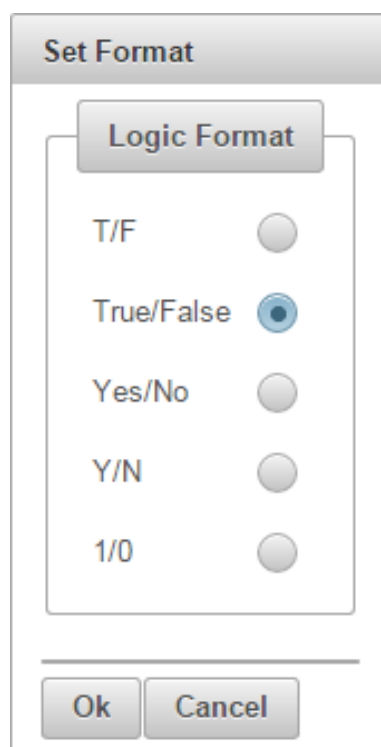
Ok Cancel

Standard Formatting

設定後は OK をクリックすれば、フォーマットが適用され、Set Format ダイアログが終了します。

- **論理 (Logical) データ:**

論理 (ブーリアン) 型データのダイアログには、次の 5 種類のデータ表示オプションがあります : T/F、True/False、Yes/No、Y/N、1/0




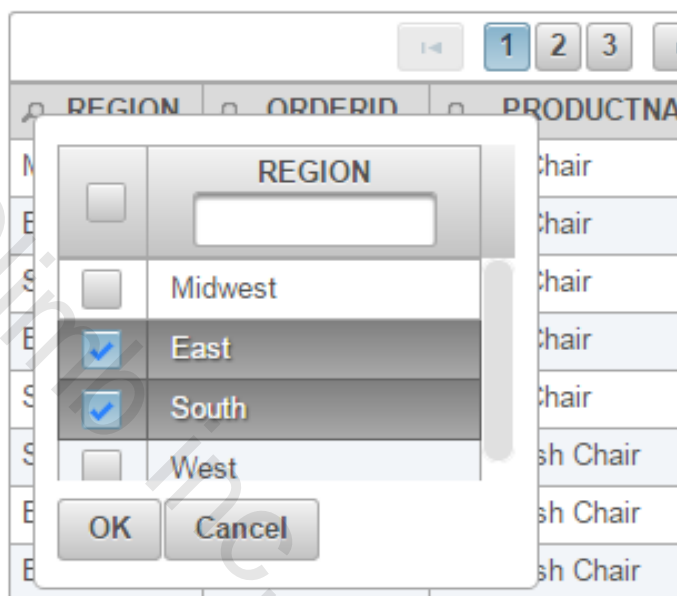
The image shows a 'Set Format' dialog box. Inside, there is a sub-dialog titled 'Logic Format'. This sub-dialog contains five radio button options: 'T/F', 'True/False' (which is selected), 'Yes/No', 'Y/N', and '1/0'. Below the 'Logic Format' sub-dialog, there are 'Ok' and 'Cancel' buttons.

Logic Format

使用したいフォーマットを選択し、OK ボタンをクリックすれば、フォーマットが適用され、Set Format ダイアログが終了します。

4.9 データのフィルタ

レポート列のヘッダ上の Filter Column アイコン  をクリックすれば、データをフィルタすることができます。ダイアログがポップアップし、フィルタするデータの選択が可能になります。レポートに表示する値を選択するには、その値の横のボックスからチェックを外します。Filter ダイアログに表示された値からさらに対象を狭め、ダイアログ上部のテキストフィールドに特定の値を入力して検索することも可能です。すべての値を選択するには、左上隅（検索フィールドの横）のボックスをチェックします。OK をクリックすればフィルタが適用され、ダイアログが終了します。



列のフィルタ

複数の列にデータのフィルタが適用される場合、レポートに表示される結果はすべてのフィルタ条件に適合する記録です。つまり、複数列のフィルタは AND の組み合わせ条件になります。

5 データマッピングとオーダリング — QuickDesigner Charts

データソースの選択やクエリの作成を完了し、OK ボタンをクリックして Data Source ダイアログを終了すると、QuickDesigner Charts の左ペインに Chart Mapping ダイアログが表示されます。

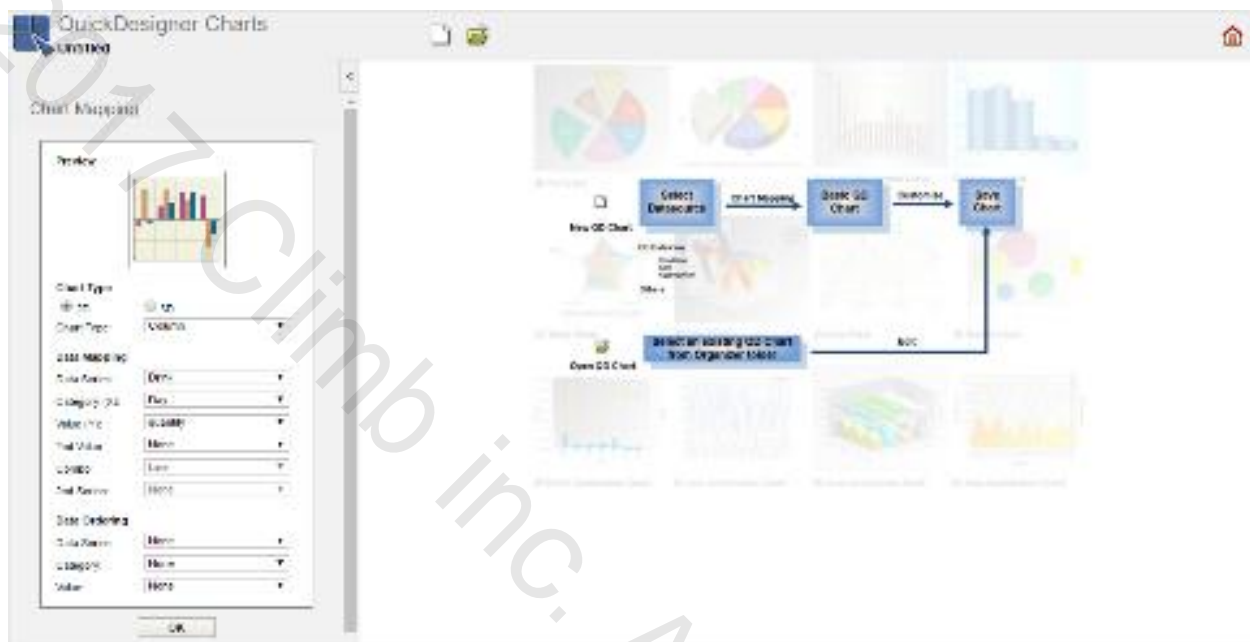


Chart Mapping Dialog

5.1 マッピングとオーダリングのオプション

Chart Mapping ダイアログでは、作成するチャートタイプや、チャートエレメントにマップするデータソースが選択できます。

Chart Mapping

Preview




Chart Type

☒ 2D ☐ 3D

Chart Type: Column ▼

Data Mapping

Data Series: Drink ▼

Category (X): Day ▼

Value (Y): quantity ▼

2nd Value: None ▼

Combo: Line ▼

2nd Series: None ▼

Data Ordering

Data Series: None ▼

Category: None ▼

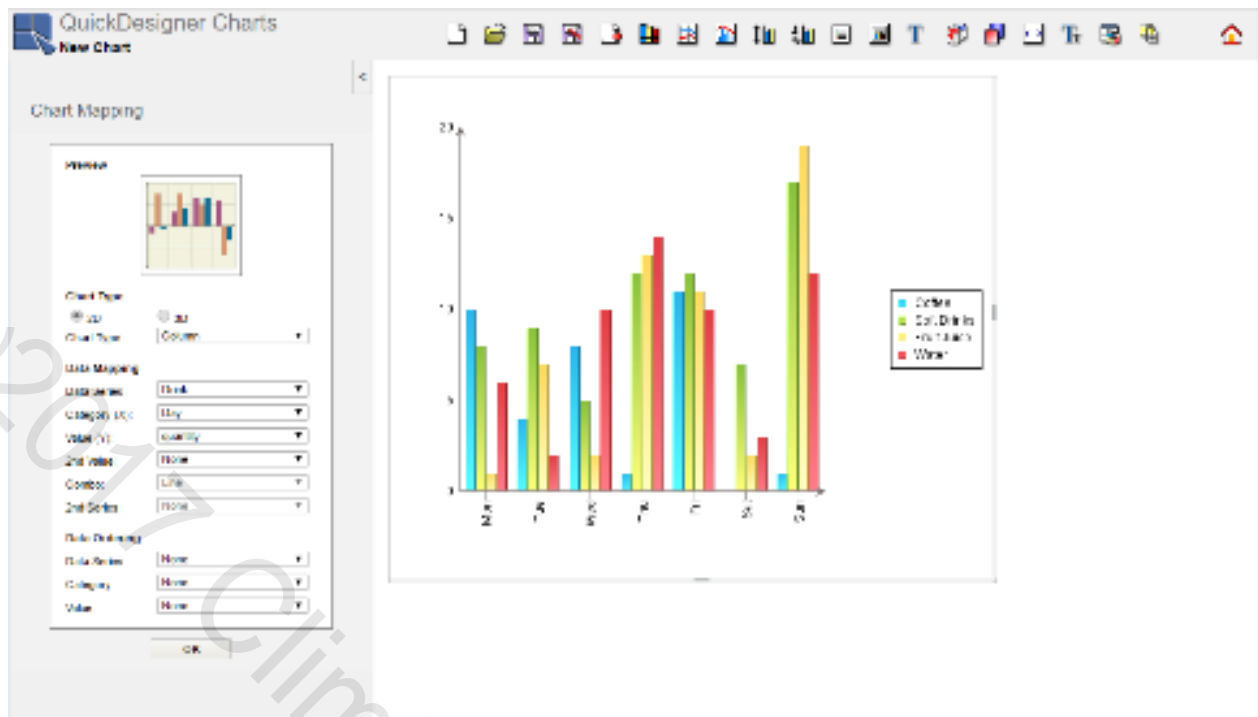
Value: None ▼

OK

チャートマッピングのオプション


Chart Type オプションでは、チャートが 2 次元か 3 次元かが選べ、使用するチャートタイプを設定します。Data Mapping オプションでは、チャートのデータマッピングを設定します。Data Ordering オプションでは、データのソート順が昇順か降順か選べます。

チャートタイプやマッピングオプションを選択し終えたら、OK をクリックします。チャートが右ペインに、利用可能なすべてのアイコンとともに表示されます。



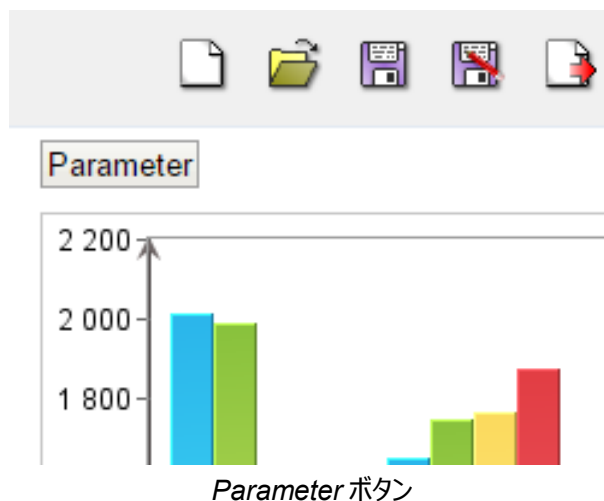
QuickDesigner Charts メイン画面

5.2 データマッピングの変更

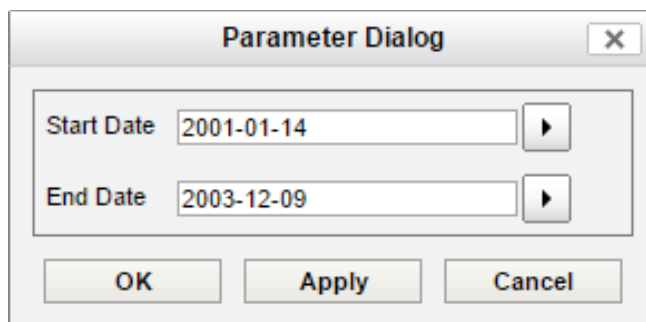
チャートのマッピングオプションとチャートタイプを変更するには、Change Mapping/Chart Type アイコン  をクリックします。それにより、左ペインに Chart Mapping ダイアログが表示されます。

5.2.1 パラメータ設定

チャートのデータソースがパラメータ化されていれば、チャート上部に Parameter ボタンが表示されます。



ボタンをクリックすると、Parameter ダイアログが開き、パラメータ値の設定が可能になります。パラメータ値を適用するには、Apply をクリックするか（ダイアログ表示はそのまま）あるいは OK をクリックします（ダイアログが閉じます）。




Parameter Dialog

5.2.2 ツールバー

QuickDesigner Charts のチャート設定処理はすべて、ツールバーのアイコンからアクセスできます。各アイコンは下記の処理を実行します。

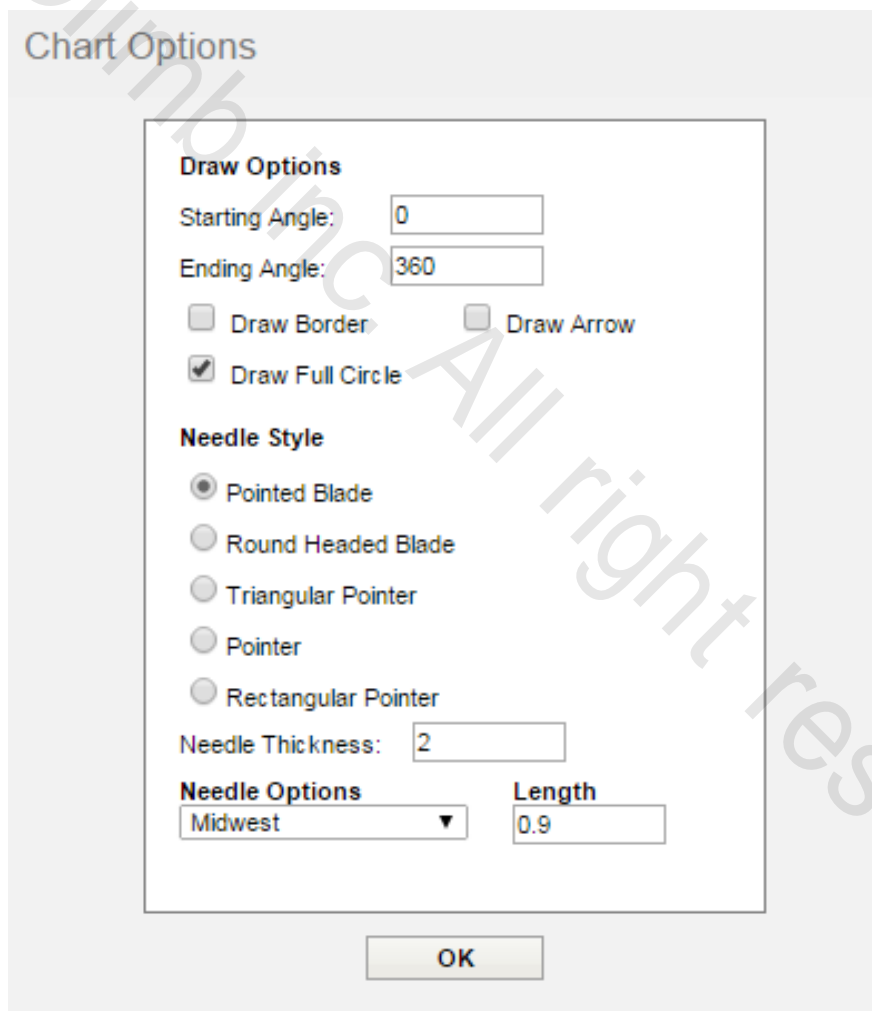
-  新規チャートの作成
-  既存チャートを開く
-  チャートの保存
-  名前を付けて保存
-  チャートのエクスポート
-  チャートのデータプロパティ設定
-  特定チャートオプション（チャートタイプ Pie、HLCO、Dial、Gantt、Polar、Doughnut にのみ有効）
-  線と点の設定
-  傾向線の設定
-  軸のスケール設定
-  軸要素の設定
-  チャート凡例の設定
-  プロットエリアの設定
-  チャートタイトルの追加／編集
-  チャートカラーの設定
-  カラーグラデーションの設定
-  チャートキャンバスサイズの設定
-  ラベル／判例フォントの設定
-  チャートタイプ／マッピングの変更
-  チャートデータソースの変更

5.2.3 特定チャートオプション

特定のタイプのチャートにのみ適用されるフォーマットオプションが各種あります。対象となるチャートタイプはパイ（Pie）チャート、ダイヤル（Dial）チャート、HLCO チャート、ガント（Gantt）チャート、ポーラ（Polar）チャート、ドーナツ（Doughnut）チャートです。オプションを変更するには、ツールバーの Chart Type Options ボタン  をクリックします。それにより、左ペインにチャートタイプによって異なるダイアログが開きます。ここにリストされていないチャートタイプには、追加設定オプションはありません。

5.2.4 ダイアル（Dial）チャート

Dial チャートに対しては、以下のダイアログが表示されます。



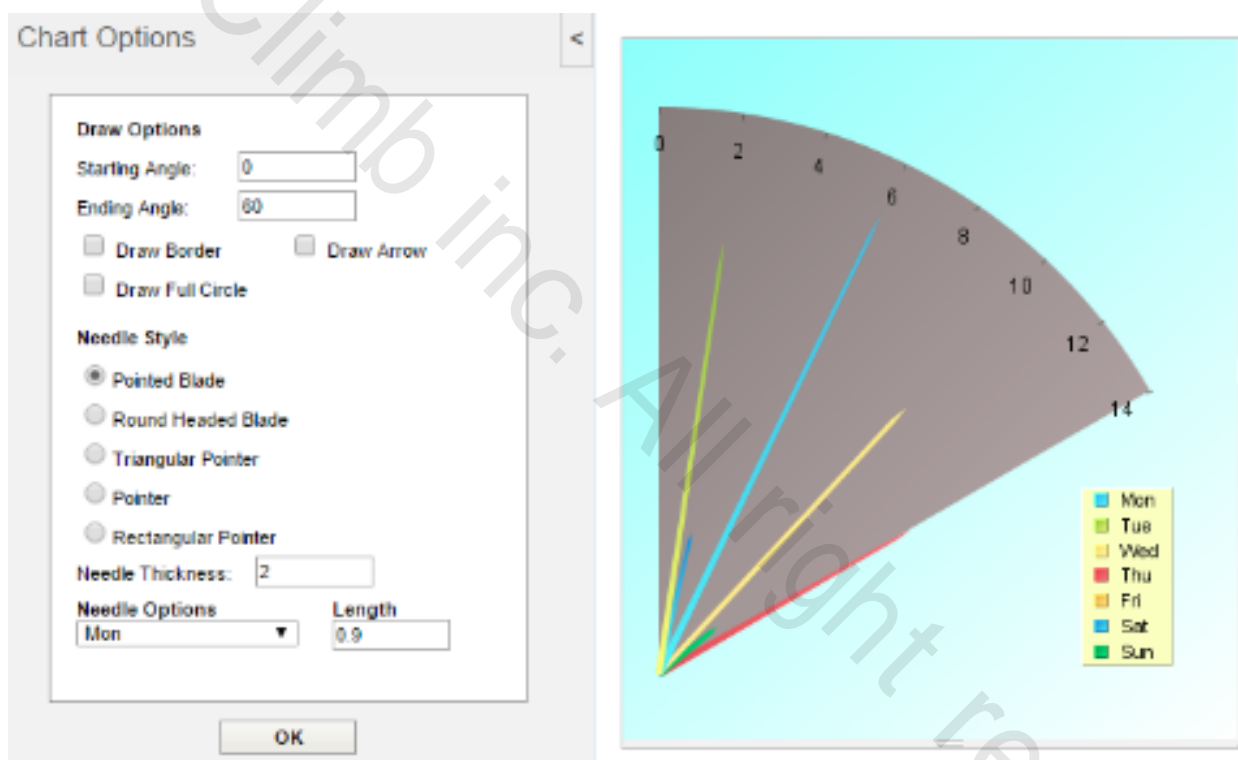
Dial Chart Options Dialog

Dial チャートに有効なオプションは下記の通りです。

- **Starting Angle**（開始角度）：
最初の軸ラベルの設定角度を指定します。角度は度数で表され、デフォルトは 0 です。ダイヤルチャートが時計の

文字盤だと仮定すると、0 度は 12 時に相当します。

- **Ending Angle**（終了角度）：
最後の軸ラベルの設定角度を指定します。角度は度数で表され、デフォルトは 360 です。したがって、ラベル（およびデータポイント）は、デフォルトでは円全体を構成します。
- **Draw Border**（境界線の描画）：
ダイヤルの外縁に境界線を描くかどうかを指定します。
- **Draw Arrow**（矢印の描画）：
ダイヤルハンドの先端に矢印を描くかどうかを指定します。
- **Draw Full Circle**（円周描画）：
完全な円周（360 度）を描くか、開始角度／終了角度にもとづいて円の一部だけを描くかを指定します。



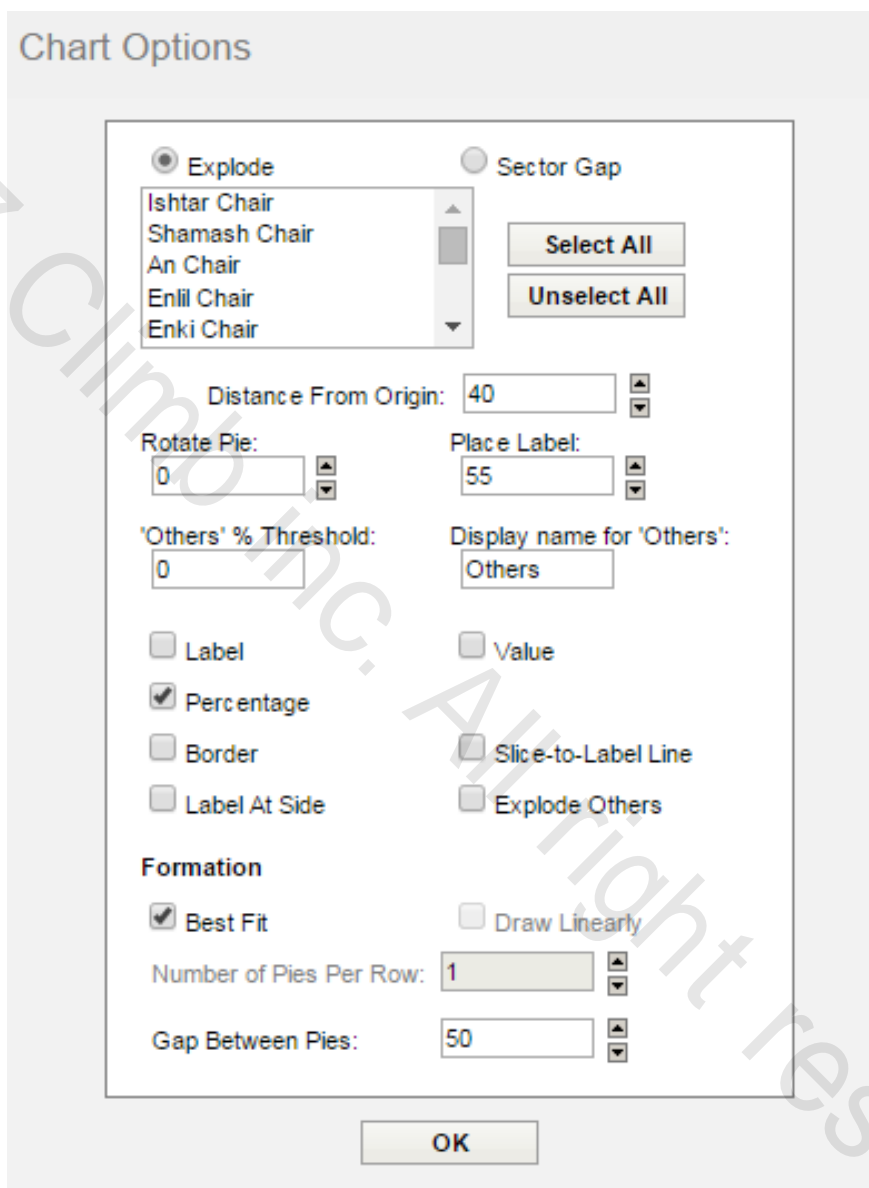
Circular Sector

- **Needle Style**（ニードルスタイル）：
表示したいニードルスタイルを指定します。デフォルトは、Pointed Blade（尖った刀）です。
- **Needle Options**（ニードルオプション）：
各ニードルに対し（複数ある場合）中心からのダイヤルハンドの距離を指定します。範囲は 0（円の中心）から 1（ダイヤルの外縁）までです。ドロップダウンリストからカテゴリーを選択して、カテゴリーごとにニードルの長さを調整することもできます。

5.2.5 パイ／ドーナツ (Pie / Doughnut) チャート

ドーナツチャート特定のオプションとパイチャート特定のオプションはまったく同じです。ここでは、パイチャートを基準に解説しますが、すべてドーナツチャートにも当てはまります。

パイチャートに対しては、以下のダイアログが表示されます。



The dialog box is titled "Chart Options". It contains several sections for configuring a pie chart:

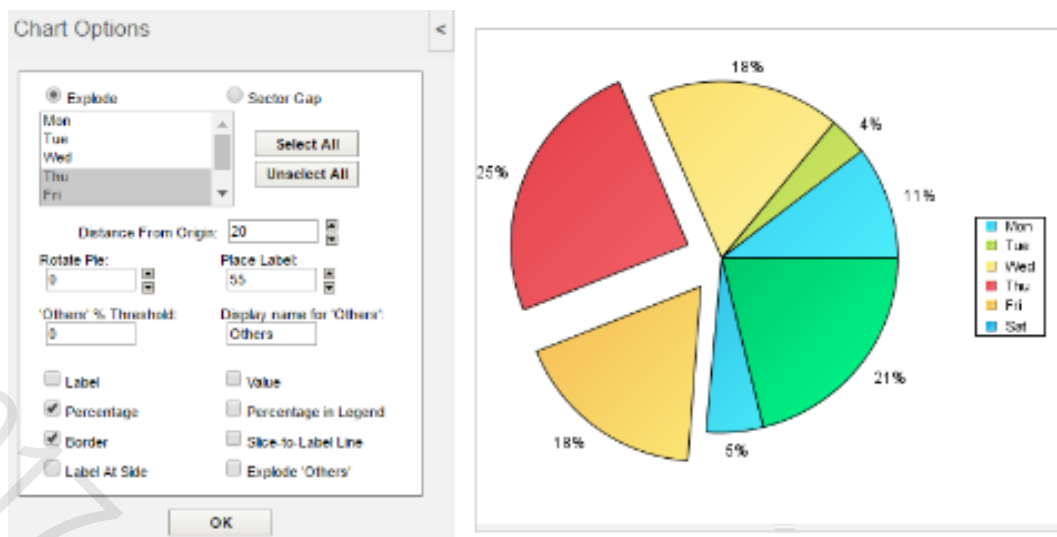
- Explode / Sector Gap:** Two radio buttons. "Explode" is selected.
- Series List:** A list box containing "Ishtar Chair", "Shamash Chair", "An Chair", "Enlil Chair", and "Enki Chair". To the right are "Select All" and "Unselect All" buttons.
- Distance From Origin:** A text box with the value "40".
- Rotate Pie:** A text box with the value "0".
- Place Label:** A text box with the value "55".
- 'Others' % Threshold:** A text box with the value "0".
- Display name for 'Others':** A text box with the value "Others".
- Display Options:** A group of checkboxes: "Label", "Value", "Percentage" (checked), "Border", "Label At Side", "Slice-to-Label Line", "Explode Others", and "Draw Linearly".
- Formation:** A section with a "Best Fit" checkbox (checked) and a "Draw Linearly" checkbox.
- Number of Pies Per Row:** A text box with the value "1".
- Gap Between Pies:** A text box with the value "50".
- OK:** A button at the bottom.

Pie Chart with Series Options Dialog

ダイアログで表示されるオプションは、パイチャートが 2 次元か 3 次元かによって異なり、またデータシリーズの有無でも異なります。パイチャートに有効なオプションは以下の通りです。

- **Explode** (パイスライスの乖離) :

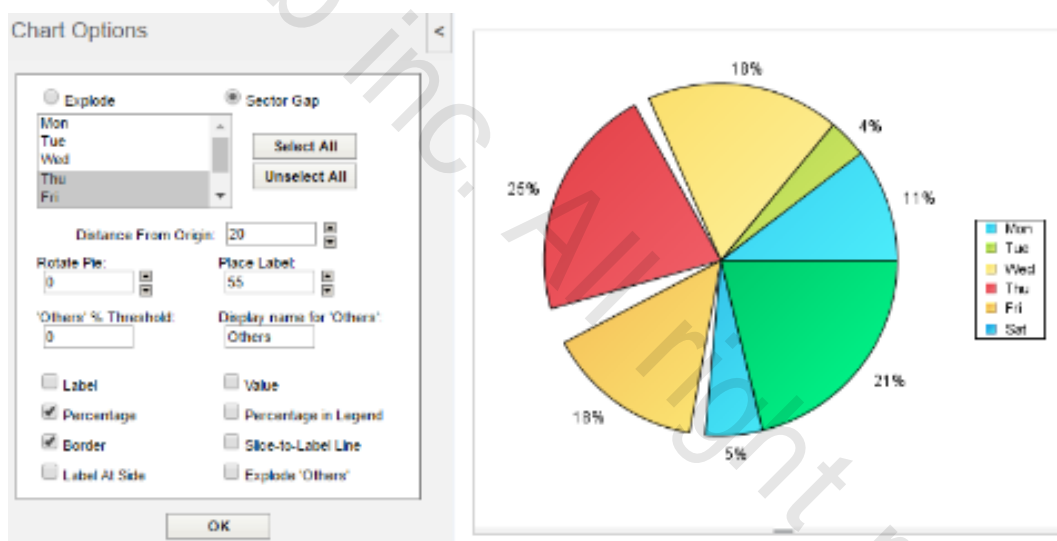
1 つ以上のカテゴリーまたはシリーズをパイチャートの中心から一定の距離を置いて (パイから乖離した状態に) 描画することができます。



パイスライスの乖離

- **Sector Gap**（パイスライス間に隙間）：

1 つ以上のカテゴリまたはシリーズを、パイチャートの中心からの距離は変えずに、パイのスライス間に隙間を作ることによって独立させることができます。



パイスライス間に隙間を適用

- **Distance From Origin**（元の位置からの距離）：

Explode オプションでパイスライスが中心から乖離するときの距離を指定できます。中心からパイスライスの先端までの距離を、半径に対する割合（%）の数値で指定します。Sector Gap オプションに対しては、選択されたパイスライスの隙間を定義します。

- **Rotate Pie**（パイの回転）：

チャートが回転すべき度合を指定します。パイを時計回りに回転させるには、度数を負で表します（例：-90）。正数（1～360）で指定した場合、パイは反時計回りに回転します。

- **Place Label**（ラベル位置）：

パイの中心からラベルへの距離を指定します。

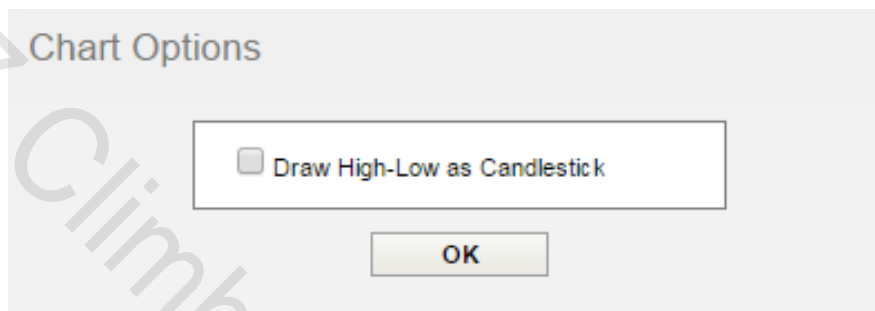
- **'Others' % Threshold**（その他への分類値）：
少数グループのカテゴリが多数あるときに便利なオプションです。各カテゴリに個々にスライスを描くより、何パーセント未満は自動的に「その他」のピースライスに含めるように指定することができます。そのパーセント値を'Others' % Thresholdと呼びます。
- **Display Name for 'Others'**（その他グループ名）：
上記の「その他」グループに名前を付けることができます。指定された名前はスライ斯拉ベルと凡例に表示されます。
- **Label**（ラベル）：
パイの各スライスにラベルを付けるかどうか指定できます。デフォルトでは、各カテゴリ／シリーズのラベルは凡例にのみ表示されます。
- **Value**（値）：
パイの各スライスの実際の値を表示するかどうかを指定できます。
- **Percentage**（割合）：
パイの各スライスの割合（%）を表示できます。全スライスの値の合計に対する個々の割合が計算されます。
- **Percentage in Legend**（凡例%表記）：
パイの各スライスの割合（%）を凡例に表示することができます。ピースライスがとても薄く（細く）なる場合には便利な表記方法となります。パイチャートにデータシリーズが用いられていない場合のみ有効なオプションです。
- **Border**（境界線）：
パイの各スライスに境界線を描くかどうかを指定できます。
- **Slice-to-Label Line**（ラベル・スライス連結線）：
ラベルからスライスへ線を引くことができます。
- **Label At Side**（サイドラベル）：
パイチャートのラベルをチャートの外側に配置することができます。Slice-to-Label Line オプションと併用して、チャートの分類が細くなるときにラベルテキストが重なり合って見づらくなるのを防ぎ、チャートを見やすく整理できます。
- **Explode Others**（その他の乖離）：
「その他」のスライスを中心から一定の距離を置いて（パイから乖離した状態に）描画することができます。
- **Best Fit**（最適配置）：
複数のパイをチャートキャンバス上に最適な位置関係で配置します。データシリーズをとまなうパイチャート用のオプションです。
- **Draw Linearly**（横一列配置）：
複数のパイを横一列に並べます。データシリーズをとまなうパイチャート用のオプションです。
- **Number of Pies Per Row**（複数列配置）：
多数のパイを、一列のパイ数を指定して、複数の横列に配置します。データシリーズをとまなうパイチャート用のオプションです。

- **Gap Between Pies** (パイ間隔) :

複数パイの間隔を指定します。パイ半径の乗数で指定され、チャートプロットのサイズに応じて調整されます。データシリーズをともなうパイチャート用のオプションです。

5.2.6 HLCO チャート (ローソク足チャート)

HLCO チャートに対しては、下記のダイアログが表示されます。

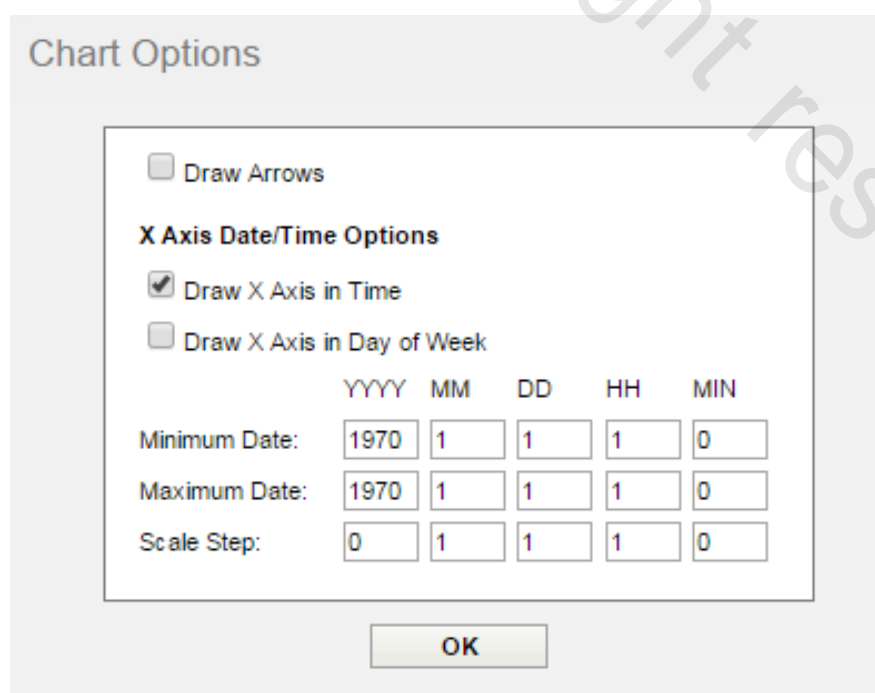


HLCO Chart Options Dialog

HLCO チャートは、Draw Hi-Low As Candle Stick オプションにより、ローソク足チャートとして表示されます。高値、低値、始値、終値を 1 つのチャートに混在させ、ろうそくのように表現できます。

5.2.7 ガント (Gantt) チャート

ガントチャートに対しては、下記のダイアログが表示されます。



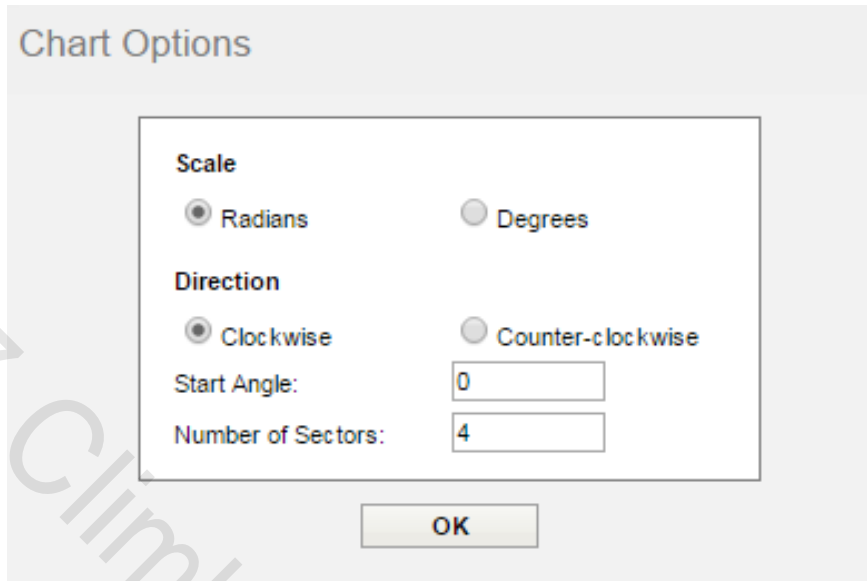
Gantt Options Dialog

ガントチャートに有効なオプションは以下の通りです。

- **Draw Arrows** (矢印描画) :
ガントチャートのカテゴリー間をつなぐ矢印を描きます。スケジュール表記でイベント間の連続性を表すことができます。
矢印の方向は、カテゴリー要素がデータソースに表われる順番にもとづきます。
- **Display X-Axis in Time** (X 軸時間表示) :
X 軸に数値の代わりに時刻ラベルを表示します。
- **Display X-Axis in Day of Week** (X 軸週表示) :
X 軸に数値の代わりに週ごとの日付ラベル (日曜日の日付) を表示します。
- **Minimum Date** (最小日時) :
X 軸の最初の日付を指定します。年、月、日、時、分の形式です。
- **Maximum Date** (最大日時) :
X 軸の最後の日付を指定します。年、月、日、時、分の形式です。
- **Scale Step** (スケールステップ) :
X 軸のスケールステップを指定します。年、月、日、時、分の形式です。

5.2.8 ポーラ（Polar）チャート

ポーラチャートに対しては、下記のダイアログが表示されます。



The image shows a 'Chart Options' dialog box for a Polar chart. It contains the following settings:

- Scale:** Radio buttons for 'Radians' (selected) and 'Degrees'.
- Direction:** Radio buttons for 'Clockwise' (selected) and 'Counter-clockwise'.
- Start Angle:** A text input field containing the value '0'.
- Number of Sectors:** A text input field containing the value '4'.
- OK:** A button at the bottom center.

Polar Chart Options Dialog

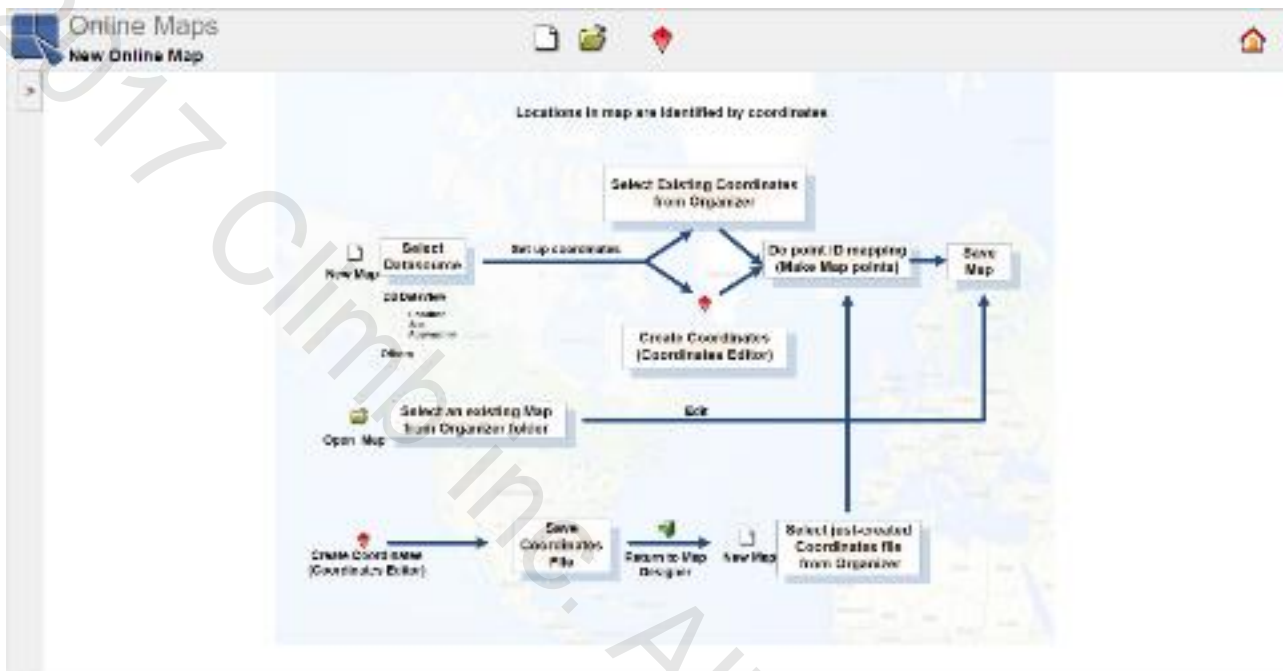
ポーラチャートに有効なオプションは以下の通りです。

- **Scale（スケール）：**
入力データの位相（ θ ）をラジアンと度数のどちらで表すかを指定します。チャートは常に角度を 0～360 で表示します。入力データの単位がラジアンの場合、度数で表示されます。
- **Direction（方向）：**
円形のプロットが時計回りと反時計回りのどちらで描かれるかを指定します。
- **Start Angle（開始角度）：**
ポーラチャートプロットのはじめは、デフォルトでは 0 度ですが、それを変更することができます。角度は Scale オプションの選択に応じて、度数かラジアンで指定します。
- **Number of Sectors（セクター数）：**
チャートに表示するセクター数を指定できます。セクターはポーラ軸の線を指定の角度ごとに引くことによって作られます。デフォルトでは、4 セクターが用意されます。

6 オンラインマップの起動


6.1 オンラインマップの起動

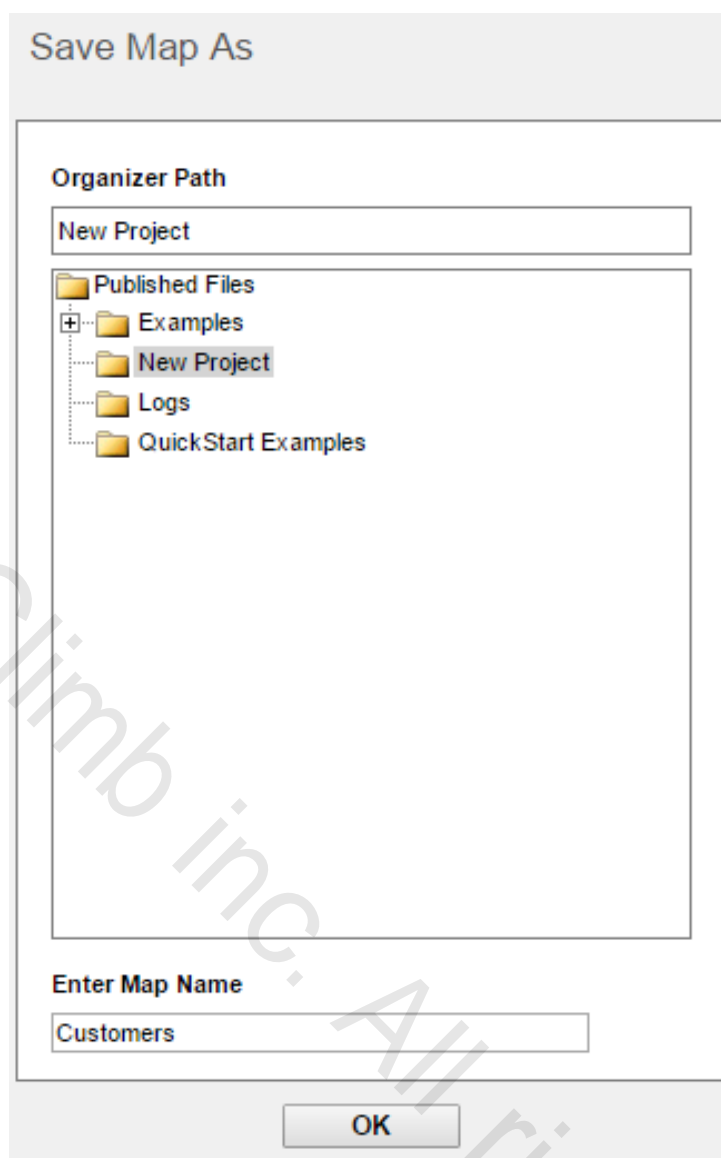
Online Maps を起動するには、ERES メインページの Online Maps リンクをクリックします。Online Maps を起動すると、そのしくみや使い方を示すダイアグラムが表示されます。そして、新規のマップを作成したり、既存のマップを開いたり、Coordinates Editor を開いて Coordinates（座標）を作成／編集することができます。




Online Maps Start Options

6.2 オンラインマップの保存

オンラインマップを保存するには、ツールバーの Save ボタン  をクリックします。ダイアログが開かれ、マップに名前を付けることができます。マップを保存したいプロジェクトを選択し、OK ボタンをクリックすれば、マップが保存されます。




Save Dialog

既存のオンラインマップを開いている場合、Save As ボタン  を用いて、既存のマップ、あるいはそれを修正したマップを新しい名前を付けて保存や、別の場所に保存することができます。

6.3 ヒートマップ

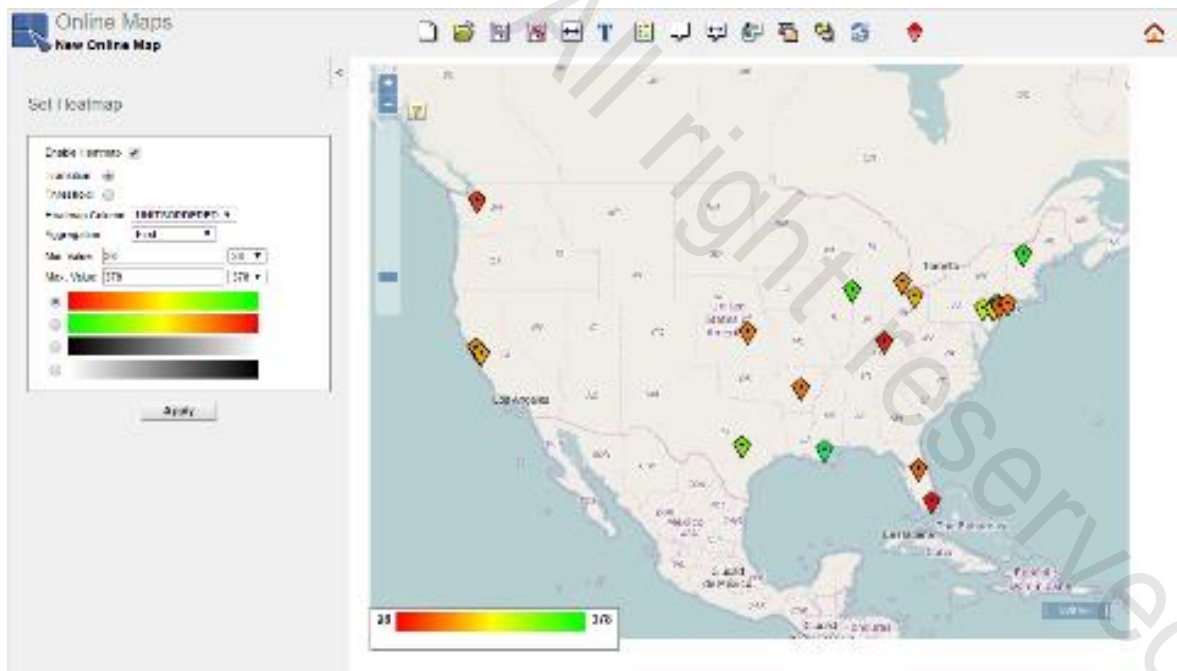
ヒートマップ（Heatmap）は、データソースのカラムの値に応じてマップポイントを異なる色で表示することができます。ヒートマップには transition と threshold の 2 種類のタイプがあります。

データソースによっては、座標（coordinates）ファイルのマップポイントに複数のレコードが属する場合があります。その場合は、Aggregation オプションによって、任意の方法で値を集約する必要があります。デフォルトの Aggregation オプションは First に設定されていますが、First（最初の値のみ）の使用は、マップポイントが複数レコードを予期しない場合のみに推奨されます。その他のケースでは、個々に最適な Aggregation を選択してください。

ヒートマップを設定するには、ツールバーの Set Heatmap アイコン  をクリックします。それにより、左ペインに Set Heatmap ダイアログが表示されます。最初に、Enable Heatmap オプションのチェックボックスから選択を外し、ヒートマップタイプを Transition か Threshold のどちらかから選びます。それにより、Set Heatmap ダイアログの内容が調整されます。

- **Transition Heatmap:**

ドロップダウンリストから Heatmap Column を選択した後、Aggregation を選択し、選択されたカラムの最大値と最小値を設定します。また、ドロップダウンリストからカラムの実際の値を選ぶことも可能です。そして、色のグラデーションを選び、Apply をクリックしてマップ設定を適用します。

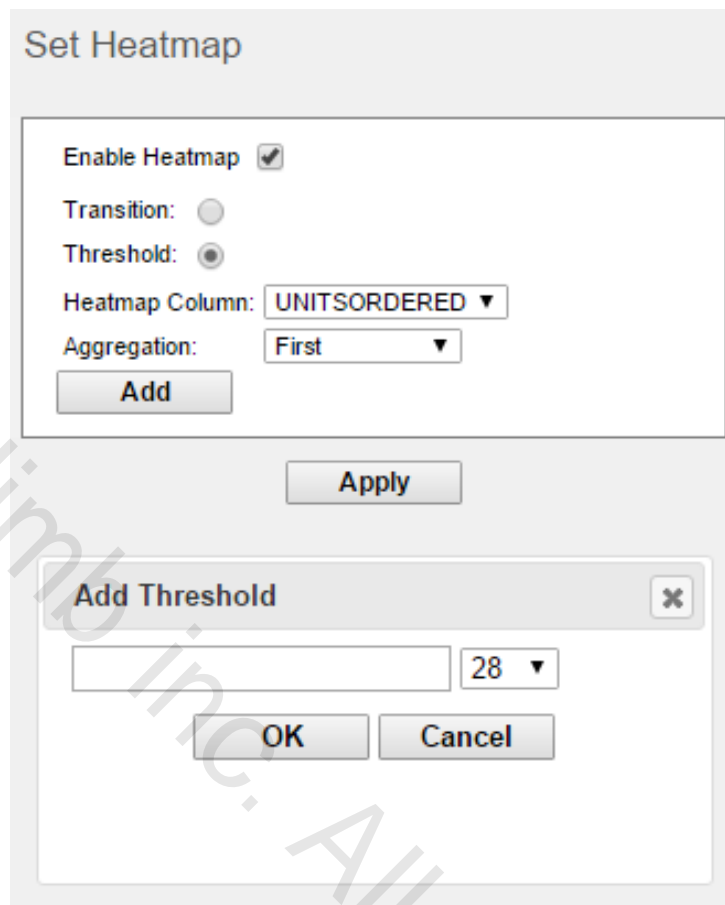


Set Transition Heatmap

ヒートマップは、Enable Heatmap オプションのチェックボックスにより、有効にしたり無効にしたりすることができます。

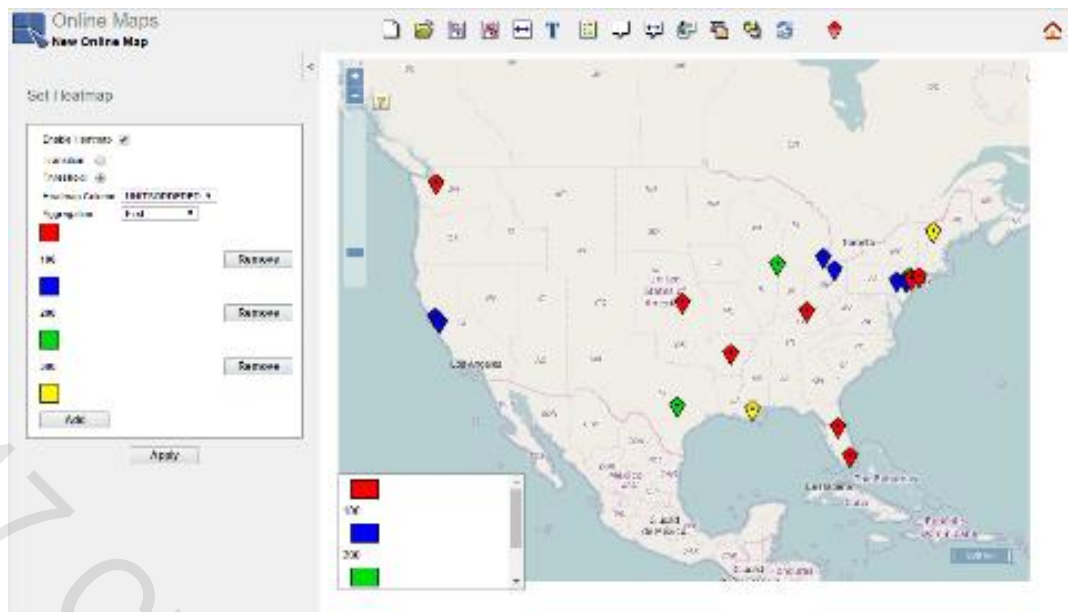
- **Threshold Heatmap:**

ドロップダウンリストから Heatmap Column を選択した後、Aggregation を選択し、Add ボタンをクリックして threshold を追加します。それにより、Add Threshold ダイアログが表示されます。



Set Threshold Heatmap

Threshold value（境界値）を入力するか、あるいは、ドロップダウンリストからカラムの実際の値を選び、OK をクリックします。次の境界値も同じ手順で設定します。そして、色の表示板をクリックして各境界値に色を割り当てます。最後に、設定をヒートマップに適用するには、Apply をクリックします。

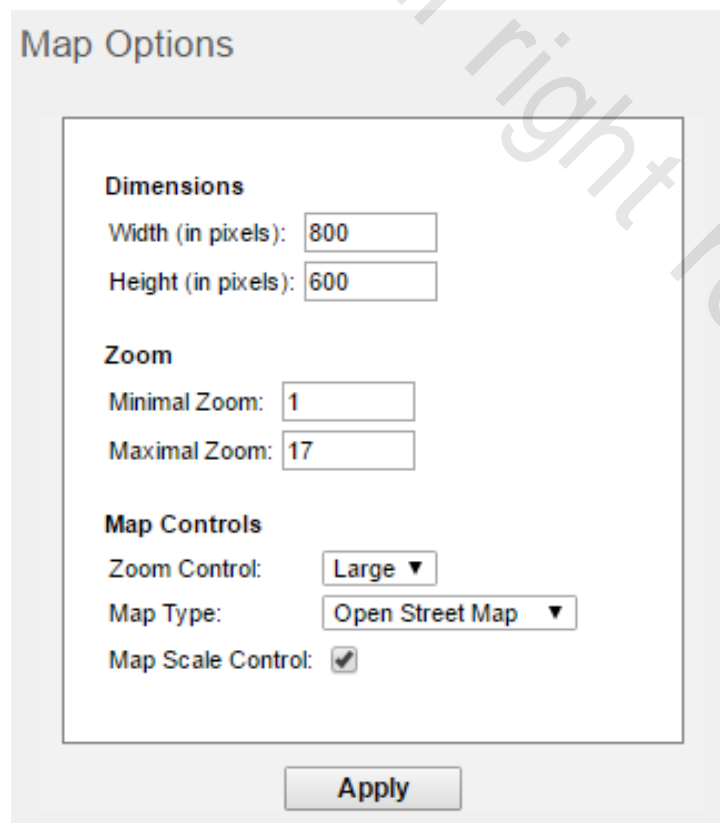


Set Threshold Heatmap

Threshold（境界値）を削除するには、その横の Remove ボタンをクリックします。ヒートマップは、Enable Heatmap オプションのチェックボックスにより、有効にしたり無効にしたりすることができます。

6.3.1 マップオプション

マップオプションを設定するには、ツールバーの Set Map Options アイコン  をクリックします。



Map Options

Dimensions:

マップの横サイズ（width）と縦サイズ（height）をピクセルで指定できます。

Zoom:

最小（minimal）と最大（maximal）の拡大倍率を指定できます。（範囲は 1 から 17）

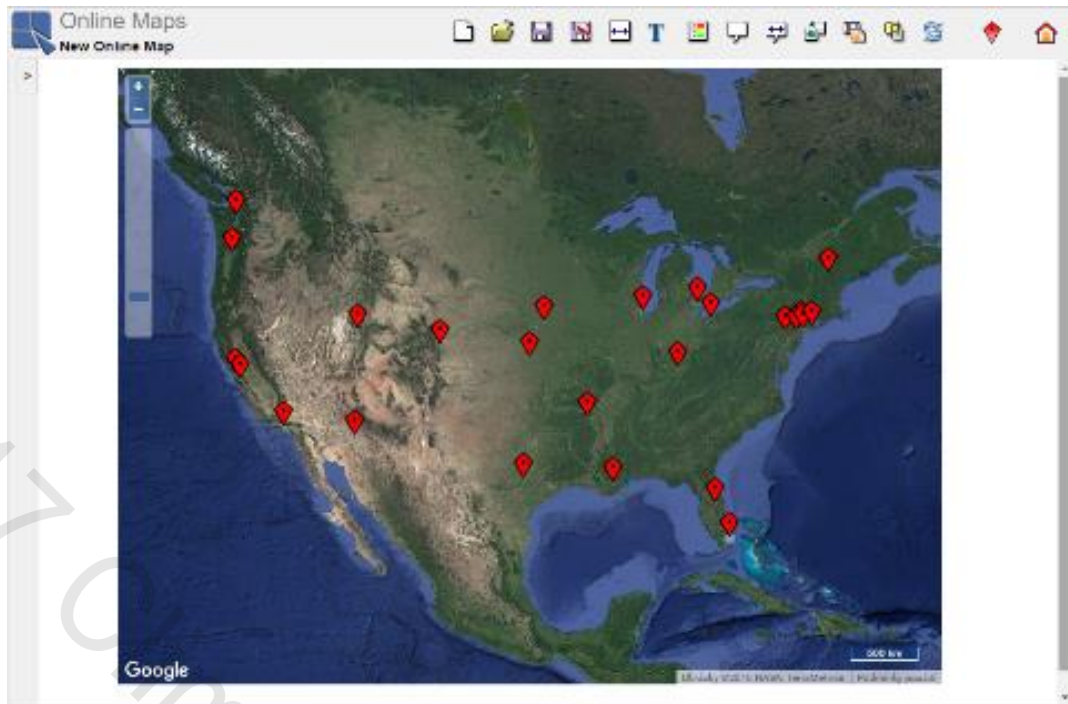
Map Controls:

Zoom Control（ズーム制御） — ズームの制御ボタン（拡大、縮小、なし）を左上隅に表示するか否か指定できます。



Zoom Control Large

Map Type — マップタイプ（Open Street Map、Google Street Map、Google Satellite）を設定できます。



Google Satellite

Map Scale Control (マップ縮尺制御) — マップ縮尺ボタンを右下隅に表示するか否か指定できます。

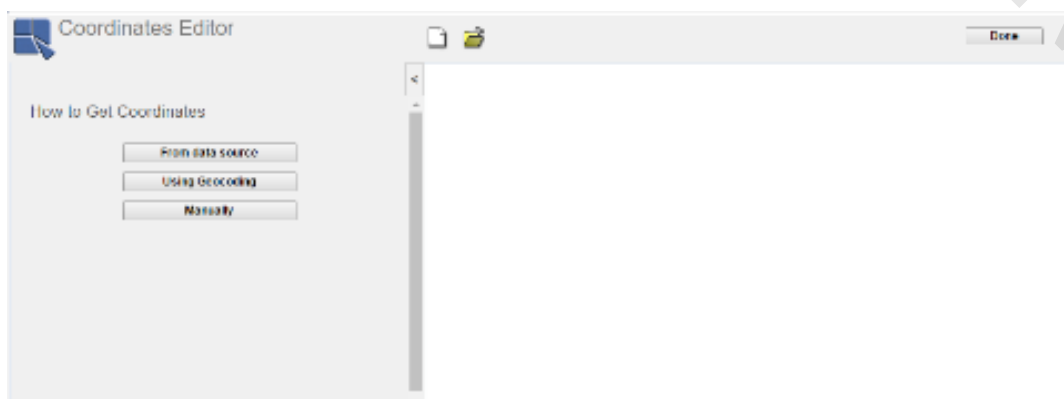


Scale Control

6.3.2 Coordinates の作成

Coordinates (座標) ファイルにはマップポイントの座標が保存されます。Coordinates データレコードは WKT (自動あるいは手動で取得) と Point ID から構成されます。注: 既存の Coordinates ファイルや緯度/経度カラムを持つデータソースも従来通りサポートされますが、WKT のみジオコードまたは手動入力により生成されます。

データソース選択後、そこから座標情報の取得方法を選択するためのプロンプトが表示されます。



Coordinates（座標）の取得

座標情報を取得する方法は、以下示されるように、3 通りあります。個々のポイント ID のステータスは、pointID テーブルにおいて色で識別されます。

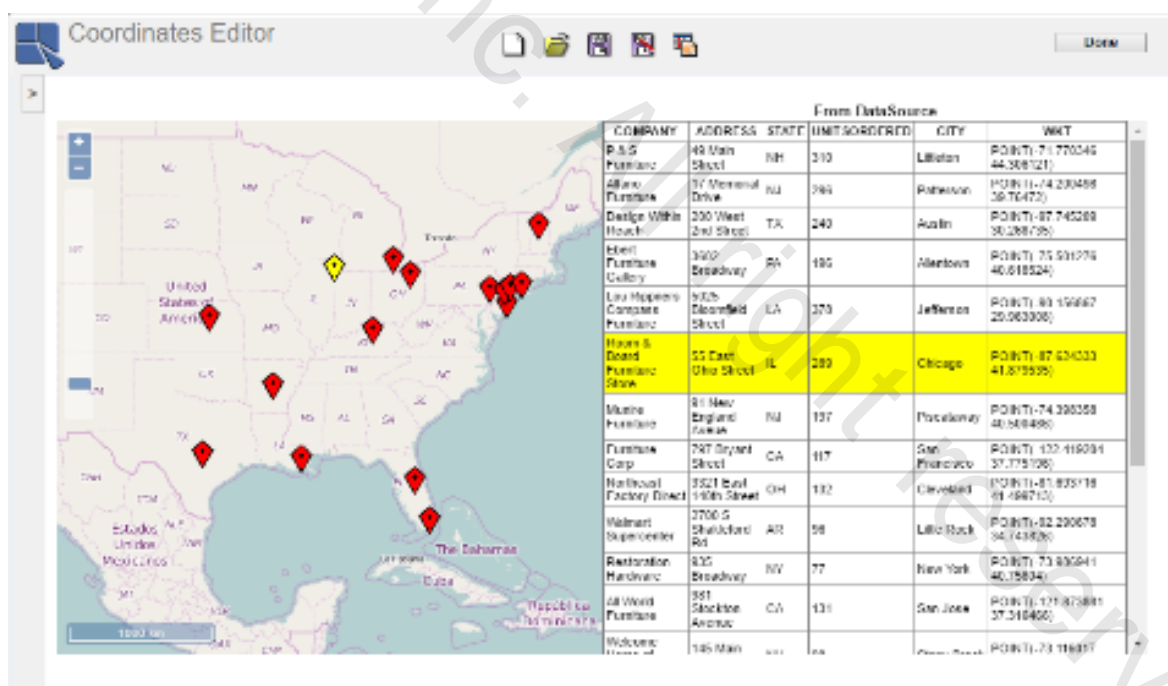
データソースから取得

2 種類の数値データカラム（緯度と経度）か、特定マップポイントの WKT データを必要とします。緯度と経度は異なるカラムになければならず、データタイプは double、値は 10 進法表記でなければなりません。正数の緯度は北緯、負数の緯度は南緯、正数の経度は東経、負数の経度は西経を表します。

この場合、緯度経度のマップポイントは、座標を用いるマップが開かれるたびにデータソースから読み込まれます。データソースに変更があれば、それがマップに反映されます。例えば、新しいマップポイントが追加されると、それがマップに表示されます。したがって、Coordinates（座標）ファイルを編集する必要はなく、データソースを更新すれば充分です。

ジオコードあるいは手動挿入によりマップポイント座標が追加する場合は、マップポイント追加または修正（移動）のたびに Coordinates ファイルを編集する必要が生じます。

座標情報がデータソースから取得された場合は、マップポイントはそのデータにもとづいて自動的に配置され、すべてのレコード行は白く表示されます。その場合、Coordinates は読み取り専用で、マウスをマップメーカー／Point ID に合わせてホールドすることにより、どの Point ID にどのマップメーカーが属するかの確認のみ可能です。関連付けられた Point ID とマップメーカーは黄色のハイライト表示となります。マップポイントを移動したいときは、直接データソースを修正する必要があります（相当するデータソースカラムにおいて緯度経度もしくは WKT を変更します）。



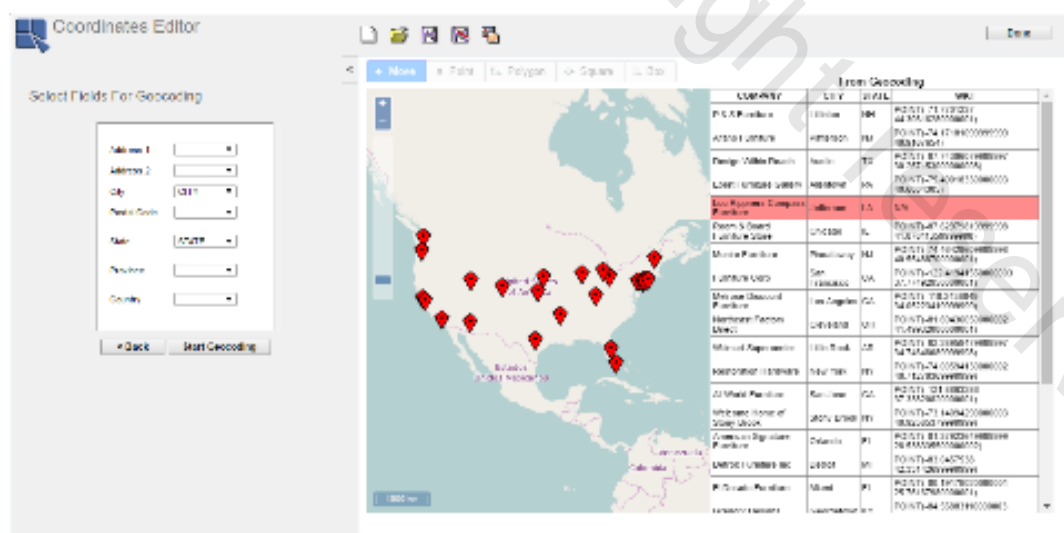
データソースからの座標情報

ジオコードによる設定

位置情報はポイントアドレスにより自動的に決定されます。アドレスには複数のデータソースカラムを含めることができます。Address 1（住所 1）、Address 2（住所 2）、City（市区町村）、Postal Code（郵便番号）、State、Province（州、都道府県）、Country（国）などのカラムを含められます。ただし、フィールドによっては、前もって自動選択されるカラム（convenient column）もあります。（例えば、データソースのカラム City が、City フィールドに自動選択されます。）フィールドはすべて埋める必要はありません。空欄は自動的に手動入力オプション用に切り替えられます。また、ジオコードのフィールド名は説明上のためのものであり、必ず正確な情報を指定する必要はありません。より具体的な情報（例えば、番地）を、それに比べ具体的ではない情報（例えば、県）より優先させることが大切です。よって、データソースのフィールドが複数のときに、最適なフィールドを最初に選択します。例えば、完全な住所フィールドがある場合、それを Address 1 に使用して、残りは空欄にします。ジオコードはとても適応性が高いので、特別な住所フォーマットを必要とせず、不正確／不完全な住所でも見つけることができます。

注：ジオコードはすべての国でサポートされているとは限りません。サポートされる国の一覧は、[Google Maps Coverage](#) の国リストを参照してください。

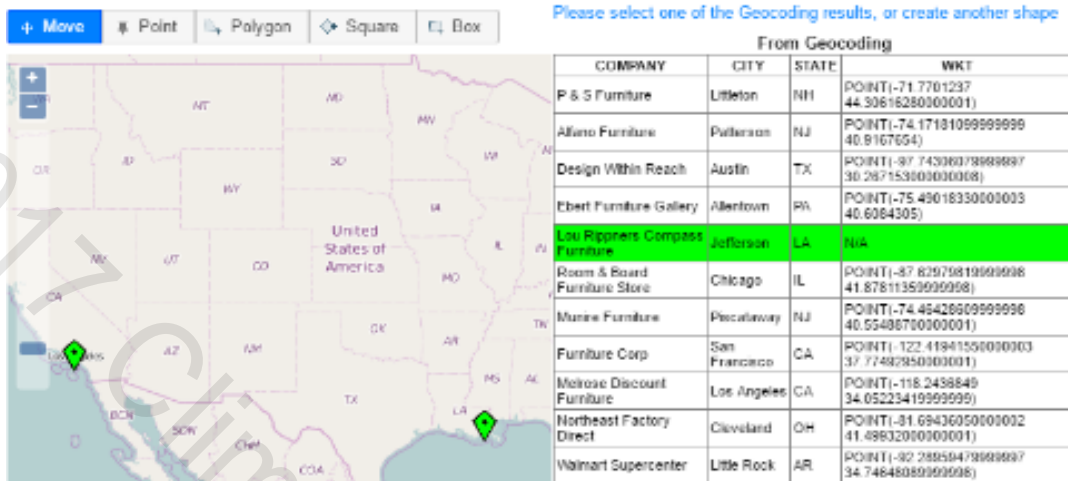
ジオコード設定を選択すると、ジオコード処理が直ちに開始されます。すべての Point ID が検証され、住所にもとづいて、相当するポイントが決定されます。唯一無二の結果が見つかった場合はマップポイントが自動的に挿入されます。配置された新ポイントとその Point ID が一瞬黄色く表示され、その後 Point ID が白に変わります。白色表示は、ポジションが決定されたことを示します。ジオコード処理中、ツールバーは無効化されるので、他の処理を実行するには、ジオコード処理が完了し、ツールバーが再び使用可能になるのを待たなければなりません。ジオコード処理の進捗状況はステータスバーから確認できます。ジオコード処理が終わったら、自動的に挿入されなかったポイントを手動で挿入する必要があります。ジオコードによって見つからなかったか、あるいは複数見つかった場合が、それに当たります。その作業は、後述の手動によるポイント設定と同じです。



ジオコードによる座標設置

ジオコードを使用し、残りのポイントを手動で挿入する際、Point ID はクリックしたときに濃い赤色から緑色に変わる場合があります。ジオコードの処理結果が複数ある場合にそうなります。結果は Online Map に緑マーカーで表示され、

正しいポイントをクリックすることが可能になります。ジオコード処理結果の中に適当なマップポイントが見つからない場合、手動挿入と同じ方法で正しい所在地にマップポイントを手動配置することができます。ジオコード処理結果（緑色マップマーカー）にマウスを合わせてホールドすると、マップポイントの完全な住所が表示され、正確な場所を識別することができます。



Please select one of the Geocoding results, or create another shape

From Geocoding

COMPANY	CITY	STATE	WKT
P & S Furniture	Littleton	NH	POINT(-71.7761237 44.33616280000001)
Allano Furniture	Patterson	NJ	POINT(-74.17181099999999 40.8167654)
Design Within Reach	Austin	TX	POINT(-97.74306078999997 30.287153000000008)
Ebert Furniture Gallery	Allentown	PA	POINT(-75.49018330000003 40.6084305)
Los Rippers Compass Furniture	Jefferson	LA	N/A
Room & Board Furniture Store	Chicago	IL	POINT(-87.62979819999998 41.878113500000008)
Munro Furniture	Piscataway	NJ	POINT(-74.45426609999999 40.55486700000001)
Furniture Corp	San Francisco	CA	POINT(-122.41841550000003 37.77492950000001)
Melrose Discount Furniture	Los Angeles	CA	POINT(-118.2438849 34.052234199999999)
Northeast Factory Direct	Cleveland	OH	POINT(-81.69436050000002 41.48932000000001)
Walmart Supercenter	Little Rock	AR	POINT(-92.28556478999997 34.746480899999998)

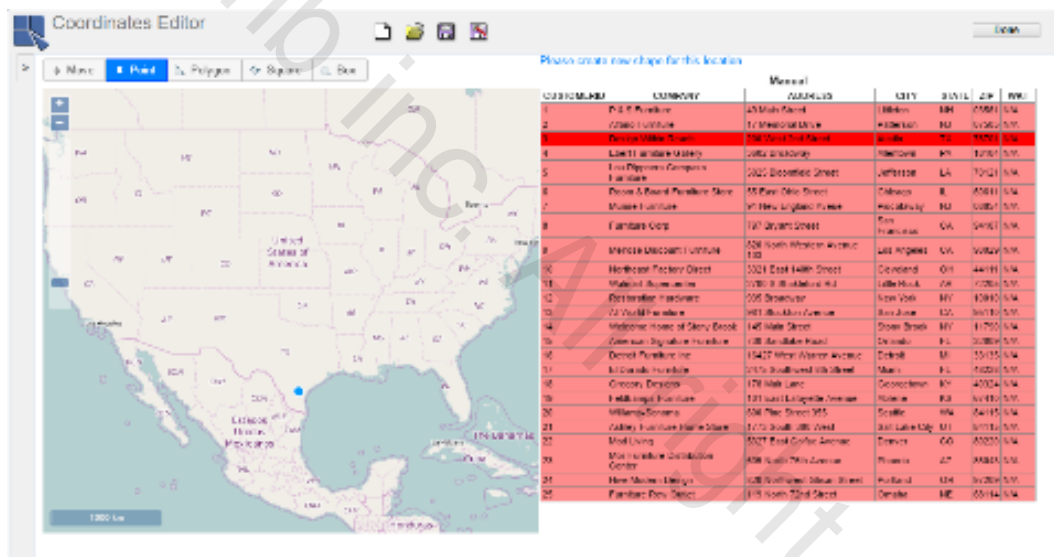
ジオコード処理結果の選択

ジオコード処理は 100%正確とは言いきれません。自動挿入された結果のマップポイントは、すべて検証することが推奨されます。

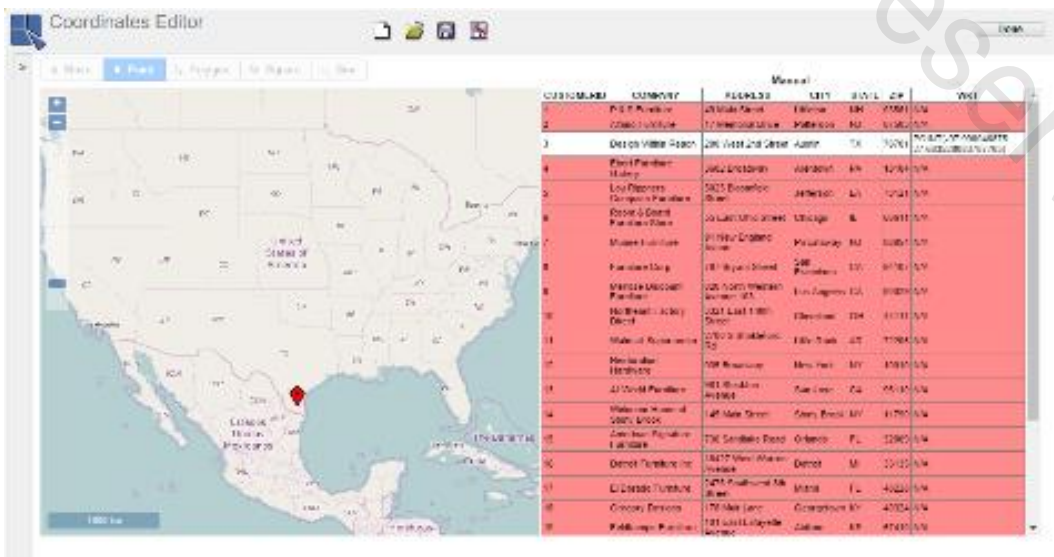
手動設定

地理情報は一切必要とせず、マップポイントの座標はクリックすることにより手動で決定されます。

手動設定の場合、Point ID は最初すべて薄い赤色で、それにより、ポジションが未定なことが示されます。マップポイントを配置するには、まず Point ID (テーブルのレコード行) をクリックします。Point ID の行は濃い赤色に変わります。マップツールバーの Point オプションはデフォルト設定で有効 (Point は青色) になっています。マップにマウスを合わせると、マウスポインターの位置に小さな青い円が表示されるので、マップポイントを配置したい場所が決まったら、マウスをクリックします。選択されたマップポイントに新しいマップマーカーが置かれ、対応するレコード行が白色に変わります。以上の作業を、次のマップポイントに対して繰り返すことにより、必要なポイントを作成して行きます。マップ上を自由にナビゲートするには、ツールバーの Move オプションを選択します。それにより、マップを移動、拡大することができ、また、マップ上の場所を定義するための形状も、マップツールバーの多角形、四角形、ボックスから選んで、変更することができます。形状を選んだ後、マウスをクリックして最初のポイントを指定し、マウスを動かして次のポイントを指定すれば、選択した形が使用されます。



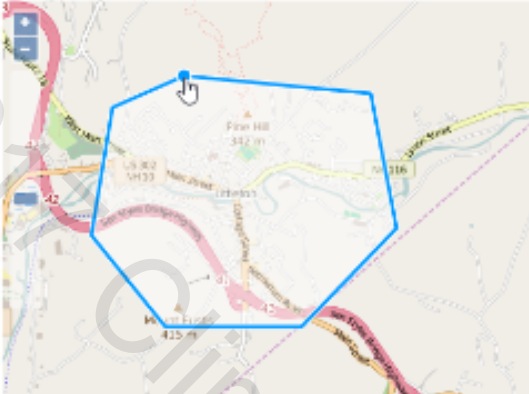
場所の選択



場所の確定


下図はマップの場所を定義する形状の作成過程です（青色）。決定後、赤に変わります。

Creating Polygon
Please create new shape for this location



COMPANY	CITY	STATE	WKT
P & S Furniture	Litton	NH	POINT(-71.77616318238746 44.39855993243935)
Allard Furniture	Patterson	NJ	POINT(-74.17161099569999 40.9167854)
Design Within Reach	Austin	TX	POINT(-97.74388979559997 30.267153300000003)
East Furniture Gallery	Allentown	PA	POINT(-75.48018330000003 40.584305)
Lou Rigniers Compass Furniture	Jefferson	LA	POINT(-90.1531298 29.988570399999994)
Room & Board Furniture Store	Chicago	IL	POINT(-87.6297194358673 41.87760829664544)
Marine Furniture	Piscataway	NJ	POINT(-74.4642693866888 40.55486700000001)
Furniture Corp	San Francisco	CA	POINT(-122.41941550000003 37.77452950000001)
Melrose Discount Furniture	Los Angeles	CA	POINT(-118.2438849 34.05225418666882)
Northeast Factory Direct	Cleveland	OH	POINT(-81.68436950000002 41.49820000000001)
Walmart Supercenter	Little Rock	AR	POINT(-92.38659479668997 34.74848093560998)

Finished Polygon




COMPANY	CITY	STATE	WKT
P & S Furniture	Litton	NH	POLYGON((-71.77754402160645 44.318382311485184 -71.793248826709 44.31654093762739 -71.74647311237794 44.3024143565367 -71.7903778391113 44.292099392737486 -71.780299808377 44.28069380737486 -71.79116570336574 44.30167724142123 -71.78801536560059 44.31508972291047 -71.7754432180845 44.318367811465164))
Allard Furniture	Patterson	NJ	POINT(-74.17161099569999 40.9167854)
Design Within Reach	Austin	TX	POINT(-97.74388979559997 30.267153300000003)
East Furniture Gallery	Allentown	PA	POINT(-75.48018330000003 40.584305)
Lou Rigniers Compass Furniture	Jefferson	LA	POINT(-90.1531298 29.988570399999994)
Room & Board Furniture Store	Chicago	IL	POINT(-87.6297194358673 41.87760829664544)

Polygon (多角形)

Creating Square

Please create new shape for this location


+ Move x Point Polygon **Square** Box



From Geocoding			
COMPANY	CITY	STATE	WKT
P & S Furniture	Littleton	NH	POINT(-71.7703594 42.11664430615353753319)
Allene Furniture	Patterson	NJ	POINT(-74.17181099999999 40.9167554)
Design Within Reach	Austin	TX	POINT(-97.74398619399999 30.26715300039999)
Ebert Furniture Gallery	Allentown	PA	POINT(-75.49018330039999 40.6084305)
Lou Rigniers Compass Furniture	Jefferson	LA	POINT(-90.1531296 29.966037099999994)
Room & Board Furniture Store	Chicago	IL	POINT(-87.6291764358673 41.877999206545544)
Murks Furniture	Piedmont	NJ	POINT(-74.46438609999999 40.55489700039999)
Furniture Corp	San Francisco	CA	POINT(-122.41941559399999 37.74029500039999)
McKays Discount Furniture	Los Angeles	CA	POINT(-118.2438848 34.05223419999999)
Northwest Factory Direct	Cleveland	OH	POINT(-81.69438650039999 41.48632900039999)
Walmart Supercenter	Little Rock	AR	POINT(-92.28959478899997 34.74648085999999)

Finished Square

+ Move x Point Polygon **Square** Box



From Geocoding			
COMPANY	CITY	STATE	WKT
P & S Furniture	Littleton	NH	POLYGON((-71.7488939172362 44.294438449341206 -71.75385475158691 44.324891821764504 -71.79542677387129 44.31778881891301 -71.78847641328801 44.28739164657792 -71.74388639172362 44.284428449341206))
Allene Furniture	Patterson	NJ	POINT(-74.17181099999999 40.9167554)
Design Within Reach	Austin	TX	POINT(-97.74398619399999 30.26715300039999)
Ebert Furniture Gallery	Allentown	PA	POINT(-75.49018330039999 40.6084305)
Lou Rigniers Compass Furniture	Jefferson	LA	POINT(-90.1531296 29.966037099999994)
Room & Board Furniture Store	Chicago	IL	POINT(-87.6291764358673 41.877999206545544)
Murks Furniture	Piedmont	NJ	POINT(-74.46438609999999 40.55489700039999)

Square (四角形)

Creating Box

Please create new shape for this location

From Geocoding

COMPANY	CITY	STATE	WKT
P. S. Furniture	Littleton	NH	POINT(-71.7027822837778 44.3060071553943)
Alfano Furniture	Patterson	NJ	POINT(-74.1718109999999 40.9167954)
Design Within Reach	Austin	TX	POINT(-97.7430607999997 30.2671530000000)
Ebert Furniture Gallery	Allentown	PA	POINT(-75.4901833000000 40.6084305)
Lou Rippner's Compass Furniture	Jefferson	LA	POINT(-90.1531298 29.9660370000000)
Room & Board Furniture Store	Chicago	IL	POINT(-87.6287104358673 41.8779952068455)
Munro Furniture	Pasadenay	NJ	POINT(-74.4842860999999 40.5548870000001)
Furniture Corp	San Francisco	CA	POINT(-122.4194159300000 37.7748295000000)
Melrose Discount Furniture	Los Angeles	CA	POINT(-118.2432049 34.0522341000000)
Northcoast Factory Direct	Cleveland	OH	POINT(-81.6943865000000 41.4063200000000)
Walmart Supercenter	Little Rock	AR	POINT(-92.2893947999999 34.7464000000000)

Finished Box

From Geocoding


COMPANY	CITY	STATE	WKT
P. S. Furniture	Littleton	NH	POLYGON((-71.7888736724855 44.31887410271947 -71.7888736724855 44.29541138927053 -71.743360340768278 44.29541138927053 -71.743360340768278 44.31887410271947 -71.7888736724855 44.31887410271947))
Alfano Furniture	Patterson	NJ	POINT(-74.1718109999999 40.9167954)
Design Within Reach	Austin	TX	POINT(-97.7430607999997 30.2671530000000)
Ebert Furniture Gallery	Allentown	PA	POINT(-75.4901833000000 40.6084305)
Lou Rippner's Compass Furniture	Jefferson	LA	POINT(-90.1531298 29.9660370000000)
Room & Board Furniture Store	Chicago	IL	POINT(-87.6287104358673 41.8779952068455)
Munro Furniture	Pasadenay	NJ	POINT(-74.4842860999999 40.5548870000001)

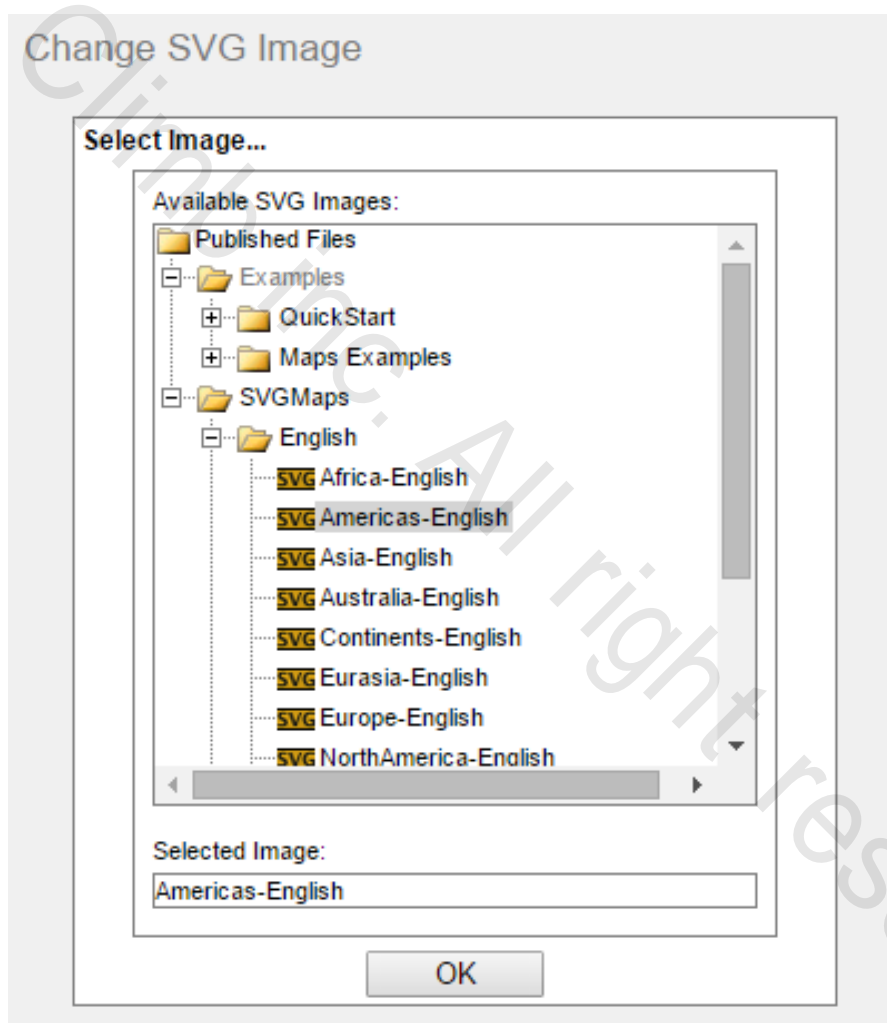
Box (ボックス)

既存のマップポイントはすべて、マップマーカをマウスでドラッグすることにより移動することができます。またマップ位置指定の形状はサイドラインをマウスでドラッグすることにより、自由に伸縮することができます。

7 SVG イメージの変更 — SVG Maps

SVG Map は、Online Maps とは異なり、マップポイントではなく、マップエリアにもとづいて作成されます。マップエリアの座標は SVG (Scalable Vector Format - スケーラブルベクターフォーマット) イメージによって定義されます。

バージョン 7.0 では、作成済みの SVG イメージが変更できるようになりました。作成済みの SVG マップに対し、SVG イメージを変更するには、ツールバーの Change SVG Image アイコン  をクリックします。表示されたツリーリストからイメージを選択し、OK をクリックして新しいイメージを適用します。



SVG イメージの変更

8 更新履歴

版	修正日	修正者	内容
1.0	2017/03/30(木)	A.I	初版